

PrintPro 2.0
帳票設計の操作

1.1 データ印刷までの流れ

本製品での印刷に必要な情報は、すべて帳票定義ファイルに収めます。このため、本製品を使ってデータを印刷するときには、まず帳票定義ファイルを作成します。

帳票定義ファイルには、印刷するデータの構造を定義します。帳票定義ファイルには、最大 1,500 件の項目を定義できます。例えば、注文書に印刷するデータは、次のような構造になります。

項目番号	項目名称	データ型	桁数
1	得意先名	文字	20
2	商品名	文字	20
3	数量	文字	5

また、帳票定義ファイルには、印刷する帳票のレイアウトをフォームとして定義します。帳票定義ファイルには、最大 9,999 個のフォームを作成できます。フォームは、いくつかのオブジェクトを組み合わせで作成します。例えば、表、図形、文字列、バーコードなどがフォームを構成するオブジェクトです。

1 つの帳票定義ファイルに対して複数のフォームを作成することで、用途に合わせてデータを印刷できます。例えば、顧客データを扱う帳票定義ファイルに対して、ラベル用、ハガキ用、送状用などの複数のフォームを用意することで、1 つの帳票定義ファイルを使って顧客データをラベル、ハガキ、送状のそれぞれに印刷できます。また、納品データを扱う帳票定義ファイルに対して、A 社用、B 社用、C 社用といった得意先ごとのフォームを用意することで、得意先コードに従って自動的にフォームを選択し、納品書を印刷することもできます。

印刷するデータは、TAB 区切り形式か CSV 形式で作成します。印刷するデータを作成することで、本製品とアプリケーションを組み合わせ、そのデータを帳票に出力できます。

帳票定義ファイルの 作成

2.1 データ定義の設定

2.1.1 データ定義の作成

帳票定義ファイルを作成します。

- 1 [ファイル (F)] メニューの [新規作成 (N)] メニューコマンドを選択します。

[データ定義 作成/変更] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [項目名称 (N)]、[データ型 (D)]、[桁数 (C)]、[テキスト固定文字・演算式 (T)] に適切な値を設定します。次に、それぞれの項目に設定できる内容を示します。

項目名	設定内容
項目名称 (N)	項目の名称を 20 文字以内で設定します
データ型 (D)	項目のデータ型を設定します
桁数 (C)	項目オブジェクトの文字数を設定します
テキスト固定文字・演算式 (T)	集計項目、演算式、文字列のいずれかを設定します

データ定義 作成/変更

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字・演算式(T)

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	発行年	数値	2	
2	発行月	数値	2	
3	発行日	数値	2	



- [データ定義 作成/変更] ダイアログボックスでは、印刷データの順序に合わせて項目を設定します。
- 1つの帳票定義ファイルには、最大 1,500 個の項目を設定できます。
- テキスト固定文字・演算式 (T) は、[データ型] に“集計”、“演算”、“固定”を設定したときに有効になります。
- 設定した内容は、自動的に [項目一覧] に反映されます。



[データ定義 作成/変更] ダイアログボックスの詳細については、『PrintPro 2.0 帳票設計ユーザーズマニュアル』を参照してください。

- 3 [項目一覧] で新たな行を選択し、[項目名称 (N)] や [データ型 (D)] などの設定を続けます。

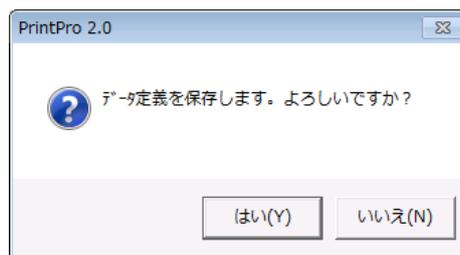


[項目一覧] では、既存の行を選択して、[挿入]、[クリア]、[削除] のいずれかのボタンをクリックすることで、新たな行を挿入したり、既存の行を削除したりできます。次に、それぞれのボタンの動作を示します。

ボタン名	動作
挿入	選択した行の前に、項目名称を“《挿入》”とした行を追加します
クリア	選択した行の設定内容を消去します
削除	選択した行を削除します

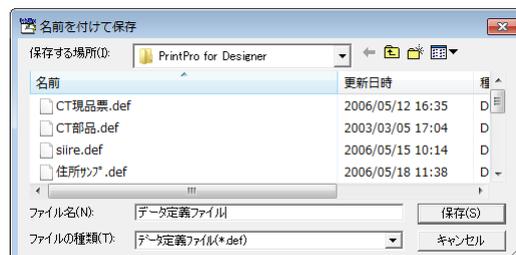
- 4 [OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

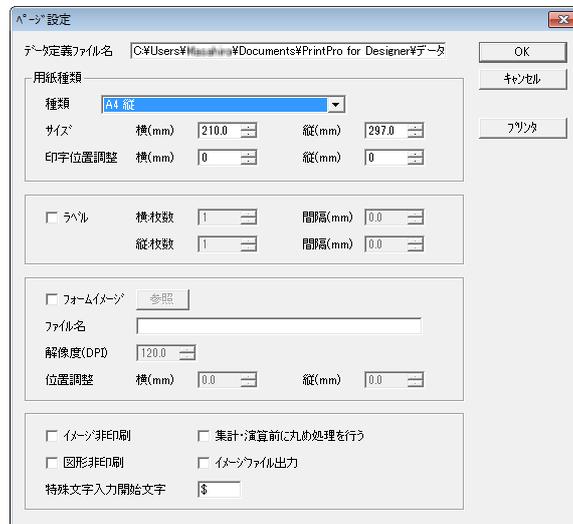


- 5 [はい (Y)] ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

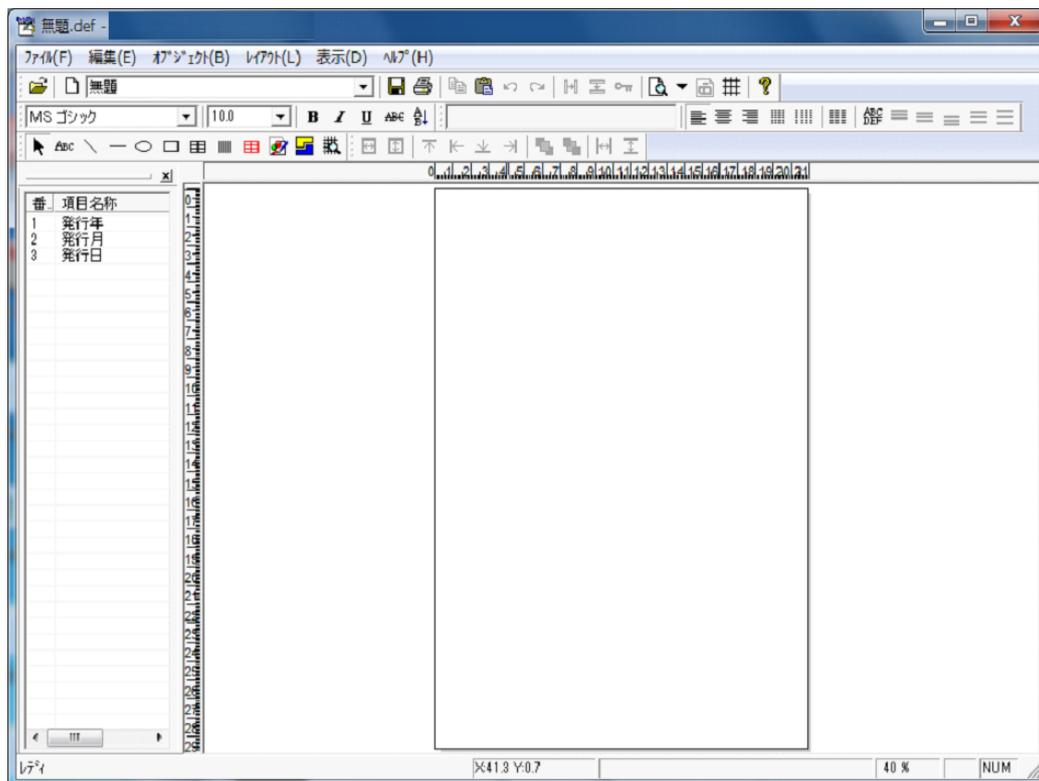


- 6 [ファイル名 (N)] に帳票定義ファイル名を設定し、[保存 (S)] ボタンをクリックします。
[ページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



- 7 [種類]、[サイズ]、[印字位置調整] などの項目に適切な値を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。



[ページ設定] ダイアログボックスの詳細については、『PrintPro 2.0 帳票設計ユーザーズマニュアル』を参照してください。

2.1.2 データ定義の修正

帳票定義ファイルの内容を修正します。

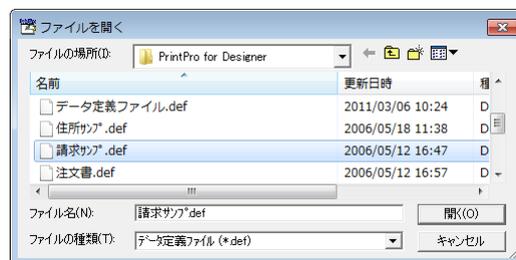
- 1 [ファイル (F)] メニューの [開く (O)] メニューコマンドを選択します。

[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。



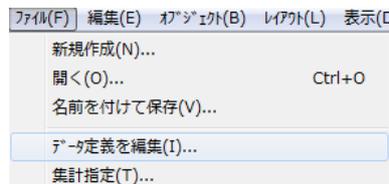
- 2 修正する帳票定義ファイルを選択し、[開く (O)] ボタンをクリックします。

帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。



- 3 [ファイル (F)] メニューの [データ定義を編集 (I)] メニューコマンドを選択します。

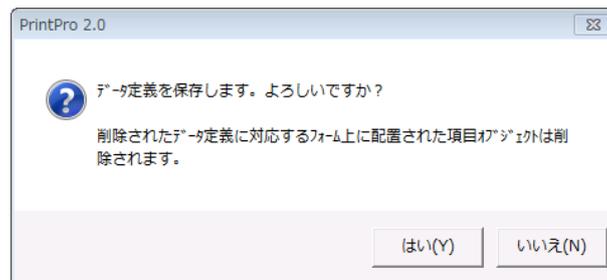
[データ定義 作成/変更] ダイアログボックスが表示されます。



- 4 項目の内容を修正します。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。



- 6 [はい (Y)] ボタンをクリックします。

修正した帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。

2.2 集計の設定

2.2.1 集計方法の設定

帳票定義ファイルに設定した項目から集計対象とするものを指定し、集計方法などを設定します。

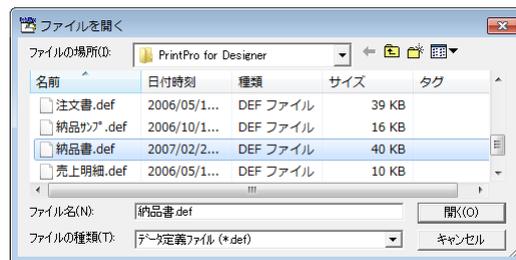
- 1 [ファイル (F)] メニューの [開く (O)] メニューコマンドを選択します。

[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。



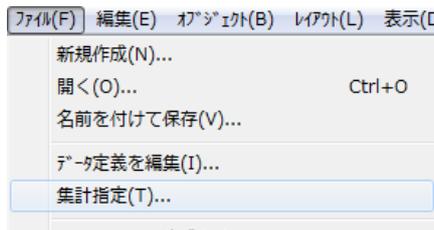
- 2 フォームを作成する帳票定義ファイルを選択し、[開く (O)] ボタンをクリックします。

帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。



- 3 [ファイル (F)] メニューの [集計指定 (T)] メニューコマンドを選択します。

[集計指定] ダイアログボックスが表示されます。



4 [集計機能を使用する] チェックボックスをオンにします。

集計機能が有効になります。



- [集計機能を使用する] チェックボックスがオフのときには、[集計指定] ダイアログボックスでの設定は無効です。
- 集計機能を使用したときには、明細範囲での明細方向として横方向は指定できません。
- 集計機能とフォームの自動切り替えをともに使用するときには、切り替えに使用するフォーム上に少なくとも 1 つの明細項目を設定してください。

5 [集計 1] ~ [集計 5] のいずれかのチェックボックスをオンにし、[項目]、[切出し]、[ヘッダー]などの各項目に適切な値を設定します。次に、それぞれの項目に設定できる内容を示します。

項目名	設定内容
項目	キーブレイクする項目を選択します。選択した項目の内容が 1 つ前のレコードのものと異なっていたときに、数値型や時間型の明細項目の集計が行われ、集計行が挿入されます
切出し	キーブレイクする項目のデータから特定の部分を切り出してキーブレイク判定を行うときに、チェックボックスをオンにし、判定対象とするデータ個所の開始桁と対象桁数を [開始桁] と [桁数] にそれぞれ設定します
ヘッダー	キーブレイク判定によってまとめられたグループの前にヘッダー行を挿入するときに、チェックボックスをオンにします
フッター	キーブレイク判定によってフッター行を挿入するときに、チェックボックスをオンにします

項目名	設定内容
前改ページ	ヘッダーやフッターの挿入直前で改ページ処理するとき、チェックボックスをオンにします
後改ページ	ヘッダーやフッターの挿入直後に改ページ処理するとき、チェックボックスをオンにします
高さ (mm)	ヘッダーやフッターの高さを設定します
ページ計	集計 5 をページ計として動作させるときに、チェックボックスをオンにします
総合計	総合計を印刷するとき、チェックボックスをオンにします



- [切出し] チェックボックスをオフにしているときには、[項目] で選択した項目のデータ全体によってキーブレイク判定が行われます。
- [ヘッダー] や [フッター] チェックボックスをオンにし、関係するオブジェクトのプロパティを設定するダイアログボックスで [ヘッダー (H)] や [フッター (F)] チェックボックスをオンにすることで、そのオブジェクトをヘッダー行やフッター行に印刷できます。例えば、[集計指定] ダイアログボックスで次のように [集計 3] の [フッター] チェックボックスをオンにしているものとします。

項目	切出し	開始桁	桁数	前改ページ	後改ページ	高さ(mm)
集計1 [4] 商品名	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー <input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
集計2 [3] 売上日	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー <input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
集計3 [2] 得意先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー <input checked="" type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00

このように設定しているときに、次のようにオブジェクトのプロパティを設定するダイアログボックスで [条件/明細行] タブの [フッター (F)] チェックボックスをオンにすると、オブジェクトの種類やデータ型に従ってフッター行が印刷されます。

条件	項目	判定値
無条件印刷	[1] タイトル	0 (-32768~32767)

明細行	フッター(F)
<input checked="" type="checkbox"/> 明細行(D)	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 集計行 1	<input type="checkbox"/> ヘッダー(H)
<input type="checkbox"/> 集計行 2	<input checked="" type="checkbox"/> フッター(F)
<input checked="" type="checkbox"/> 集計行 3	
<input type="checkbox"/> 集計行 4	
<input type="checkbox"/> 集計行 5	
<input checked="" type="checkbox"/> 総計行(T)	

- [集計 1] ~ [集計 5] か [総合計] の [ヘッダー] チェックボックスをオンにしたときには、次のオブジェクトやデータ型のプロパティを設定するダイアログボックスで [集計行 1] ~ [集計行 5] か [総計行 (T)] チェックボックスとともに [ヘッダー (H)] チェックボックスをオンにすることで、対応する内容がヘッダー行に印刷されます。

オブジェクト	データ型	ヘッダー行への印刷内容
明細項目	数値型	- (出力できない)
	時間型	
	文字型	ヘッダー行の直後に印刷されるレコードのデータ
	日付型	
	郵便番号型	
	電話番号型	
	イメージ型	
バーコード型		
固定文字		[明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)] チェックボックスをオンにしているオブジェクト自体
図形		
表		
固定イメージ		
固定バーコード		

- [集計 1] ~ [集計 5] か [総合計] の [フッター] チェックボックスをオンにしたときには、次のオブジェクトやデータ型のプロパティを設定するダイアログボックスで [集計行 1] ~ [集計行 5] か [総計行 (T)] チェックボックスとともに [フッター (F)] チェックボックスをオンにすることで、対応する内容がフッター行に印刷されます。

オブジェクト	データ型	フッター行への印刷内容
明細項目	数値型	集計値
	時間型	
	文字型	フッター行の直前に印刷されたレコードのデータ
	日付型	
	郵便番号型	
	電話番号型	
	イメージ型	
バーコード型		
固定文字		[明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)] チェックボックスをオンにしているオブジェクト自体
図形		
表		
固定イメージ		
固定バーコード		

- 固定項目オブジェクトは、ヘッダー行やフッター行に印刷できません。
- [ヘッダー] や [フッター] のチェックボックスをオンにしているにもかかわらず、[高さ (mm)] の設定値が“0.00 mm”であったときには、ヘッダーやフッターが明細行と同じ高さで印刷されます。
- 明細行の高さは、明細範囲の作成時に設定した行数によって決定されます。

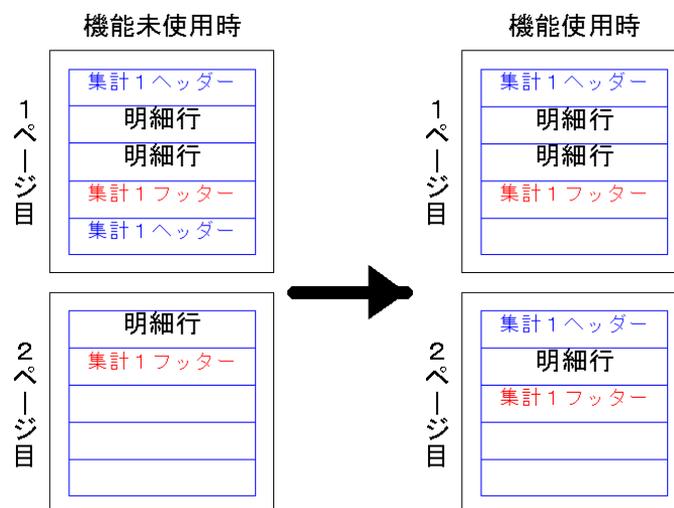
- [ページ計] チェックボックスをオンにしたときには、次のように動作します。
- 同一ページに総合計のフッターが印刷されるときには、その 1 つ前にページ計が印刷されます。
- 集計 1～集計 4 に対してヘッダーやフッターの挿入直前や挿入直後での改ページ処理が設定されているときには、集計 4 のフッター挿入直後の改ページ処理を除いて、ページ計は印刷されません。
- 集計 4 のフッター挿入直後の改ページ処理が設定されているときには、そのフッターの直前にページ計が印刷されます。ただし、そのページにデータが 1 レコードしかないときには、ページ計は出力されません。
- 明細行が 1 行もないページには、ページ計は印刷されません。

6 [明細行非印刷]、[集計行が続く場合改ページしない]、[集計 1 ヘッダーを先頭行に印刷する]などのチェックボックスを必要に応じてオンにします。次に、それぞれのチェックボックスによる動作を示します。

チェックボックス名	オン時の動作																										
明細行非表示	明細行を印刷しません																										
集計行が続く場合改ページしない	ヘッダーやフッターの [後改ページ] チェックボックスがオンであっても、明細行を挟まずに集計行が続くときには改ページ処理しません																										
集計 1 ヘッダーを先頭行に印刷する	集計 1 のヘッダーを明細先頭行に必ず印刷します																										
フッターを明細と同一ページに印刷する	集計行のフッターをすべて印刷できる領域をあらかじめ明細範囲内に確保し、集計行のみが新たなページに印刷されないようにします																										
明細行の行数を項目で指定する	<p>コンボボックスに指定した項目のデータ値に従って、レコードごとの明細行数を変更します。例えば、次のようなデータに対して、</p> <table border="1" data-bbox="997 1444 1252 1590"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行数</td> <td>データ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1</td> <td>AAA</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>PPPPP</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>TTTTTTT</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3</td> <td>EEEEEEEE</td> </tr> </tbody> </table> <p>次のように設定することで</p> <div data-bbox="853 1668 1396 1747" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> フッターを明細と同一ページに印刷する <input checked="" type="checkbox"/> 明細行の行数を項目で指定する [1] 行数 </div> <p>明細行数が次のように変更されます</p> <table border="1" data-bbox="957 1825 1292 2004"> <tbody> <tr> <td>AAA</td> <td>1行分</td> </tr> <tr> <td>PPPPP</td> <td>2行分</td> </tr> <tr> <td>TTTTTTT</td> <td>1行分</td> </tr> <tr> <td>EEEEEEEE</td> <td>3行分</td> </tr> </tbody> </table>		A	B	1	行数	データ	2	1	AAA	3	2	PPPPP	4	1	TTTTTTT	5	3	EEEEEEEE	AAA	1行分	PPPPP	2行分	TTTTTTT	1行分	EEEEEEEE	3行分
	A	B																									
1	行数	データ																									
2	1	AAA																									
3	2	PPPPP																									
4	1	TTTTTTT																									
5	3	EEEEEEEE																									
AAA	1行分																										
PPPPP	2行分																										
TTTTTTT	1行分																										
EEEEEEEE	3行分																										



[集計 1 ヘッダーを先頭行に印刷する] チェックボックスをオンにしている場合、集計 1 のヘッダーの印刷位置がページの最下端となったときには、そこへの印刷は行われず、改ページ処理が行われ、次ページの先頭行に集計 1 のヘッダーが印刷されます。



- 7 [保存] ボタンをクリックします。
[集計指定] ダイアログボックスが閉じます。

2.3 フォームの設定

2.3.1 フォームの作成

帳票定義ファイルに設定した項目、表、図形、文字列、バーコードなどのオブジェクトを配置してフォームを作成します。



1 つの帳票定義ファイルに対して、最大 9,999 個のフォームを作成できます。

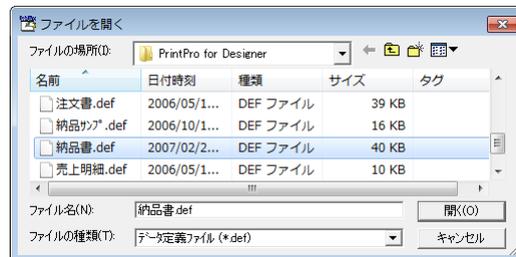
- 1 [ファイル (F)] メニューの [開く (O)] メニューコマンドを選択します。

[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 フォームを作成する帳票定義ファイルを選択し、[開く (O)] ボタンをクリックします。

帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。



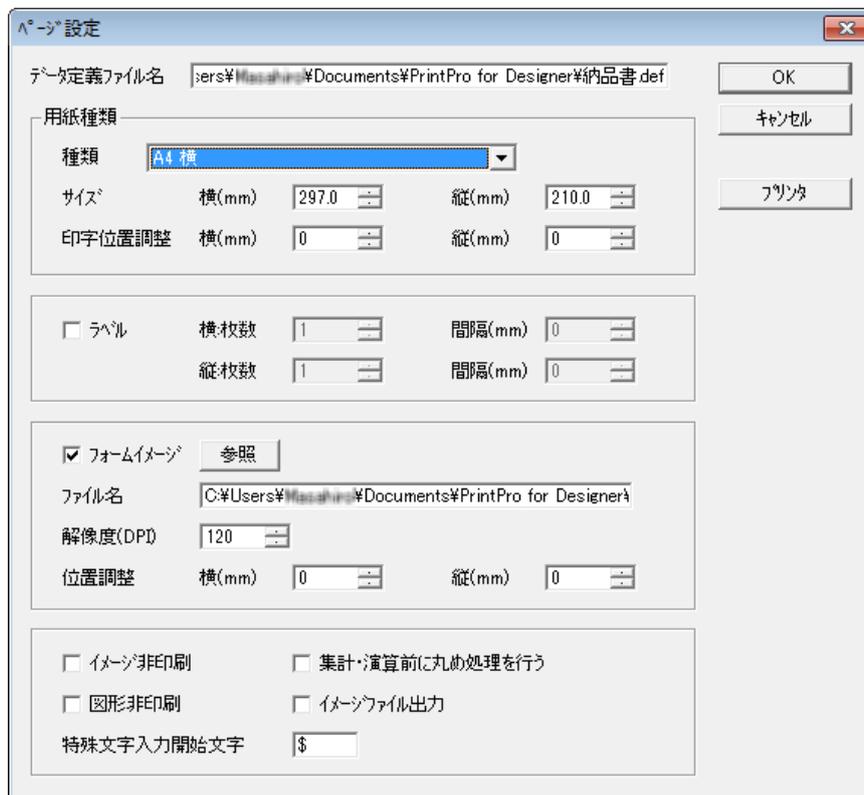
- 3 [ファイル (F)] メニューの [フォームを新規作成 (C)] メニューコマンドを選択します。

[ページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



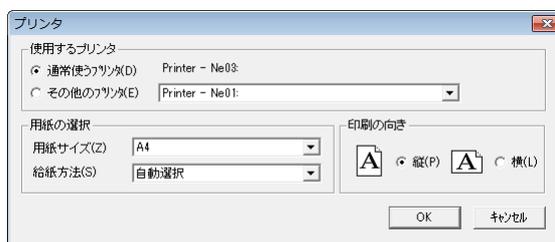
4 用紙種類、ラベル、フォームイメージなどの項目に適切な値を設定します。

項目名	設定内容
帳票定義ファイル名	帳票定義ファイルのフルパス名が表示されます
種類	フォームの用紙種類を選択します
サイズ	[種類] で“任意サイズ”を選択したときに、フォームのサイズを設定します
印字位置調整	フォームの印刷開始位置を設定します
ラベル	ラベルを印刷するときに、チェックボックスをオンにしラベルの枚数と間隔を設定します
フォームイメージ	ビットマップ、JPEG、TIF、PNG、GIF のイメージデータをフォームの台紙として利用するときに、チェックボックスをオンにしイメージデータのファイルを設定します
イメージ非印刷	フォーム上に表示されているイメージオブジェクトを印刷しないときに、チェックボックスをオンにします
集計・演算前に丸め処理を行う	集計処理や演算処理の前に、指定した小数点以下桁数部分で丸め処理を行うときに、チェックボックスをオンにします
図形非印刷	フォーム上に表示されている図形オブジェクトを印刷しないときに、チェックボックスをオンにします
特殊文字入力開始文字	バーコードデータに特殊文字を指定するときの先頭文字を、英数字以外の半角 1 文字で設定します





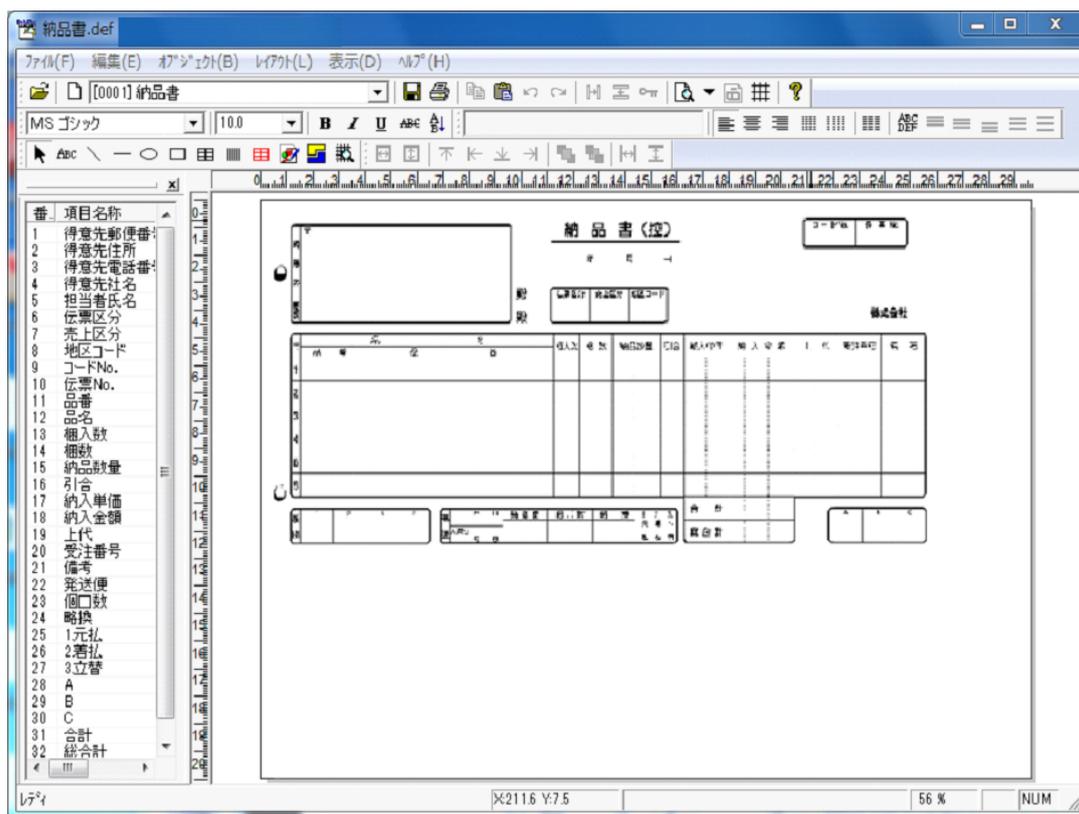
[プリンタ] ボタンをクリックすることで、[プリンタ] ダイアログボックスを表示し、フォームの印刷で利用するプリンタを設定できます。



[ページ設定] ダイアログボックスの詳細については、『PrintPro 2.0 帳票設計ユーザーズマニュアル』を参照してください。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。

[ページ設定] ダイアログボックスが閉じ、フォームを編集できるようになります。



6 オブジェクトを作成し、フォーム上に配置します。



● 本製品では、次のオブジェクトを作成しフォーム上に配置できます。

- 固定文字
- 線
- 水平線/垂直線
- 楕円
- 矩形
- 表
- バーコード
- 明細範囲
- イメージ

- オブジェクトを作成するときには、[オブジェクト (B)] メニューの [文字 (F)] や [線 (L)] メニューコマンドを選択し、表示された十字カーソルでフォーム上の適切な位置をクリックするかドラッグします。例えば、[文字 (F)] メニューコマンドを選択してフォーム上をクリックすると、文字オブジェクトが作成されます。また、[線 (L)] メニューコマンドを選択してフォーム上をドラッグすると、ドラッグした範囲に図形オブジェクト (線オブジェクト) が描かれます。



- オブジェクトツールバーで固定文字オブジェクト作成ボタンや線オブジェクト作成ボタンなどを選択することでも、オブジェクトを作成できます。

ボタン	作成できるオブジェクト
	固定文字
	線
	水平線/垂直線
	楕円
	矩形
	表
	バーコード
	明細範囲
	イメージ



オブジェクトと [オブジェクト (B)] メニューの詳細については、『PrintPro 2.0 帳票設計ユーザーズマニュアル』を参照してください。

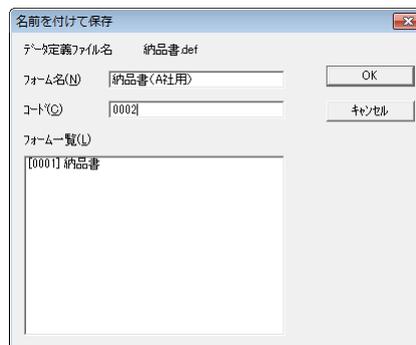
- 7 [ファイル (F)] メニューの [フォームに名前を付けて保存 (A)] メニューコマンドを選択します。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



- 8 [フォーム名 (N)] と [コード (C)] に適切な値を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

帳票定義ファイルにフォームが追加されます。



2.3.2 オブジェクトの選択

オブジェクトの位置、サイズ、設定内容などを変更するときには、そのオブジェクトを選択します。

- 1 [オブジェクト (B)] メニューの [選択 (S)] メニューコマンドを選択します。

マウスカーソルの形状が矢印に変わります。

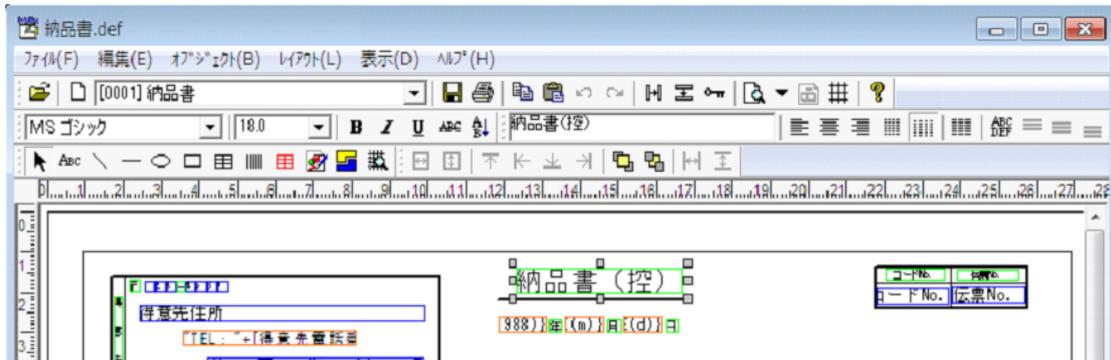


オブジェクトバーでオブジェクト選択ボタンをクリックすることでも、マウスカーソルの形状を矢印に変えられます。



- 2 オブジェクトをクリックします。

オブジェクトが選択され、オブジェクトの周りにサイズ変更マークが表示されます。



複数オブジェクトの選択

文字の種類の変更、位置揃え、ロック、削除などの操作を複数のオブジェクトに対して行うときには、それらのオブジェクトを同時に選択します。

- 1 [オブジェクト (B)] メニューの [選択 (S)] メニューコマンドを選択します。

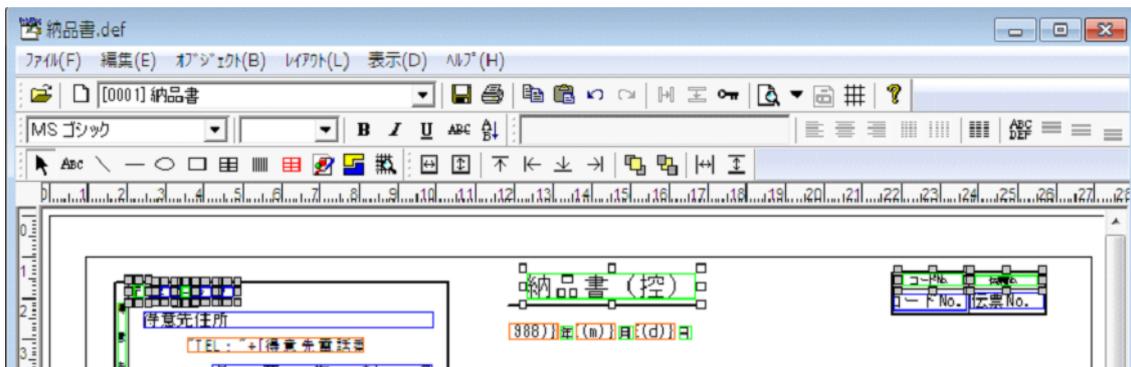
マウスカーソルの形状が矢印に変わります。



オブジェクトバーでオブジェクト選択ボタンをクリックすることでも、マウスカーソルの形状を矢印に変えられます。

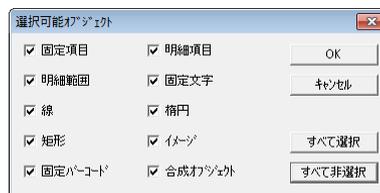
- 2 選択するオブジェクトを囲むようにマウスカーソルをドラッグアンドドロップします。

ドラッグアンドドロップの範囲内にあるオブジェクトが選択されサイズ変更マークが表示されます。





- Shift キーを押したままオブジェクトをクリックすることでも、複数のオブジェクトを選択しサイズ変更マークを表示できます。
- ロックされているオブジェクトは、マウスカーソルをドラッグアンドドロップしても選択されません。ロックされているオブジェクトを選択するときには、Shift キーを押したままオブジェクトをクリックします。
- 明細範囲や表内の複数のオブジェクトを選択するときには、周りにある選択対象外のオブジェクトをロックした後にマウスカーソルをドラッグアンドドロップするか、Shift キーを押したまま必要なオブジェクトを選択します。
- [オブジェクト (B)] メニューの [選択可能オブジェクト (O)] メニューコマンドを選択して [選択可能オブジェクト] ダイアログボックスを表示することで、選択可能とするオブジェクトを設定できます。



2.3.3 オブジェクトの位置指定

オブジェクトの位置、幅、高さは、そのオブジェクトのダイアログボックスの [位置] タブで設定します。

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [オブジェクト (B)] メニューの [プロパティ (P)] メニューコマンドを選択します。

選択したオブジェクトのダイアログボックスが表示されます。

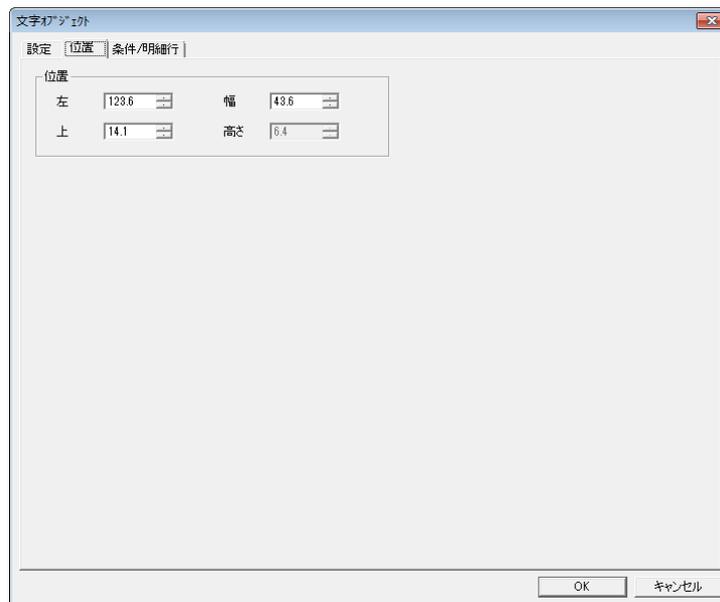




- オブジェクトを右クリックしてショートカットメニューを表示し、[プロパティ(O)]メニューコマンドを選択することでも、ダイアログボックスを表示できます。
- オブジェクトをダブルクリックすることでも、そのオブジェクトのダイアログボックスを表示できます。

3 [位置] タブをクリックします。

オブジェクトの現在の左端位置、上端位置、幅、高さが表示されます。



4 オブジェクトの位置として適切な値を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

ダイアログボックスが閉じ、オブジェクトの位置が変更されます。



オブジェクトによって、設定できる項目が異なります。

2.3.4 オブジェクトの移動

オブジェクトを移動します。

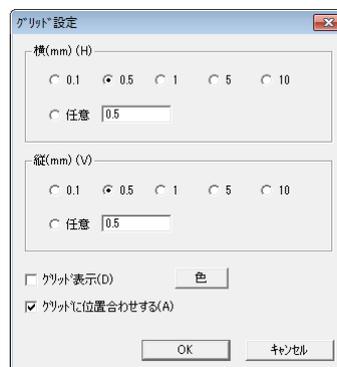
- 1 オブジェクトをドラッグアンドドロップします。



- オブジェクトを選択し、矢印キーを押すことでも、オブジェクトを移動できます。
- オブジェクトは、グリッドに設定されている間隔で移動します。
- グリッドの間隔でオブジェクトを移動しないときには、[表示 (D)] メニューの [グリッドに位置合わせする (J)] メニューコマンドの状態をオフにします。



- グリッドの間隔を変更するときには、[表示 (D)] メニューの [グリッド設定 (I)] メニューコマンドを選択して [グリッド設定] ダイアログボックスを表示します。



- ロックされているオブジェクトは移動できません。

2.3.5 オブジェクトのサイズ変更

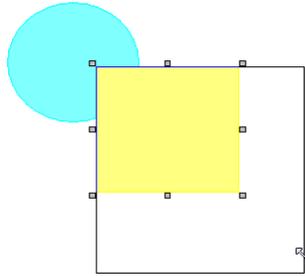
オブジェクトのサイズを変更します。

- 1 オブジェクトを選択します。

オブジェクトの周りにサイズ変更マークが表示されます。

- 2 サイズ変更マークをドラッグアンドドロップします。

オブジェクトのサイズが変更されます。



- オブジェクトは、グリッドに設定されている間隔でサイズが変化します。
- オブジェクトの四隅に表示されているサイズ変更マークをドラッグアンドドロップすると、オブジェクトの水平方向と垂直方向のサイズが同時に変更できます。
- オブジェクトの四辺中央に表示されているサイズ変更マークをドラッグアンドドロップすると、オブジェクトの水平方向か垂直方向のサイズを変更できます。
- Shift キーを押したままオブジェクトの四隅のサイズ変更マークをドラッグアンドドロップすると、縦横比を変えずにサイズを変更できます。
- Shift キーを押したまま楕円オブジェクトや矩形オブジェクトのサイズ変更マークをドラッグアンドドロップすると、円や矩形を正円や正四角形に変更できます。
- Shift キーを押したまま左右矢印キーを押すと、オブジェクトの水平方向のサイズを変更できます。同様に Shift キーを押したまま上下矢印キーを押すと、オブジェクトの垂直方向のサイズを変更できます。
- ロックされているオブジェクトのサイズは変更できません。
- [文字オブジェクト] ダイアログボックスの [設定] タブで [行配置 (L)] の [複行印刷] チェックボックスがオフになっている文字オブジェクトは、行の高さが常に文字と同じになるため、垂直方向のサイズを変更できません。
- バーコードのサイズは、バーコードオブジェクトのダイアログボックスでの指定やデータによって決まります。

2.3.6 オブジェクトのロック

移動、サイズ変更、削除を行えないようにオブジェクトをロックします。

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [編集 (E)] メニューの [ロック (L)] メニューコマンドを選択します。

オブジェクトがロックされます。



- ロックを解除するときには、オブジェクトを選択し、[編集 (E)] メニューの [ロック解除 (R)] メニューコマンドを選択します。
- オブジェクトを右クリックしてショートカットメニューを表示し、[ロック (L)] や [ロック解除 (R)] メニューコマンドを選択することでも、オブジェクトをロックしたり、ロックを解除したりできます。
- [ロック (L)] メニューコマンドの代わりに [すべてをロック (O)] メニューコマンドを選択すると、フォーム上のすべてのオブジェクトがロックされます。
- [ロック解除 (R)] メニューコマンドの代わりに [すべてのロックを解除 (A)] メニューコマンドを選択すると、フォーム上のすべてのオブジェクトに対するロックが解除されます。
- ロックされている複数のオブジェクトを同時に選択するときには、Shift キーを押したままそれぞれのオブジェクトを選択します。

2.3.7 オブジェクトの位置揃え

複数のオブジェクトを水平方向や垂直方向で整列します。

- 1 整列する複数のオブジェクトを選択します。
- 2 基準とするオブジェクトを再度クリックします。
- 3 [レイアウト (L)] メニューの [上端を揃える (T)]、[左端を揃える (L)]、[下端を揃える (O)]、[右端を揃える (R)] のいずれかのメニューコマンドを選択します。

選択したメニューコマンドに従って、オブジェクトが整列されます。



選択したメニューコマンドに従って、オブジェクトが次のように整列します。

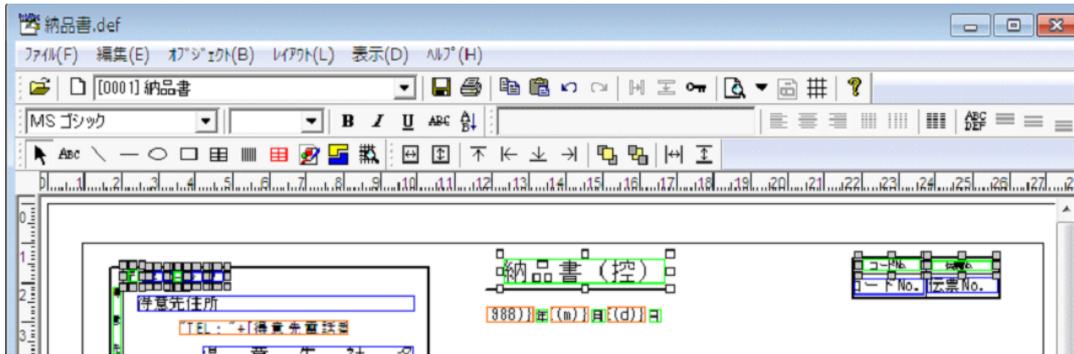
メニューコマンド	整列の状態
上端を揃える (T)	基準オブジェクトの上端に、各オブジェクトの上端を揃えます
左端を揃える (L)	基準オブジェクトの左端に、各オブジェクトの左端を揃えます
下端を揃える (O)	基準オブジェクトの下端に、各オブジェクトの下端を揃えます
右端を揃える (R)	基準オブジェクトの右端に、各オブジェクトの右端を揃えます

基準オブジェクトの指定

複数オブジェクトを選択し、それらの基準とするオブジェクトを指定することで、基準オブジェクトを元に位置揃えや表示順序の指定が行えます。

- 1 基準とするオブジェクトを再度クリックします。

オブジェクトのサイズ変更マークの表示色が変わります。



オブジェクトの表示順序の指定については、このマニュアルの「2.3.8 オブジェクトの重なり順の指定」を参照してください。

2.3.8 オブジェクトの重なり順の指定

重なり合うオブジェクトの表示順序を指定します。

- 1 重なり合うオブジェクトのいずれか1つを選択します。
- 2 [レイアウト (F)] メニューの [前面へ (F)] か [背面へ (B)] メニューコマンドを選択します。

選択したオブジェクトが他のオブジェクトの前面か背面に移ります。



項目オブジェクトの重なり順は変更できません。項目オブジェクトの位置は、常に最前面になります。また、項目オブジェクトのうち固定項目は、明細項目よりも前面になります。

2.4 帳票定義ファイル情報の確認

帳票定義ファイルでのデータ定義やフォームのオブジェクトの設定を次の 2 つの方法で一覧にして確認できます。

- CSV 形式のファイルに出力する
- 画面上で確認したり修正したりする

2.4.1 ファイルへの出力

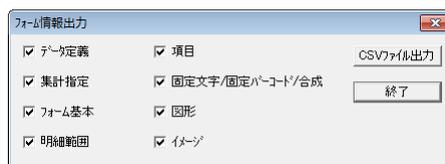
帳票定義ファイルでのデータ定義やフォームのオブジェクトに関する情報を CSV 形式のファイルに出力します。

- 1 [ファイル (F)] メニューの [フォーム情報出力 (R)] メニューコマンドを選択します。

[フォーム情報出力] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 出力対象から除外する情報のチェックボックスをオフにします。





- デフォルトでは、すべてのチェックボックスがオンになっています。
- チェックボックスの状態に従って、次の情報が出力されます。

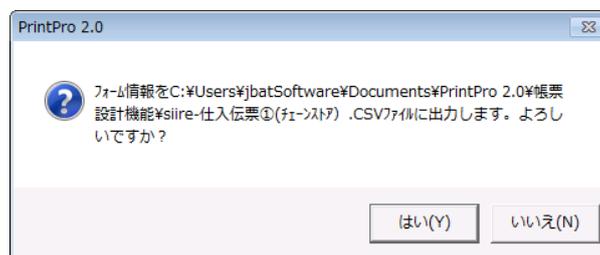
チェックボックス名	出力情報
データ定義	帳票定義ファイルの情報（項目数、登録フォーム数、データ範囲、全フォーム印刷位置微調整縦・横）とデータ定義
集計指定	帳票定義ファイルの集計指定の設定
フォーム基本	指定したフォームのページ設定
明細範囲	フォームに配置されている明細範囲オブジェクトの情報
項目	フォームに配置されている項目オブジェクト（固定項目、明細項目）の情報
固定文字/固定バーコード/合成	フォームに配置されている固定文字オブジェクト、固定バーコードオブジェクト、合成オブジェクトの情報
図形	フォームに配置されている図形オブジェクト（線、楕円、矩形）の情報
イメージ	フォームに配置されているイメージオブジェクトの情報

- 3 [CSV ファイル出力] ボタンをクリックします。

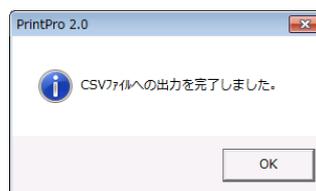
フォーム情報の出力を確認するダイアログボックスが表示されます。

- 4 [はい (Y)] ボタンをクリックします。

出力の完了を示すメッセージが表示されます。

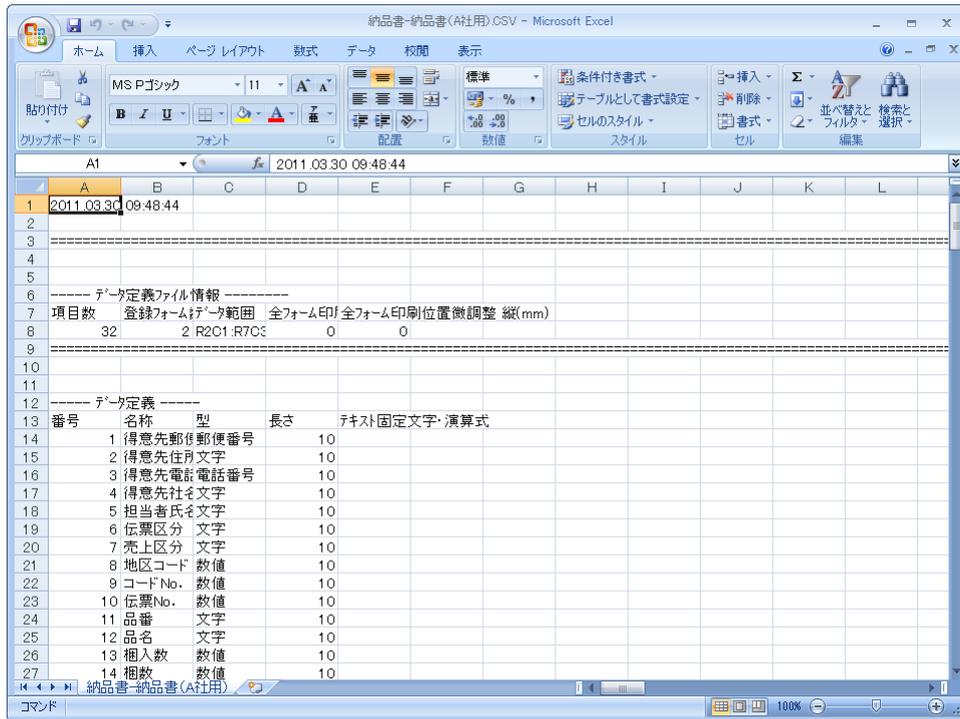


- 5 [OK] ボタンをクリックします。



- 6 [フォーム情報出力] ダイアログボックスで [終了] ボタンをクリックします。

7 Microsoft Excel などを使って、CSV ファイルの内容を確認します。



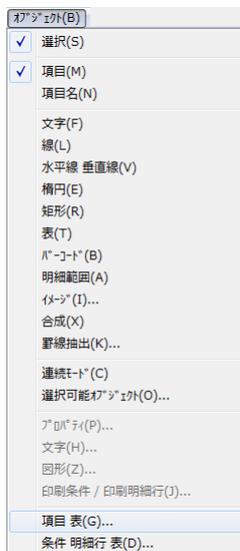
2.4.2 画面上での確認と修正

帳票定義ファイルでのデータ定義やフォームのオブジェクトに関する情報は、次の2つの画面で確認したり修正したりできます。

画面名	表示内容
項目オブジェクト	項目オブジェクトの位置、設定内容、数値、条件
印刷条件/印刷明細行	項目オブジェクトの印刷条件

[項目オブジェクト] 画面による確認

- 1 [オブジェクト (B)] メニューの [項目表 (G)] メニューコマンドを選択します。
[項目オブジェクト] 画面が表示されます。



- 2 [位置]、[設定]、[数値]、[条件] のいずれかのボタンをクリックして、表示された内容を確認します。

項目		追加		削除		閉じる		位置				印刷		
No	番号	名称	型	長さ	区分	明細番号	左	上	幅	高さ	文字	切出し	開始	文配置
1	1	得意先郵便番号	郵便番号	10	固定項目		44.0	17.2	2.8	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
2	1	得意先郵便番号	郵便番号	10	固定項目		41.8	17.2	2.8	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
3	1	得意先郵便番号	郵便番号	10	固定項目		39.0	17.2	2.8	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
4	1	得意先郵便番号	郵便番号	10	固定項目		36.5	17.2	2.8	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
5	1	得意先郵便番号	郵便番号	10	固定項目		31.2	17.2	2.8	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
6	1	得意先郵便番号	郵便番号	10	固定項目		29.4	17.2	2.8	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
7	1	得意先郵便番号	郵便番号	10	固定項目		25.6	17.2	2.8	2.8	2	<input type="checkbox"/>	0	左詰
8	2	得意先住所	文字	10	固定項目		24.3	23.4	75.2	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	左詰
9	4	得意先社名	文字	10	固定項目		41.9	36.4	57.1	4.9	10	<input type="checkbox"/>	0	両端
10	5	担当者氏名	文字	10	固定項目		59.4	46.2	39.9	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	右詰
11	6	伝票区分	文字	10	固定項目		119.0	45.5	14.1	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	中央
12	7	売上区分	文字	10	固定項目		134.1	45.5	14.4	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	中央
13	8	地区コード	数値	10	固定項目		149.3	45.4	14.0	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	中央
14	9	コードNo.	数値	10	固定項目		218.1	18.9	19.1	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	中央
15	10	伝票No.	数値	10	固定項目		237.9	18.9	19.2	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	中央
16	11	品番	文字	10	明細項目	1	21.5	67.0	19.0	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	右詰
17	12	品名	文字	10	明細項目	1	42.8	67.0	75.5	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	左詰
18	13	梱入数	数値	10	明細項目	1	120.3	67.0	9.1	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	中央
19	14	梱数	数値	10	明細項目	1	130.3	67.0	11.8	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	中央
20	15	納品数量	数値	10	明細項目	1	142.8	67.0	18.7	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	右詰
21	16	日合	文字	10	明細項目	1	162.3	67.0	7.1	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	中央
22	17	納入単価	数値	10	明細項目	1	170.5	67.0	17.7	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	右詰

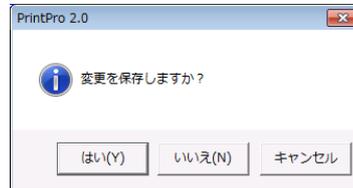


- [追加] ボタンをクリックすると、項目番号 1 の内容が最下端に追加されます。
- 表示内容をクリックしたりダブルクリックしたりすることで、その内容を修正できます。
- 青字の表示内容や背景色が黄色の箇所は修正できません。
- 表示されている行を選択して [削除] ボタンをクリックすると、その行の内容を削除できます。

- 3 [閉じる] ボタンをクリックします。
[項目オブジェクト] 画面が閉じます。

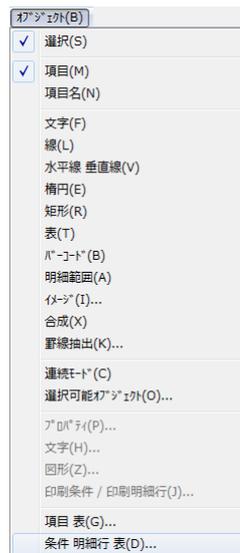


表示内容に変更を加えていたときには、次のダイアログボックスが表示されます。



【印刷条件/印刷明細行】 画面による確認

- 1 [オブジェクト (B)] メニューの「条件 明細行 表 (D)」メニューコマンドを選択します。
[印刷条件/印刷明細行] 画面が表示されます。



- 2 表示された内容を確認します。

印刷条件 / 印刷明細行											
閉じる											
No	オブジェクト	項目名称/...	型	区分	明... 表	位置		条件			
					番号	左	上	条件	項目	値	
1	項目	得意先郵便	郵便番号	固定項目			44.8	17.2	無条件		
2	項目	得意先郵便	郵便番号	固定項目			41.8	17.2	無条件		
3	項目	得意先郵便	郵便番号	固定項目			39.0	17.2	無条件		
4	項目	得意先郵便	郵便番号	固定項目			36.5	17.2	無条件		
5	項目	得意先郵便	郵便番号	固定項目			31.2	17.2	無条件		
6	項目	得意先郵便	郵便番号	固定項目			28.4	17.2	無条件		
7	項目	得意先郵便	郵便番号	固定項目			25.6	17.2	無条件		
8	項目	得意先住所	文字	固定項目			24.3	29.4	無条件		
9	項目	得意先社名	文字	固定項目			41.9	36.4	無条件		
10	項目	担当者氏名	文字	固定項目			59.4	46.2	無条件		
11	項目	伝票区分	文字	固定項目			119.0	45.5	無条件		
12	項目	売上区分	文字	固定項目			134.1	45.5	無条件		
13	項目	地区コード	数値	固定項目			149.3	45.4	無条件		
14	項目	コードNo.	数値	固定項目			218.1	18.9	無条件		
15	項目	伝票No.	数値	固定項目			287.9	18.9	無条件		
16	項目	品番	文字	明細項目	1		21.5	67.0	無条件		
17	項目	品名	文字	明細項目	1		42.8	67.0	無条件		
18	項目	梱入数	数値	明細項目	1		120.3	67.0	無条件		
19	項目	梱数	数値	明細項目	1		130.3	67.0	無条件		
20	項目	納品数量	数値	明細項目	1		142.8	67.0	無条件		
21	項目	引合	文字	明細項目	1		162.3	67.0	無条件		
22	項目	納入単価	数値	明細項目	1		170.5	67.0	無条件		
23	項目	納入金額	数値	明細項目	1		188.3	67.0	無条件		
24	項目	上代	文字	明細項目	1		215.2	67.0	無条件		



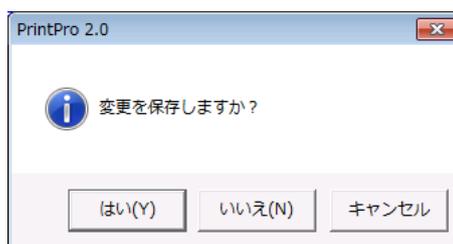
- 表示内容をクリックしたりダブルクリックしたりすることで、その内容を修正できます。
- 青字の表示内容や背景色が黄色の個所は修正できません。

3 [閉じる] ボタンをクリックします。

[印刷条件/印刷明細行] 画面が閉じます。



表示内容に変更を加えていたときには、次のダイアログボックスが表示されます。



2.5 既存の帳票ファイルの読込

本製品では、既存の帳票に関する情報を次のいずれかの方法で利用できます。

- スキャナで読み込んだ既存帳票の画像データから罫線を抽出して、水平線/垂直線オブジェクトを作成する
- 既存の帳票定義ファイルを読み込む

2.5.1 画像データからの罫線の抽出

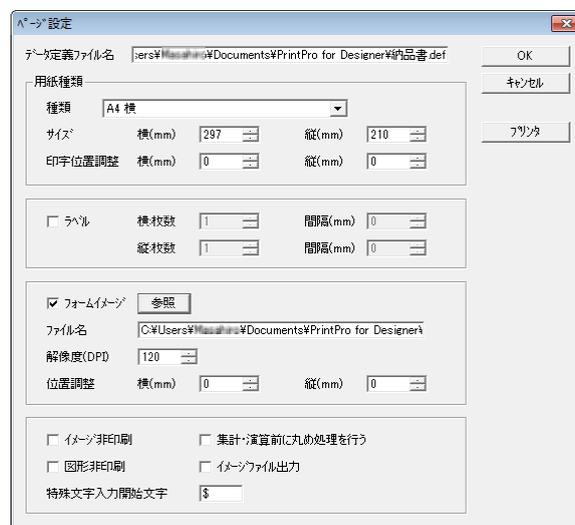
スキャナで読み込んだ既存帳票の画像データから罫線を抽出し、水平線/垂直線オブジェクトを作成します。

- 1 [ファイル (F)] メニューの [フォームを新規作成 (C)] メニューを選択します。

[ページ設定] ダイアログボックスが表示されます。

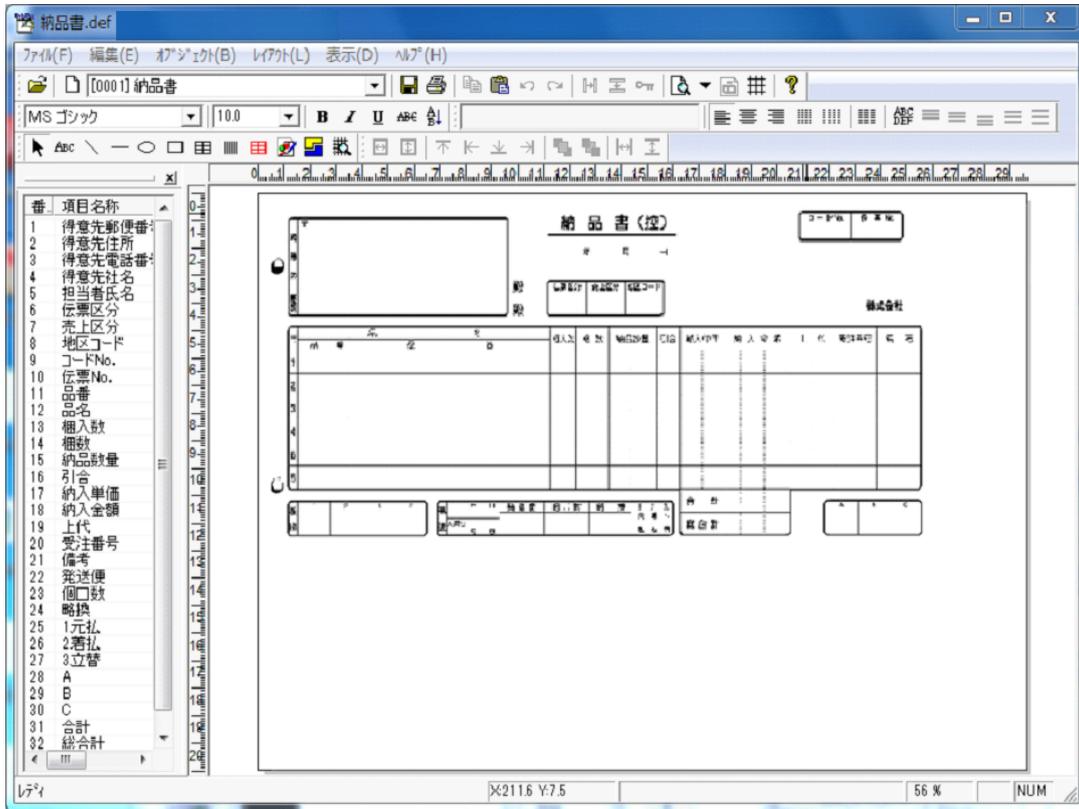


- 2 [フォームイメージ] チェックボックスをオンにし、[参照] ボタンをクリックして既存帳票の画像データを指定します。



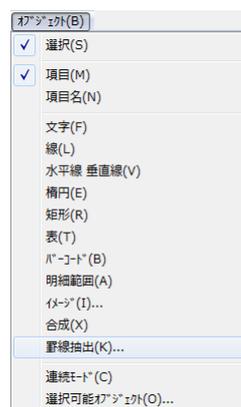
- 3 [OK] ボタンをクリックします。

画像データが読み込まれ、画面上に表示されます。



- 4 [オブジェクト (B)] メニューの [罫線抽出 (K)] メニューを選択します。

[罫線抽出設定] ダイアログボックスが表示されます。



- 5 [長さの最小値 (mm)]、[線幅の最小値 (ポイント)]、[線幅の最大値 (ポイント)] などの各項目に適切な値を設定します。次に、それぞれの項目に設定できる内容を示します。

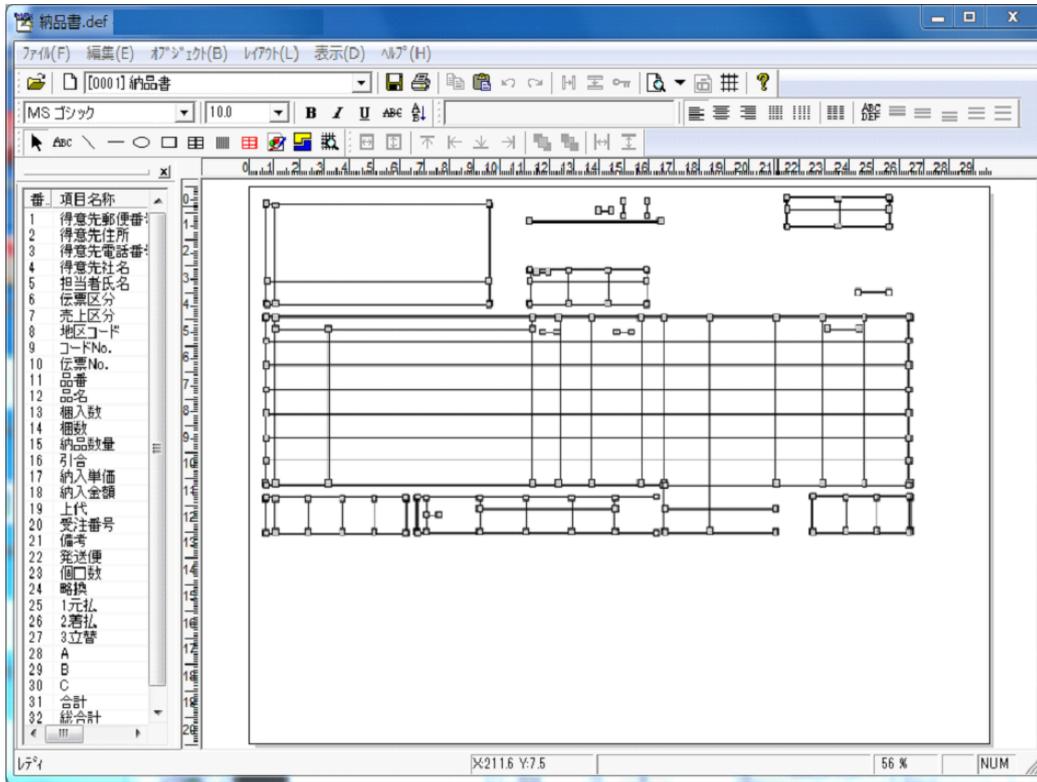
項目名	設定内容
長さの最小値 (mm)	抽出対象とする罫線長さの最小値を設定します
線幅の最小値 (ポイント)	抽出対象とする罫線幅の最小値を設定します
線幅の最大値 (ポイント)	抽出対象とする罫線幅の最大値を設定します
穴の長さの最大値 (mm)	抽出対象として許容する罫線欠損部分の最大値を設定します
傾きの許容範囲 (度)	抽出対象として許容する罫線の傾斜角度を設定します



[規定値] ボタンをクリックすると、[長さの最小値 (mm)] や [線幅の最小値 (ポイント)] などの項目の値がデフォルト値に戻ります。

- 6 [OK] ボタンをクリックします。
[罫線抽出設定] ダイアログボックスが閉じ、マウスカースルが十字カーソルに変わります。

- 7 画像データ上で十字カーソルをドラッグアンドドロップして罫線の抽出範囲を指定します。
抽出した罫線を元に水平線/垂直線オブジェクトが作成されます。



[表示 (D)] メニューの [フォームイメージ (B)] メニューコマンドの選択状態をオフにすることで、フォームイメージとして読み込んだ画像データを非表示にできます。



- 8 元の帳票を参照しながら、不足していたり必要がない水平線/垂直線オブジェクトを修正します。

2.5.2 別の帳票定義ファイル (.def) からのインポート

既存の帳票定義ファイルのフォームを読み込みます。

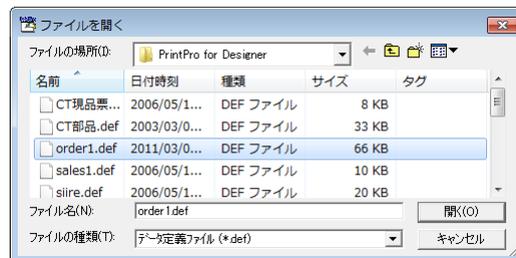
- 1 [ファイル (F)] メニューの [開く (O)] メニューコマンドを選択します。

[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 フォームの受け側とする帳票定義ファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。

帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。

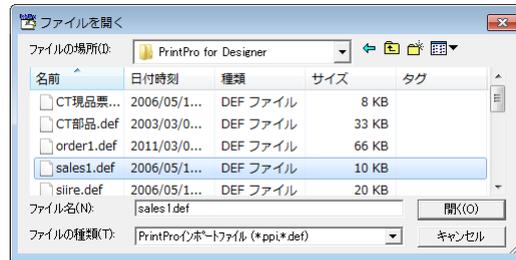


- 3 [ファイル (F)] メニューの [フォームインポート (B)] メニューコマンドを選択します。

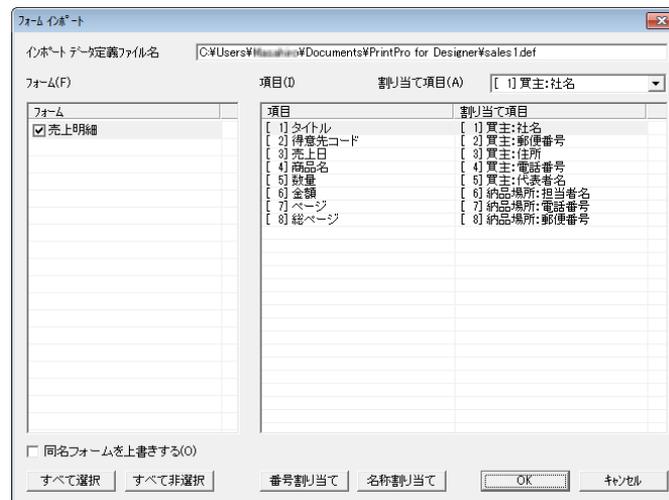
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。



- 4 フォームの送り側とする帳票定義ファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。
[フォームインポート] ダイアログボックスが表示されます。



- 5 [フォーム (F)] に表示されているフォームで、読込対象から除外するフォームのチェックボックスをオフにします。



- [インポート 帳票定義ファイル名] には、送り側の帳票定義ファイルのフルパス名が表示されます。
- [同名フォームを上書きする (O)] チェックボックスをオンにすると、受け側の帳票定義ファイルにあるフォームが送り側にある同名のフォームによって上書きされます。
- [すべて非選択] ボタンをクリックすると、[フォーム (F)] に表示されているフォームのチェックボックスがすべてオフになります。また、[すべて選択] ボタンをクリックすると、[フォーム (F)] に表示されているフォームのチェックボックスがすべてオンになります。

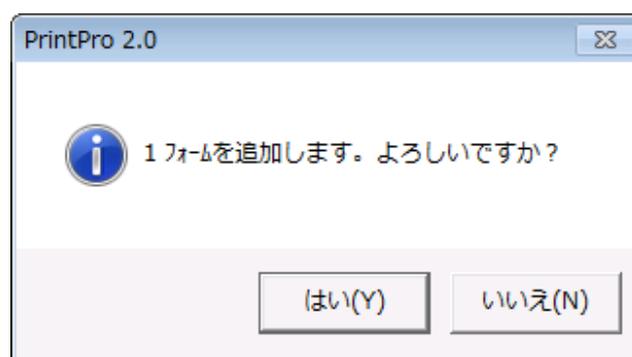
- 6 [項目 (I)] で送り側の帳票定義ファイルの項目の行を選択し、その項目を割り当てる受け側の帳票定義ファイルの項目を [割り当て項目 (A)] コンボボックスに指定します。



- [項目] には、送り側の帳票定義ファイルで設定されている項目の項目番号と項目名称が表示されます。通常、同一の項目が設定されている帳票定義ファイルからフォームを読み込みます。ただし、設定されている項目が送り側と受け側の帳票定義ファイルで異なっていたときには、送り側に合わせて受け側の帳票定義ファイルに項目を追加することもできます。
- [割り当て項目 (A)] コンボボックスで“後ろへ追加”を指定した送り側の帳票定義ファイルの項目は、受け側の帳票定義ファイルの項目の最後に追加されます。
- [番号割り当て] ボタンをクリックすると、送り側の帳票定義ファイルの項目の項目番号に従って、受け側の帳票定義ファイルの項目が割り当てられます。
- [名称割り当て] ボタンをクリックすると、送り側の帳票定義ファイルの項目の項目名称と同一名称の受け側の帳票定義ファイルの項目が割り当てられます。該当する名称がないときには、“後ろへ追加”が設定されます。

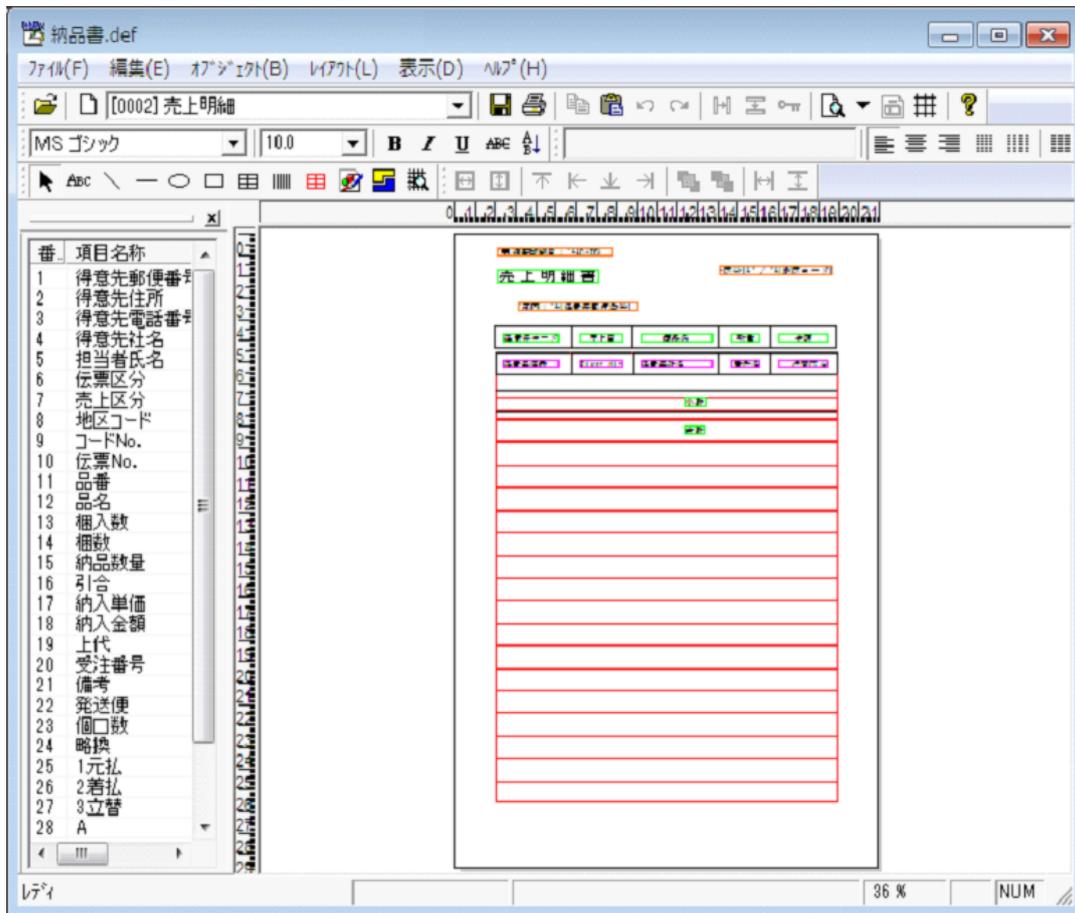
7 [OK] ボタンをクリックします。

フォームの追加を確認するダイアログボックスが表示されます。



- 8 [はい (Y)] ボタンをクリックします。

既存の帳票定義ファイルのフォームが追加されます。



2.6 Excel アドインツールの利用

Microsoft Excel に PrintPro 2.0 Excel アドインツールを登録することで、Microsoft Excel のワークシート上にあるデータを本製品のフォームを利用して印刷できます。

2.6.1 アドインツールの登録

Microsoft Excel に PrintPro 2.0 Excel アドインツールを登録します。



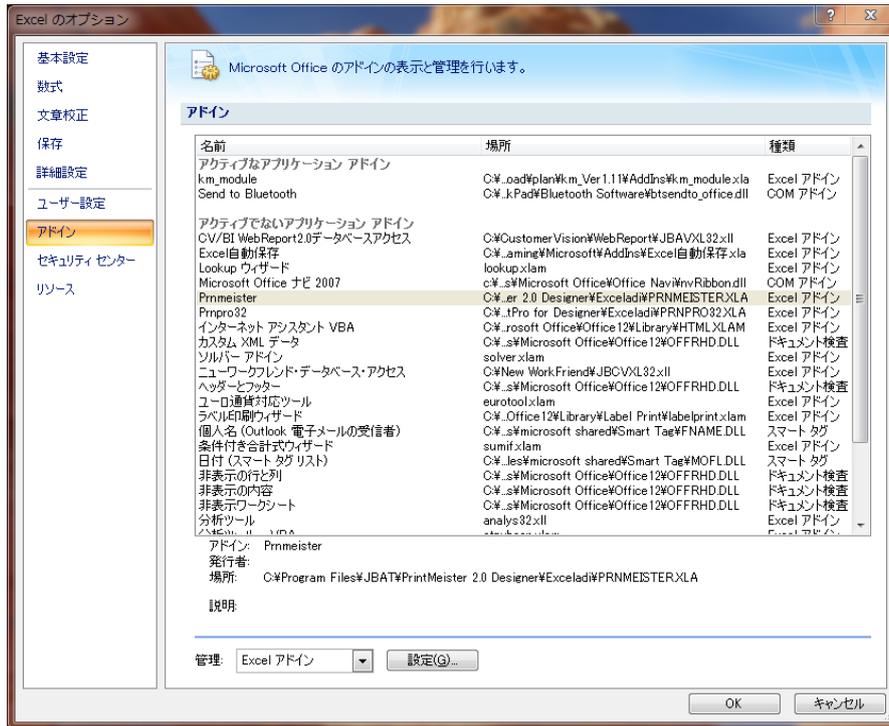
本製品のインストール時に PrintPro 2.0 Excel アドインツールを登録しているときには、ここで説明する操作は必要ありません。

- 1 Microsoft Excel を起動し、Office ボタン、[Excel のオプション] を順にクリックします。

[Excel のオプション] ダイアログボックスが表示されます。



2 [アドイン] をクリックします。

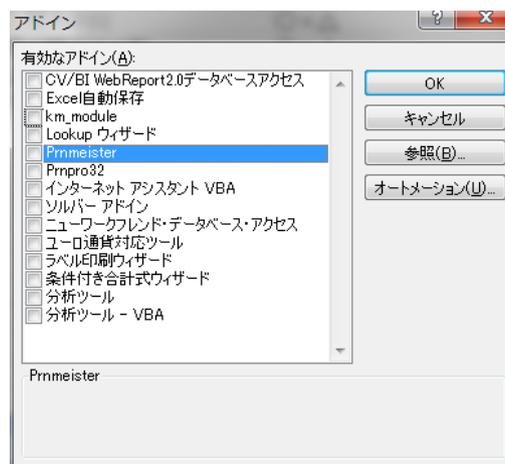


3 [管理] に“Excel アドイン”を指定し、[設定 (G)] ボタンをクリックします。

[アドイン] ダイアログボックスが表示されます。

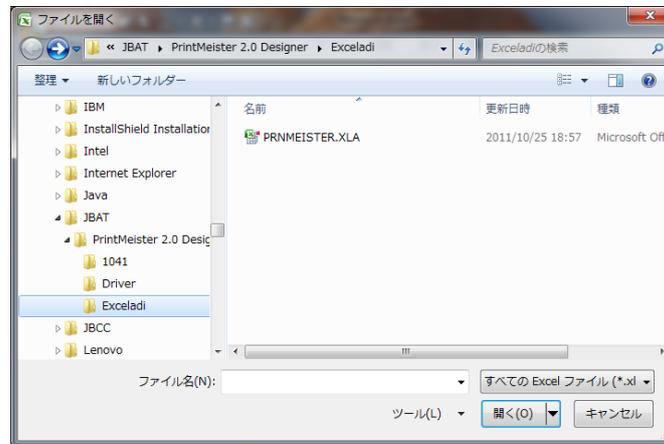
4 [参照 (B)] ボタンをクリックします。

[ファイルの参照] ダイアログボックスが表示されます。



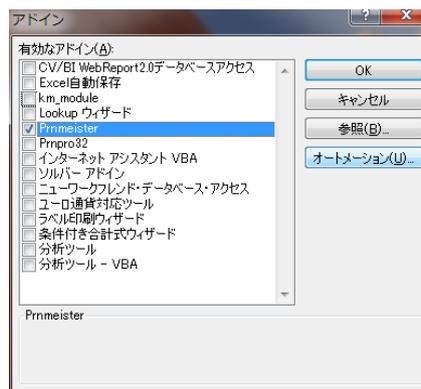
- 5 本製品をインストールしたフォルダー内の [Exceladi] サブフォルダーに収められている “PRINTPRO20.XLA” を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

[アドイン] ダイアログボックスに PrintPro 2.0 Excel アドインツールが追加されます。



- 6 [OK] ボタンをクリックします。

Microsoft Excel に [アドイン] メニューが追加され、[PrintPro 2.0] メニューコマンドが利用できるようになります。



2.6.2 帳票定義ファイルの作成

PrintPro 2.0 Excel アドインツールを利用することで、Microsoft Excel のワークシート上のデータから項目名と最大桁数を取得して帳票定義ファイルを作成できます。

- 1 Microsoft Excel のワークシートを表示します。

	A	B	C	D	E	F
1	名前	郵便番号	住所 1	住所 2	住所 3	カスタムバーコード
2	印刷太郎	111-1111	神奈川県横浜市緑区富士見町	○×△	鈴木荘×××号	23000241111-0000
3	印刷花子	222-2222	神奈川県横浜市港南区太尾町	○×△	ユートピア横浜×××号	22200311111-7-0000
4	山田鉄	333-3333	大分県中田市大字木管中	○×△		87901121-3-0000
5	佐藤京都	444-4444	埼玉県入間市中川	○×△	東山ニューハイツ×××	3580001-0000
6	奥田都	555-5555	神奈川県座間市栄光町	○×△	コープ栄光台×××号	22800226-12-7-0000
7	日本大助	666-6666	岐阜県山中郡白山田町 1 8 8 □	○×△		5030018183-0000
8	山之内横浜	777-7777	横浜市大田区戸田町 9 5 6 8 - ●	○×△	×××号	24410019568-3-9-0000
9						

2 帳票定義ファイルの作成に利用するデータ範囲を選択し、クリップボードにコピーします。

	A	B	C	D	E	F
	名前	郵便番号	住所 1	住所 2	住所 3	カスタマバーコード
1	印刷太郎	111-1111	神奈川県横浜市緑区富士見町	○×△	鈴木荘×××号	23000241111-0000
2	印刷花子	222-2222	神奈川県横浜市港南区太尾町	○×△	ユートピア横浜×××号	22200311111-7-0000
3	山田鉄	333-3333	大分県中田市大字木曾中	○×△		87901121-3-0000
4	佐藤京都	444-4444	埼玉県入間市市川	○×△	東山ニューハイツ×××	3580001-0000
5	奥田都	555-5555	神奈川県座間市栄光町	○×△	コープ栄光台×××号	22800226-12-7-0000
6	日本大助	666-6666	岐阜県山中郡白山町 1 8 3 □	○×△		5030018183-0000
7	山之内横浜	777-7777	横浜市大田区戸田町 9 5 6 8 - ●	○×△	×××号	24410019568-3-9-0000
8						
9						



- データ範囲の 1 行目は項目のタイトルとします。
- データ範囲には、レコード数として 32,000 行、項目数として 255 項目まで指定できます。

3 [アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [新規作成 (D)] メニューコマンドを選択します。

本製品が起動され、[データ定義 作成/変更] ダイアログボックスが表示されます。



4 表示された内容を確認し、[OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

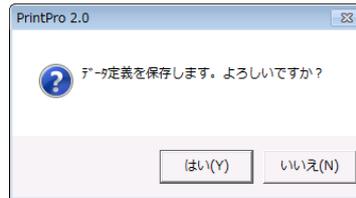
項目名称(N)	データ型(D)	桁数(C)	テキスト固定文字/演算式(T)
得意先郵便番号	文字	8	
得意先住所	文字	32	
得意先電話番号	文字	18	
得意先社名	文字	18	
担当者氏名	文字	10	
伝票区分	文字	2	
売上区分	文字	2	
地区コード	文字	3	
コードNo.	文字	1	
伝票No.	文字	6	
品番	文字	7	
品名	文字	24	
梱入数	文字	1	
欄別	文字	1	
納品数量	文字	1	
引合	文字	1	
納入単価	文字	6	
納入金額	文字	7	
上代	文字	1	
受注番号	文字	6	
備考	文字	8	
発送便	文字	4	
個口数	文字	1	
略換	文字	1	
1元払	文字	2	
2割払	文字	2	
3立替	文字	1	



- Microsoft Excel のワークシート上で選択したデータ範囲の 1 行目の値が各項目の [項目名称] に表示されます。
- データ範囲の 2 行目から最終行までのデータ桁数のうち最大のものが各項目の [桁数] に表示されます。

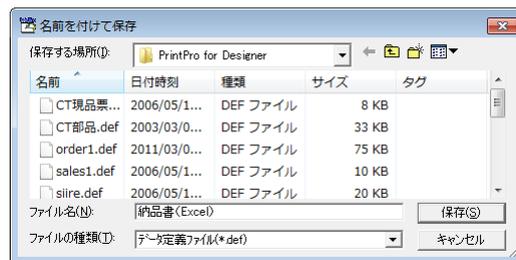
5 [はい (Y)] ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



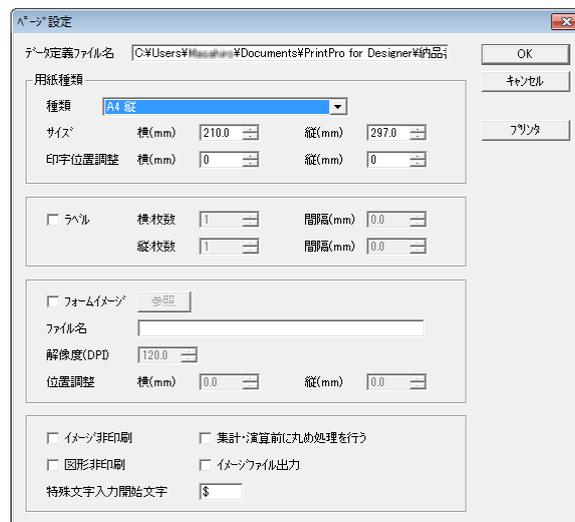
6 [ファイル名 (N)] に帳票定義ファイル名を設定し、[保存 (S)] ボタンをクリックします。

[ページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



7 [種類]、[サイズ]、[印字位置調整] などの項目に適切な値を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

帳票定義ファイルの内容が画面上に表示されます。

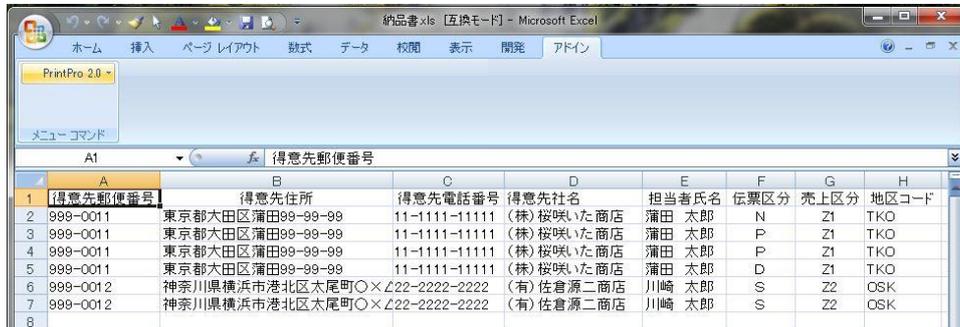


[ページ設定] ダイアログボックスの詳細については、『PrintPro 2.0 帳票設計ユーザーズマニュアル』を参照してください。

2.6.3 フォームの設定

Microsoft Excel のワークシート上のデータを本製品で印刷するための設定を行います。

- 1 本製品で印刷するワークシートを Microsoft Excel で開きます。



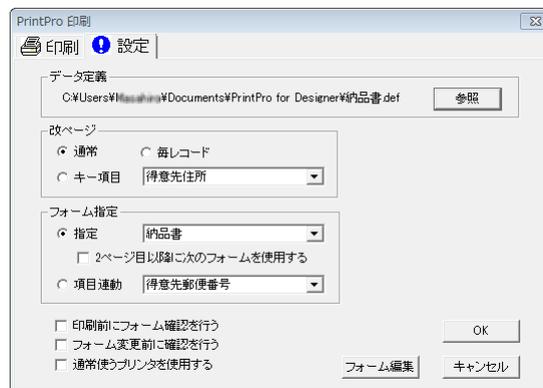
	A	B	C	D	E	F	G	H
	得意先郵便番号	得意先住所	得意先電話番号	得意先社名	担当者氏名	伝票区分	売上区分	地区コード
1	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	N	Z1	TKO
2	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	P	Z1	TKO
3	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	P	Z1	TKO
4	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	D	Z1	TKO
5	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町〇×222-2222-2222	(有)佐倉源二商店	川崎 太郎	S	Z2	OSK	
6	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町〇×222-2222-2222	(有)佐倉源二商店	川崎 太郎	S	Z2	OSK	

- 2 [アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [フォーム設定 (S)] メニューコマンドを選択します。

[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスが表示されます。



- 3 [設定] タブをクリックします。



PrintPro 印刷 設定

データ定義
 C:\Users\H\Documents\PrintPro for Designer\納品書.def 参照

改ページ
 通常 毎レコード
 キー項目 得意先住所

フォーム指定
 指定 納品書
 2ページ目以降に次のフォームを使用する
 項目連動 得意先郵便番号

印刷前にフォーム確認を行う
 フォーム変更前に確認を行う
 通常使うプリンタを使用する

OK フォーム編集 キャンセル

- 4 [帳票定義]、[改ページ]、[フォーム指定]などの各項目に適切な値を設定します。次に、それぞれの項目に設定できる内容を示します。

項目名	設定内容
帳票定義	印刷に使用する帳票定義ファイルのフルパス名が表示されます。[参照] ボタンをクリックして[ファイルを開く] ダイアログボックスを表示することで、使用する帳票定義ファイルを選択できます
改ページ	[通常]、[毎レコード]、[キー項目] のオプションボタンで、改ページ処理の実行タイミングを指定します
フォーム指定	[指定] か [項目連動] のオプションボタンで、印刷に使用するフォームを指定します
印刷前にフォーム確認を行う	印刷前にフォームを確認するときに、チェックボックスをオンにします
フォーム変更前に確認を行う	フォーム変更前に確認するときに、チェックボックスをオンにします
通常使うプリンタを使用する	Windows 環境で“通常使うプリンタ”に指定されているプリンタと、その設定を使用して印刷するときに、チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにしていたときには、フォームの作成時に[ページ設定] ダイアログボックスの[プリンタ] ボタンで呼び出す[プリンタ] ダイアログボックスでの指定に従って、プリンタとその設定が選択されます



- [改ページ] での指定に従って、次のタイミングで改ページ処理が実行されます。

オプションボタン名	実行タイミング
通常	明細行数を越えたときに改ページ処理を実行します。明細行がないときには、1 ページに1 レコードを印刷します
毎レコード	1 レコードごとに改ページ処理を実行します。ハガキやラベルなどの印刷時に使用します
キー項目	コンボボックスに指定した項目の内容が1 つ前のレコードのものと異なったときに改ページ処理を実行します。伝票など複数の明細行の印刷時に使用します

- [フォーム指定] で [指定] を選択したときには、コンボボックスで指定しているフォームを使ってデータが印刷されます。
- [2 ページ目以降に次のフォームを使用する] チェックボックスをオンにしたときには、1 ページ目の印刷に [指定] のコンボボックスで指定しているフォームが使われ、2 ページ目以降はそのフォームに続くフォームを使って印刷されます。このチェックボックスをオンにすることで、請求書などで次のように1 ページ目と2 ページ目以降で使用するフォームを変えることができます。

- [2 ページ目以降に次のフォームを使用する] チェックボックスをオンにしたときには、改ページ処理を実行するごとに 1 ページ目のフォームによる印刷が行われます。このとき、連番も“1”に戻ります。
- [フォーム指定] で [項目連動] を選択したときには、コンボボックスで指定している項目のデータに従って、そのデータと一致するコードを持つフォームを使ってデータを印刷します。この機能を利用することで、得意先コードなどを使って顧客ごとに納品書のフォームを切り替えながらデータを印刷することができます。なお、フォームに対するコードの指定は、フォームの保存時か、[ファイル (F)] メニューの [フォーム名変更 (F)] メニューコマンドで呼び出す [フォーム名変更] ダイアログボックスで行います。
- [フォーム編集] ボタンをクリックすると、本製品が起動され、[フォーム指定] に指定しているフォームが編集可能になります。

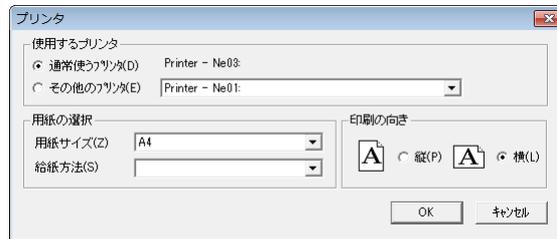
5 [印刷] タブをクリックします。

6 [プリンタ]、[フォーム]、[データ] などの各項目に適切な値を設定します。次に、それぞれの項目に設定できる内容を示します。

項目名	設定内容
プリンタ	印刷に使用するプリンタの名称と場所が表示されます
フォーム	印刷に使用するフォームを設定します
データ	印刷対象とするデータの範囲を設定します
印刷範囲	[全ページ] か [ページ指定] のオプションボタンで、印刷対象とするページを指定します
印刷部数	印刷部数を設定します
開始ラベル	印刷対象とするラベル位置を設定します



- [プリンタ] で [変更] ボタンをクリックすることで、[プリンタ] ダイアログボックスを表示し、印刷に使用するプリンタを指定できます。

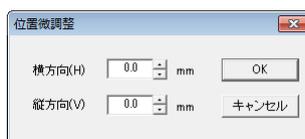


- [設定] タブで [通常使うプリンタを使用する] チェックボックスをオンにしているときには、[プリンタ] の [変更] ボタンは無効になります。
- [データ] の [範囲] には、次の形式でデータ範囲を設定します。

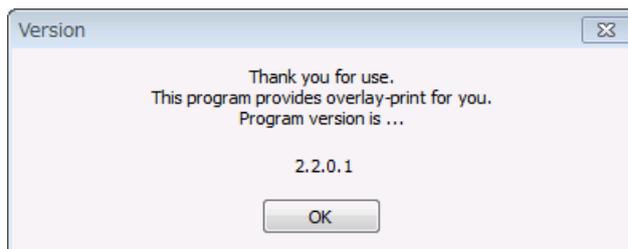
R〈行番号 1〉 C〈列番号 1〉:R〈行番号 2〉 C〈列番号 2〉

項目	設定内容
行番号 1	タイトル行の次の行番号を設定します
列番号 1	先頭の列番号を設定します。ワークシートでの列の表示が A、B、C…となっているときには、それぞれを 1、2、3…と読み替えて設定します
行番号 2	データ範囲の最後の行番号を設定します。行番号 2 には、現在データが収められていないが、将来データを追加する予定がある行の行番号を設定することもできます
列番号 2	最後の列番号を設定します

- Microsoft Excel のワークシート上のデータがクリップボードにコピーされているときには、[データ] の [更新] ボタンが有効になります。[更新] ボタンをクリックすることで、クリップボードにコピーしたワークシートのデータ範囲を [範囲] に反映できます。
- [データ] の [件数] には、印刷される行数と範囲が表示されます。
- [印刷範囲] で [ページ指定] を選択したときには、印刷対象とする先頭ページと最終ページをそれぞれ設定します。
- ラベル印刷時には、[印刷部数] にラベルの印刷枚数を設定します。ただし、部数型オブジェクトを併用しているときには、[印刷部数] での指定は無効になります。
- [開始ラベル] には、左から右、上から下に数えたときのラベル位置を設定します。
- [印刷微調] ボタンをクリックして [位置微調整] ダイアログボックスを表示することで、印刷位置を微調整できます。[位置微調整] ダイアログボックスの [横方向 (H)] に正の値や負の値を設定すると、印刷位置が右方向や左方向に移動します。また、[縦方向 (V)] に正の値や負の値を設定することで、印刷位置が下方向や上方向に移動します。



- [フォーム編集] ボタンをクリックすると、本製品が起動され、[設定] タブの [フォーム指定] に指定しているフォームが編集可能になります。
- [バージョン] ボタンをクリックすると、バージョン情報が表示されます。



- [ヘルプ] ボタンをクリックすると、Web ブラウザが起動され、本製品のユーザーズマニュアルの内容が表示されます。
- [ヘルプ] ボタンによるユーザーズマニュアルの表示は、インターネットへの接続可能な環境でのみ行えます。

7 [OK] ボタンをクリックします。

設定した内容が保存され、[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスが閉じます。



設定した内容は、[ドキュメント] フォルダーの [PrintPro 2.0¥Designer] サブフォルダー内の JBCCPPRO.INI に収められます。

2.6.4 印刷

Microsoft Excel のワークシート上のデータを本製品で印刷します。

- 1 本製品で印刷するワークシートを Microsoft Excel で開きます。



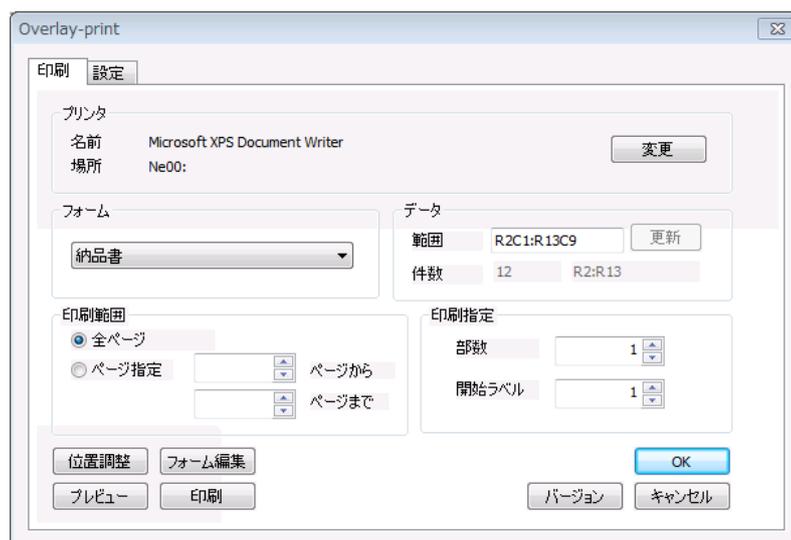
	A	B	C	D	E	F	G	H
	得意先郵便番号	得意先住所	得意先電話番号	得意先社名	担当者氏名	伝票区分	売上区分	地区コード
2	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	N	Z1	TKO
3	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	P	Z1	TKO
4	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	P	Z1	TKO
5	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲いた商店	蒲田 太郎	D	Z1	TKO
6	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町〇×△22-2222-2222		(有)佐倉源二商店	川崎 太郎	S	Z2	OSK
7	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町〇×△22-2222-2222		(有)佐倉源二商店	川崎 太郎	S	Z2	OSK

- 2 [アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [フォーム印刷 (P)] メニューコマンドを選択します。

設定済みの内容に従ってワークシートの内容が印刷されます。



[アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [フォーム設定 (S)] メニューコマンドを選択し、表示された [PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスの [印刷] タブで [印刷] ボタンをクリックすることでも、ワークシートの内容を印刷できます。



Overlay-print

印刷 設定

プリンタ
名前 Microsoft XPS Document Writer
場所 Ne00: [変更]

フォーム
納品書

データ
範囲 R2C1:R13C9 [更新]
件数 12 R2:R13

印刷範囲
 全ページ
 ページ指定 [] ページから []
 [] ページまで []

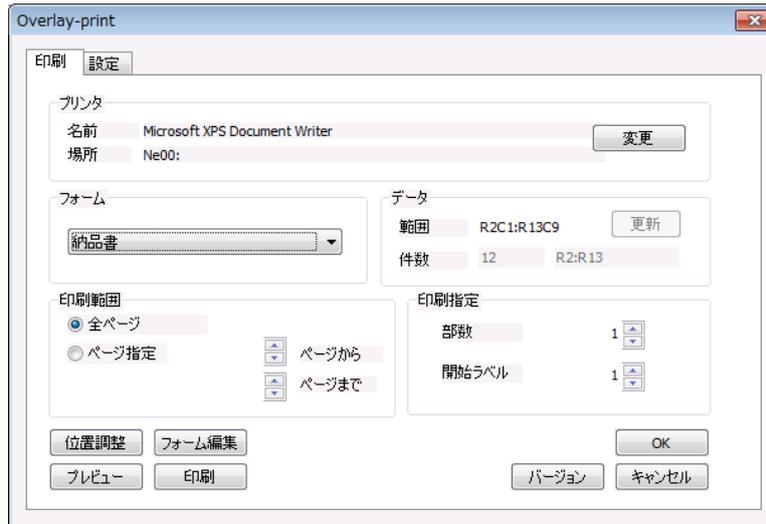
印刷指定
部数 [1]
開始ラベル [1]

[位置調整] [フォーム編集] [OK]
[プレビュー] [印刷] [バージョン] [キャンセル]

プレビューによる確認

印刷内容を画面上で確認します。

- 1 Microsoft Excel の [アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [フォーム設定 (S)] メニューコマンドを選択し、[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [印刷] タブで [プレビュー] ボタンをクリックします。
[PrintPro 2.0 プレビュー] 画面に印刷内容が表示されます。



- 3 表示内容を確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。





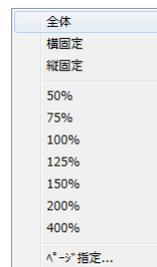
- [PrintPro 2.0 プレビュー] 画面では、ツールバーの次の要素を使って表示内容を確認できます。

要素	動作
<input type="text" value="1"/> (ページ表示ウィンドウ)	現在のページ番号が表示されます
(先頭ページボタン)	先頭ページを表示します
(前ページボタン)	1つ前のページを表示します
(ページ指定ボタン)	[ページ指定] ダイアログボックスを表示します
(次ページボタン)	次のページを表示します
(最終ページボタン)	最終ページを表示します
表示 <input type="text" value="全体"/> (表示倍率指定コンボボックス)	表示倍率を“全体”、“横固定”、“縦固定”、“50%”、“75%”、“100%”、“125%”、“150%”、“200%”、“400%”のいずれかで指定します。また、50～400%の任意の倍率を直接入力することもできます
(印刷ボタン)	表示中のページを印刷します

- [ページ指定] ダイアログボックスでは、[ページ (P)] に表示するページを設定し [OK] ボタンをクリックします。



- [PrintPro 2.0 プレビュー] 画面上を右クリックしてショートカットメニューを表示すると、表示倍率や表示ページを指定することもできます。

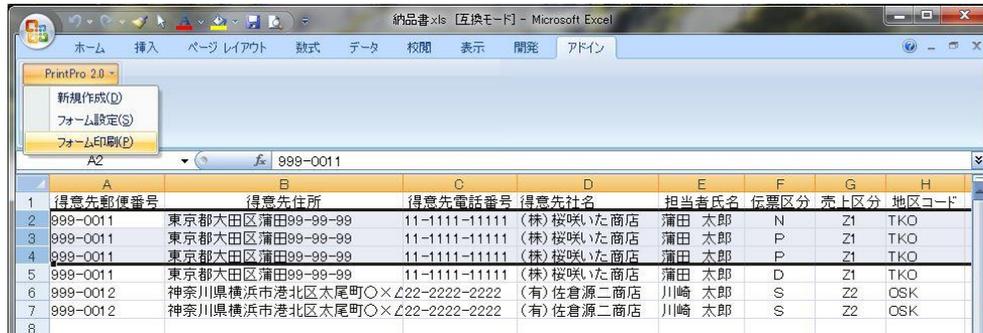


- 4 [PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスで [OK] ボタンをクリックします。
[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスが閉じます。

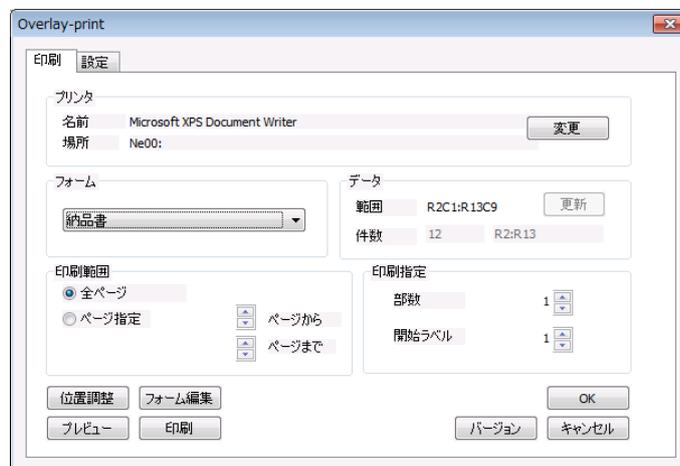
印刷範囲の指定

ワークシート上の特定の行の内容のみを印刷します。

- 1 印刷対象とする行を選択してクリップボードにコピーし、[アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [フォーム印刷 (P)] メニューコマンドを選択します。



[アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [フォーム設定 (S)] メニューコマンドを選択して [PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスを表示することで、印刷範囲を確認できます。現在設定されている印刷範囲は、[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスの [印刷] タブで [データ] の [範囲] に表示されます。この値が印刷対象としたものと異なっていたときには、[更新] ボタンをクリックして印刷範囲を更新します。



印刷データの作成

3.1 印刷データの作成

本製品で印刷するデータは、次の条件を満たすように作成します。

項目	条件
データ	文字列（数値データは文字列に変換して使用）
文字コード	シフト JIS、UTF-8、Unicode big endian、Unicode little endian
改行コード	CR (0x0d) と LF (0x0a) の両方
データ区切り	TAB (0x09) 区切りか CSV (カンマ (,) 区切り)



- データレコードのうち最後のレコードにも改行コードが必要です。
- データ自体には TAB は含められません。
- NULL (0x00) はデータとして処理できません。

例えば、項目数 4、レコード数 2 で TAB 区切りのデータは、次のように作成します。ここで、Rec1-1～Rec1-4 と Rec2-1～Rec2-4 は各レコードの項目、〈TAB〉は TAB (0x09)、〈CR〉は CR (0x0d)、〈LF〉は LF (0x0a) をそれぞれ表します。

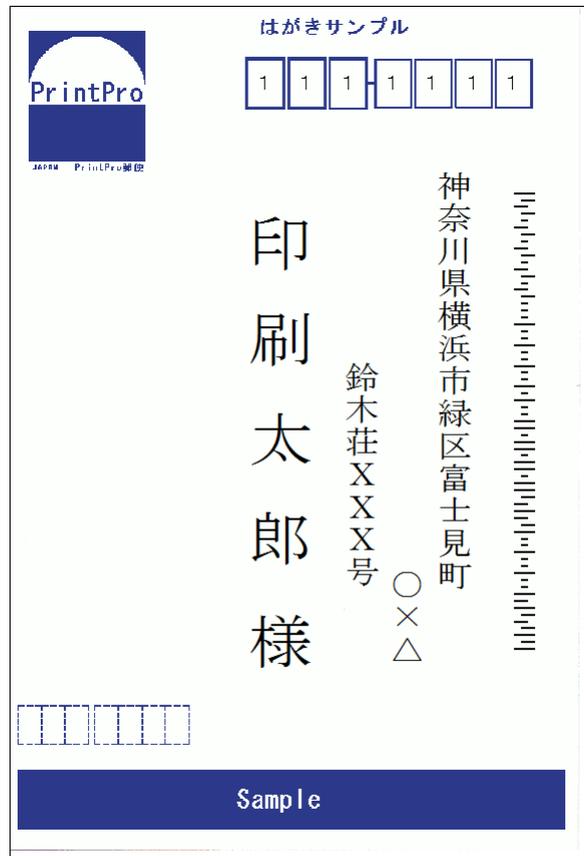
```
印刷データ = Rec1-1 〈TAB〉 Rec1-2 〈TAB〉 Rec1-3 〈TAB〉 Rec1-4 〈CR〉 〈LF〉 Rec2-1 〈TAB〉  
Rec2-2 〈TAB〉 Rec2-3 〈TAB〉 Rec2-4 〈CR〉 〈LF〉
```

このデータをメモ帳で参照すると、次のように表示されます。

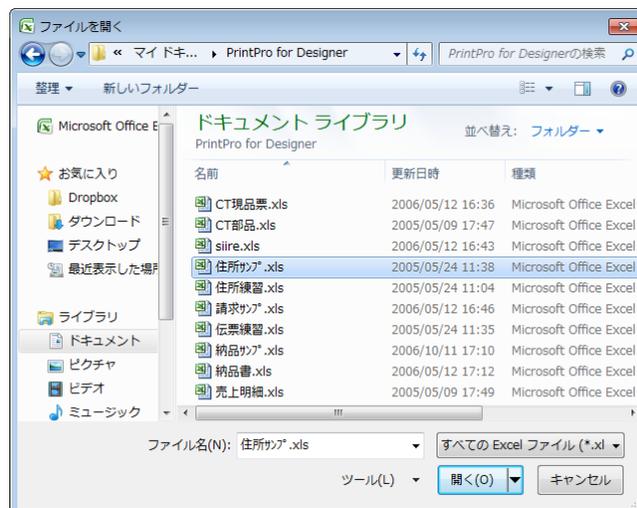
使用例

4.1 宛名印刷

本製品を使って、次のようなハガキの宛名を印刷します。



- 1 Microsoft Excel を起動し、[ドキュメント] フォルダ内の [PrintPro 2.0¥Designer] サブフォルダー内に収められている“住所サンプ.xls”を開きます。



- 2 宛名を印刷する行を選択します。

	A	B	C	D	E	
1	名前	郵便番号	住所 1	住所 2	住所 3	カスタマバ-
2	印刷太郎	111-1111	神奈川県横浜市緑区富士見町	○×△	鈴木荘×××号	23000241111
3	印刷花子	222-2222	神奈川県横浜市港南区太尾町	○×△	ユートピア横浜×××号	22200311111
4	山田鉄	333-3333	大分県中田市大字木曾中	○×△		87901121-3
5	佐藤京都	444-4444	埼玉県入間市中川	○×△	東山ニューハイツ×××	3580001-000
6	奥田都	555-5555	神奈川県座間市栄光町	○×△	コープ栄光台×××号	22800226-1
7	日本大助	666-6666	岐阜県山中群白山田町1830	○×△		5030018183-
8	山之内横浜	777-7777	横浜市大田区戸田町9568-●	○×△	×××号	24410019568

- 3 [アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [フォーム設定 (S)] メニューコマンドを選択します。

[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスが表示されます。



- 4 [印刷] タブで [印刷] ボタンをクリックします。

Overlay-print

印刷 設定

プリンタ
名前 Microsoft XPS Document Writer
場所 Ne00: 変更

フォーム
年賀

データ
範囲 R2C1:R8C7 更新
件数 7 R2:R8

印刷範囲
 全ページ
 ページ指定
ページから
ページまで

印刷指定
部数 1
開始ラベル 1

位置調整 フォーム編集 OK
プレビュー 印刷 バージョン キャンセル



[印刷] タブで [プレビュー] をクリックすることで、[PrintPro 2.0 プレビュー] 画面を表示して印刷内容を確認できます。

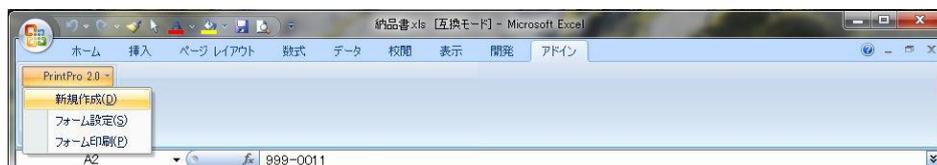


[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスや [PrintPro 2.0 プレビュー] 画面の詳細については、このマニュアルの「2.6.3 フォームの設定」と「2.6.4 印刷」をそれぞれ参照してください。

- 5 [OK] ボタンをクリックして、[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスを閉じます。

- 3 [アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [新規作成 (D)] メニューコマンドを選択します。

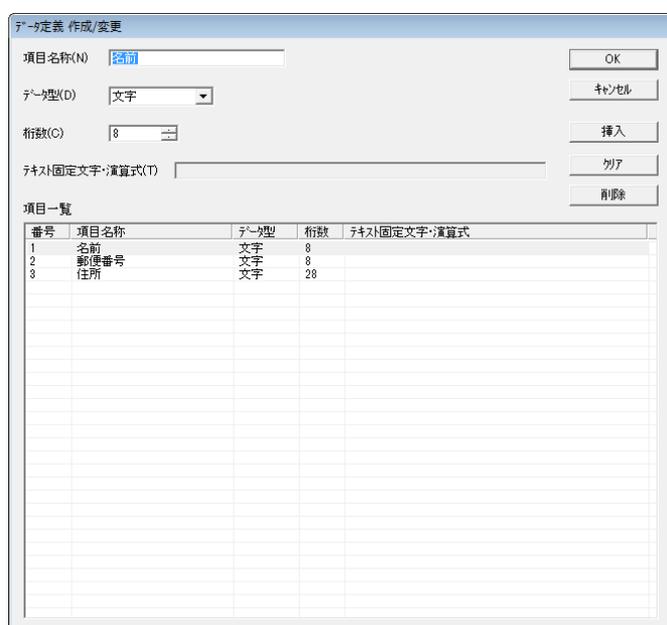
本製品が起動され、[データ定義 作成/変更] ダイアログボックスが表示されます。



[新規作成 (D)] メニューコマンドの詳細については、このマニュアルの「2.6.2 帳票定義ファイルの作成」を参照してください。

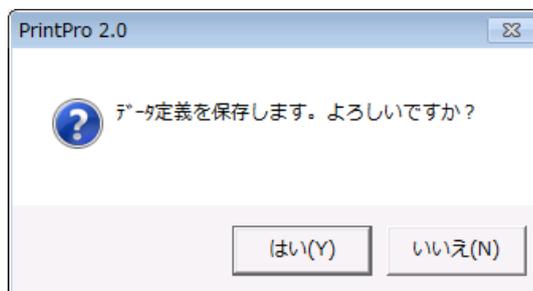
- 4 [OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

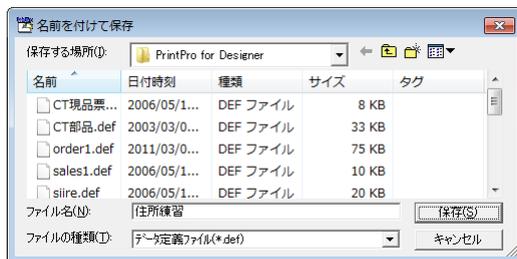


- 5 [はい (Y)] ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 [ファイル名 (N)] に“住所練習”と設定し、[保存 (S)] ボタンをクリックします。
[ページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



- 7 [種類] や [サイズ] などの各項目に次の値を設定します。

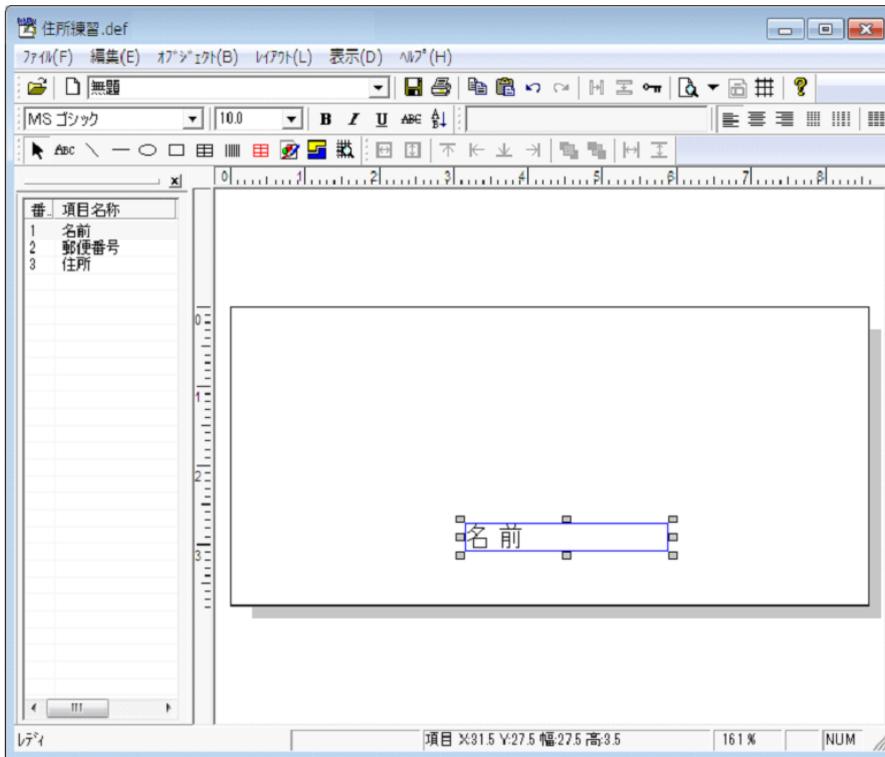
項目名	設定内容
種類	“任意サイズ” を選択します
サイズ	[横 (mm)] に“86.0”、[縦 (mm)] に“38.0” を指定します
ラベル	チェックボックスをオンにし、[横:枚数] に“2”と[間隔 (mm)] に“92.0”、[縦:枚数] に“6”と[間隔 (mm)] に“42.0”をそれぞれ指定します



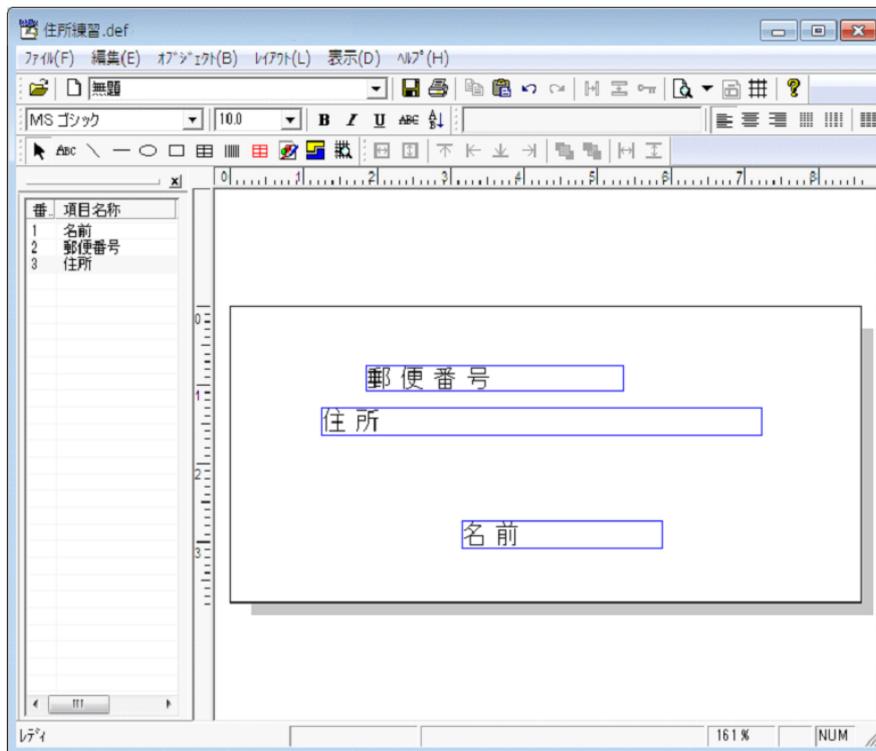
- 8 [OK] ボタンをクリックします。
ラベル 1 枚分のフォームが画面上に表示されます。

- 9 左ペインの [データ定義] ウィンドウで “名前” を選択した後、フォーム上の適当な位置をクリックします。

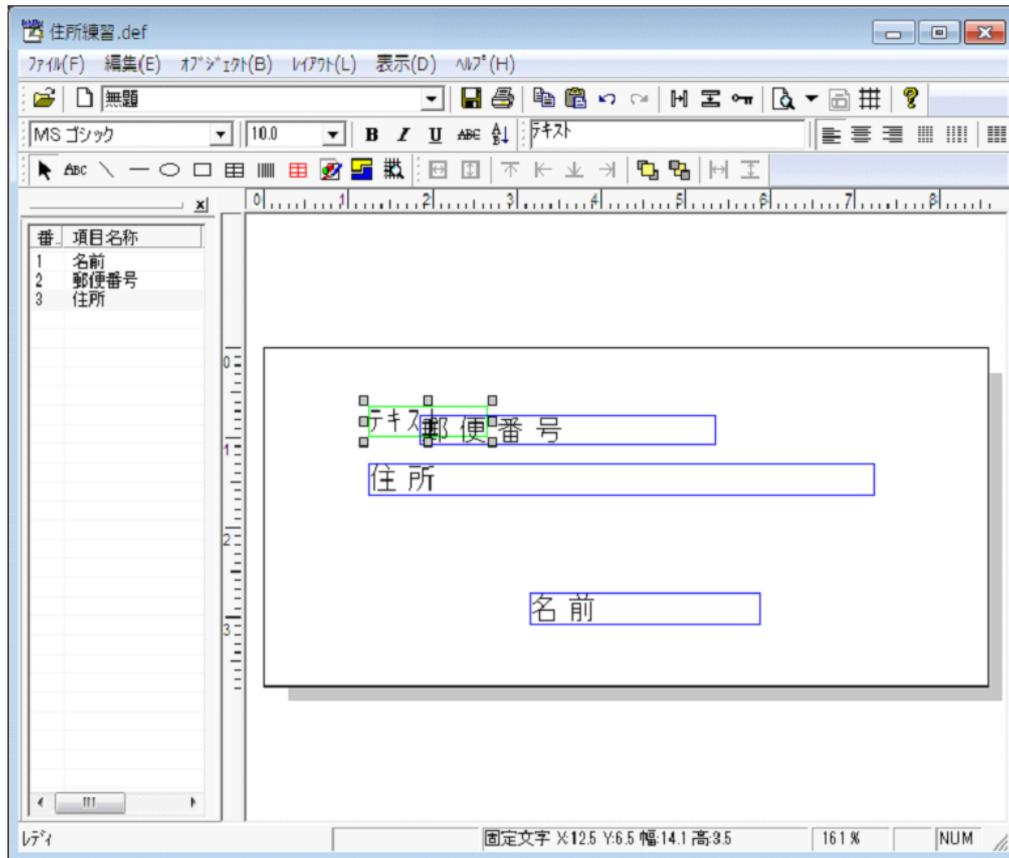
“名前” が固定項目オブジェクトとして設定されます。



- 10 手順9と同様に操作して、“郵便番号”と“住所”の固定項目オブジェクトも配置します。

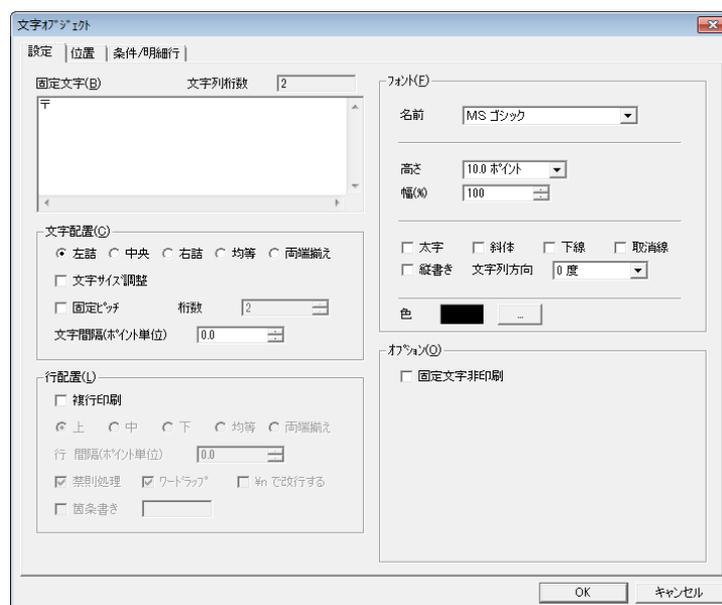


- 11 [オブジェクト (B)] メニューの [文字 (F)] メニューコマンドを選択した後、“郵便番号”の左をクリックして固定文字オブジェクトを配置します。

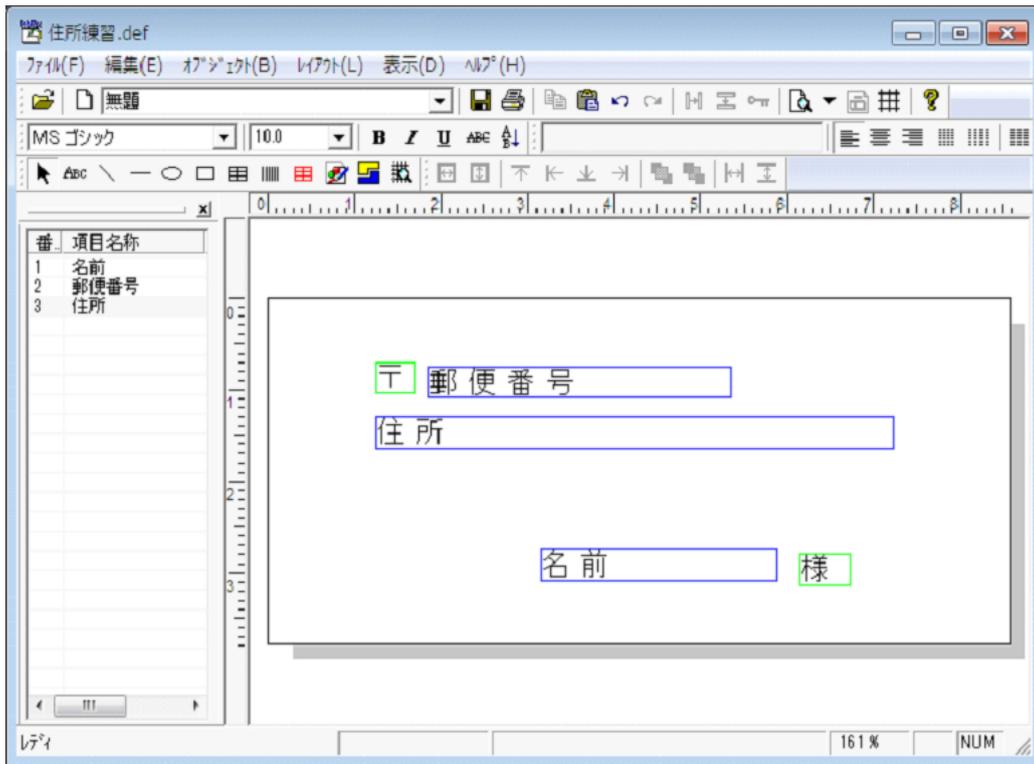


- 12 [オブジェクト (B)] メニューの [プロパティ (P)] メニューコマンドを選択し、表示された [文字オブジェクト] ダイアログボックスで [設定] タブの [固定文字 (B)] の内容を“〒”に変更して [OK] ボタンをクリックします。

“郵便番号”の左に“〒”が固定文字オブジェクトとして配置されます。

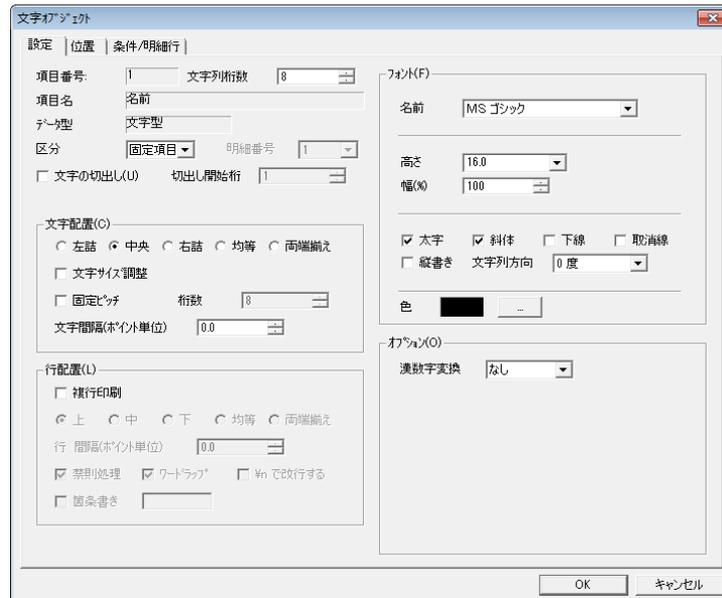


- 13 手順 11~12 と同様に操作して、“名前”の右に“様”を固定文字オブジェクトとして配置します。



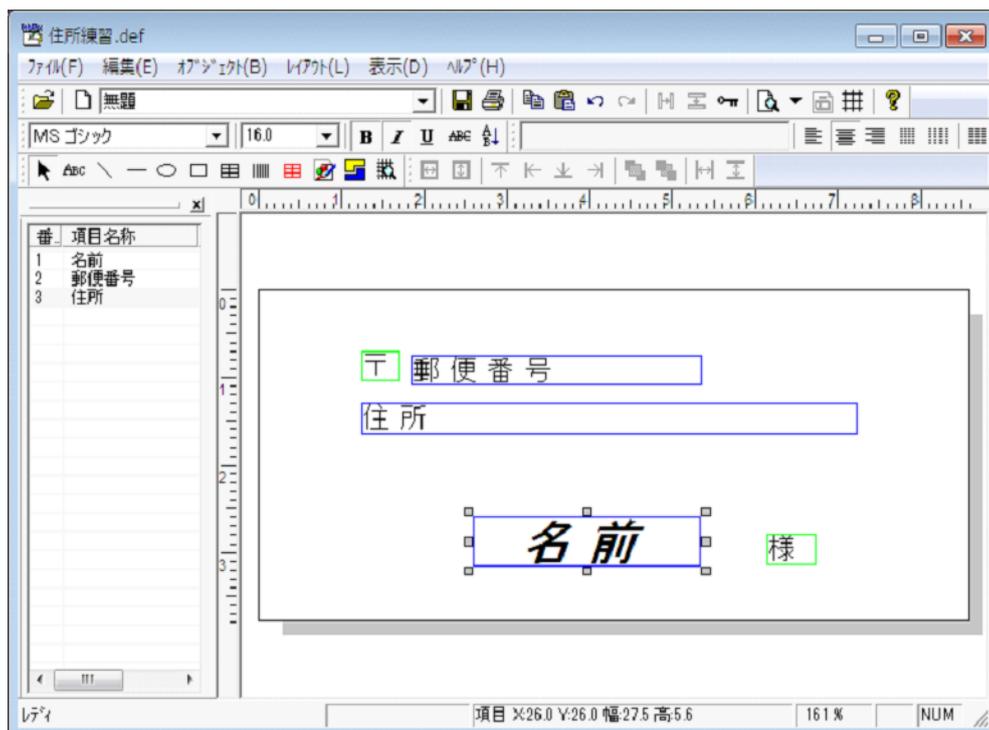
- 14 固定項目オブジェクト“名前”をクリックした後、[オブジェクト (B)] メニューの [プロパティ (P)] メニューコマンドを選択し、表示された [文字オブジェクト] ダイアログボックスで次のとおりに設定します。

項目名		設定内容
文字配置 (C)		[中央] オプションボタンを選択します
フォント (F)	高さ	“16.0” を指定します。
	太字	チェックボックスをオンにします
	斜体	チェックボックスをオンにします

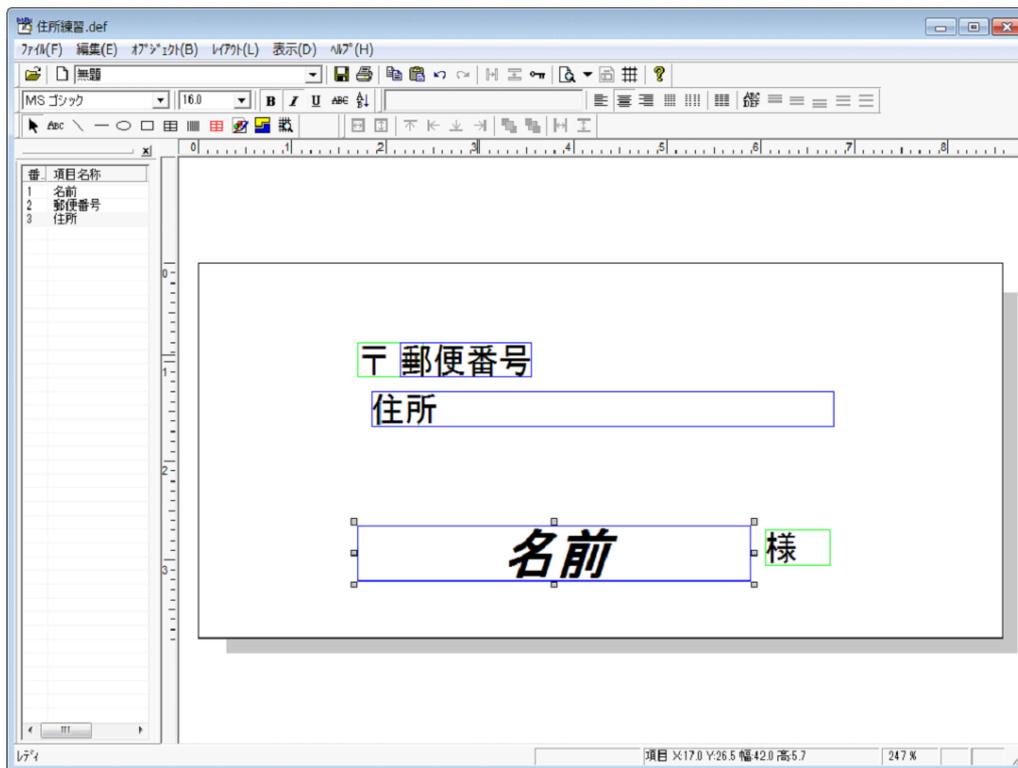


- 15 [OK] ボタンをクリックします。

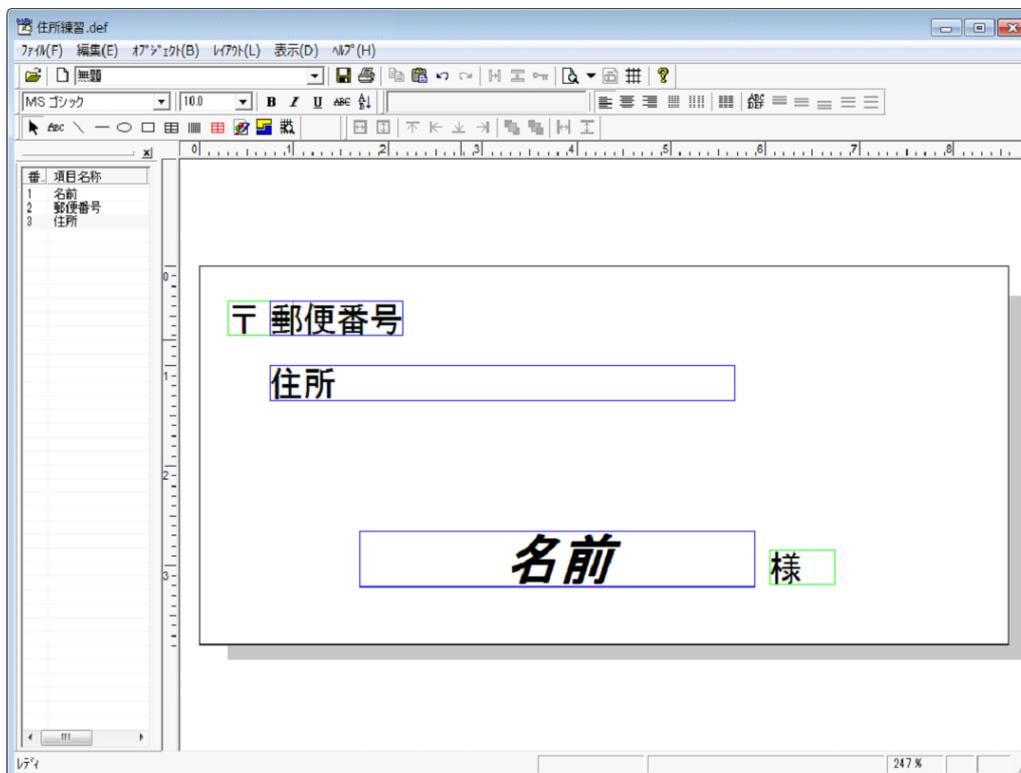
固定項目オブジェクト“名前”の文字属性が変更されます。



- 16 固定項目オブジェクト“名前”のサイズ変更マークをドラッグアンドドロップして幅を広げます。

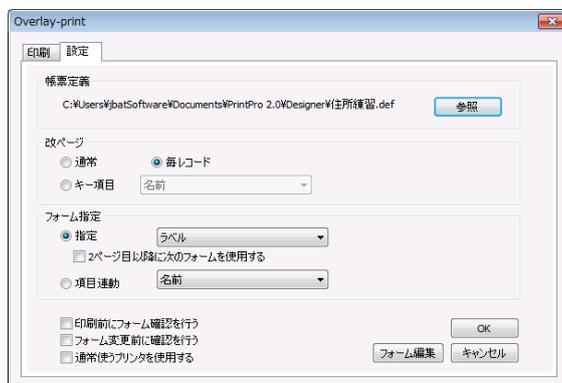


- 17 フォーム上の各オブジェクトをドラッグアンドドロップして、配置を整えます。



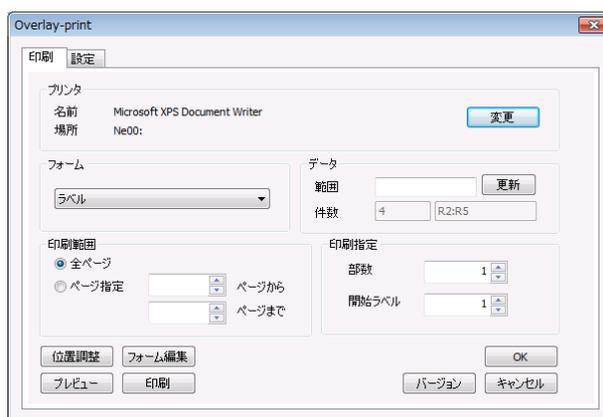
- 21 [設定] タブで [帳票定義] の [参照] ボタンをクリックして、表示された [ファイルを開く] ダイアログボックスで帳票定義ファイル“住所練習.def”を選択します。

[帳票定義] に“住所練習.def”のフルパス名が表示され、[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスの各項目に関連する値が設定されます。

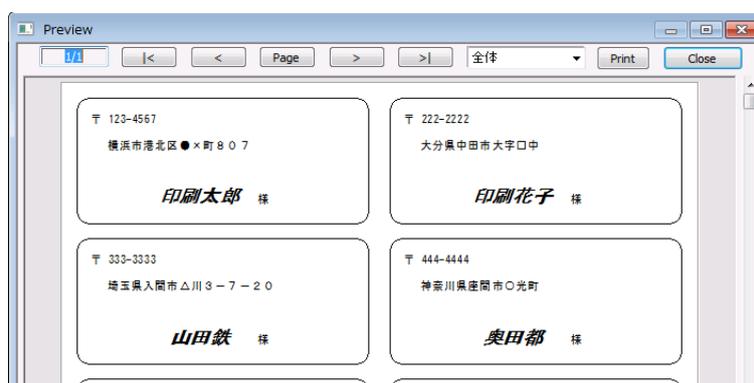


- 22 [印刷] タブで [プレビュー] ボタンをクリックします。

[PrintPro 2.0 プレビュー] 画面が表示されます。



- 23 表示内容を確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。



表示倍率は、表示倍率指定コンボボックスで変更します。



[PrintPro 2.0 プレビュー] 画面の詳細については、このマニュアルの「2.6.4 印刷」を参照してください。

- 24 [PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスの [印刷] タブで [位置微調] ボタンをクリックします。
[位置微調整] ダイアログボックスが表示されます。
- 25 [横方向 (H)] と [縦方向 (V)] に適切な値を設定し、[OK] ボタンをクリックします。



- [横方向 (H)] に正の値を設定すると、印刷位置が右方向に移動します。また、負の値を設定したときには、印刷位置が左方向に移動します。
- [縦方向 (V)] に正の値を設定すると、印刷位置が下方向に移動します。また、負の値を設定したときには、印刷位置が上方向に移動します。

- 26 [PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスの [印刷] タブで [印刷] ボタンをクリックします。
Microsoft Excel のワークシートのデータがラベルとして印刷されます。
- 27 [OK] ボタンをクリックして、[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスを閉じます。



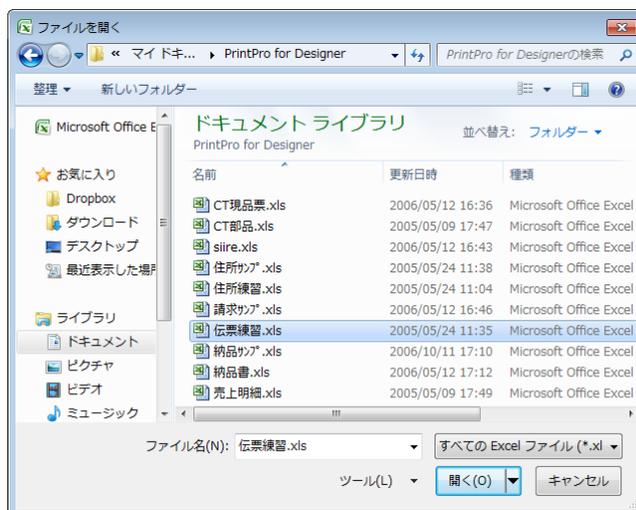
- [OK] ボタンをクリックすると、[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスで設定した内容が保存され、次回の印刷時のデフォルト値となります。

4.3 伝票印刷

Microsoft Excel のワークシート上のデータを次のように納品書（コクヨウ-331N 等）に印刷します。ここでは、伝票のイメージデータを利用して項目を効率よく配置します。

納品書(控)		年 月 日	No. 40616												
(株) 桜咲いた商店 様															
下記のとおり納品いたしました															
品名	数量	単価	金額 (税抜・税込)			備考									
1 醤油	10	257	2	5	7	0									
2 あやめ 盆付菓子器	20	4800	9	6	0	0									
3 真舟 菓子鉢	50	1700	8	5	0	0									
4															
5															
6															
7															
合 計			¥	1	8	3	5	7	0						
税率		%	消費	税込		合計金額			1	9	2	.	7	4	9

- 1 Microsoft Excel を起動し、[ドキュメント] フォルダ内の [PrintPro 2.0¥Designer] サブフォルダー内に収められている“伝票練習.xls”を開きます。



- 2 伝票印刷で使用する伝票番号、得意先名、商品名、数量、単価、金額のデータをワークシート上で選択し、クリップボードにコピーします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
	伝票番号	得意先名	商品名	数量	単価	金額			
1	40616	(株) 桜咲いた商店	醤油	10	257	2570			
2	40616	(株) 桜咲いた商店	あやめ 益付菓子器	20	4800	96000			
3	40616	(株) 桜咲いた商店	貴舟 菓子鉢	50	1700	85000			
4	40617	(有) 佐倉源二商店	あやめ 益付菓子器	20	4800	96000			
5	40617	(有) 佐倉源二商店	貴舟 菓子鉢	50	1700	85000			
6	40618	(株) 須藤商事	あやめ 二段重	15	650	9750			
7	40618	(株) 須藤商事	醤油	10	257	2570			
8	40618	(株) 須藤商事	あやめ 益付菓子器	20	4800	96000			
9	40619	●×ライン (株)	●×line soft	2	27200	54400			
10	40620	日本ビジネス (株)	カラー・プリンター	1	29500	29500			
11	40620	日本ビジネス (株)	ページ・プリンター	2	17000	34000			
12	40620	日本ビジネス (株)	ビジネス・プリンター	3	9800	29400			
13									
14									

- 3 [アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [新規作成 (D)] メニューコマンドを選択します。

本製品が起動され、[データ定義 作成/変更] ダイアログボックスが表示されます。



[新規作成 (D)] メニューコマンドの詳細については、このマニュアルの「2.6.2 帳票定義ファイルの作成」を参照してください。

- 4 次の項目名称の行を選択し、[データ型 (D)] と [桁数 (C)] の値を変更します。

項目名称	データ型	桁数
数量	数値	7
単価	数値	7
金額	数値	7

データ定義 作成/変更

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字・演算式(T)

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	伝票番号	文字	5	
2	得意先名	文字	18	
3	商品名	文字	20	
4	数量	数値	7	
5	単価	数値	7	
6	金額	数値	7	

- 5 [項目一覧] で新たな行を選択し、次の内容を順に指定します。

項目名称 (N)	データ型 (D)	桁数 (C)	テキスト固定文字・演算式 (T)
合計金額	集計	7	[6]
消費税込金額	演算	7	[7]*1.05

データ定義 作成/変更

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字・演算式(T)

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	伝票番号	文字	5	
2	得意先名	文字	18	
3	商品名	文字	20	
4	数量	数値	7	
5	単価	数値	7	
6	金額	数値	7	
7	合計金額	集計	7	[6]
8	消費税込金額	演算	7	[7]*1.05



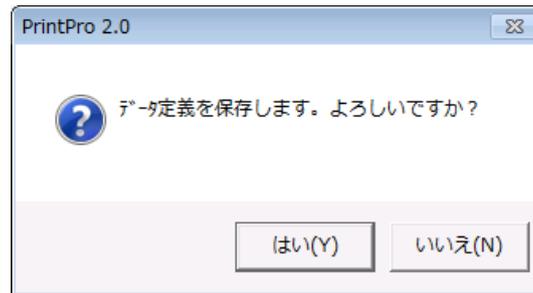
- [テキスト固定文字・演算式 (T)] に指定している “[6]” や “[7]” は、項目番号 “6” と “7” をそれぞれ表しています。
- Microsoft Excel のワークシートに存在しない、合計金額や消費税込金額などの項目は、ワークシートに存在する項目の後に追加します。

6 [OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

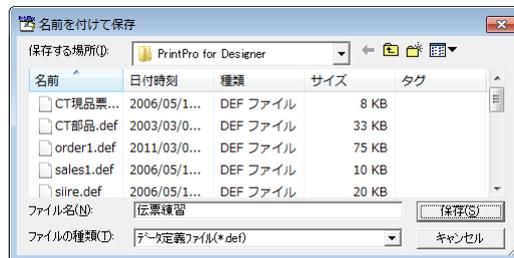
7 [はい (Y)] ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



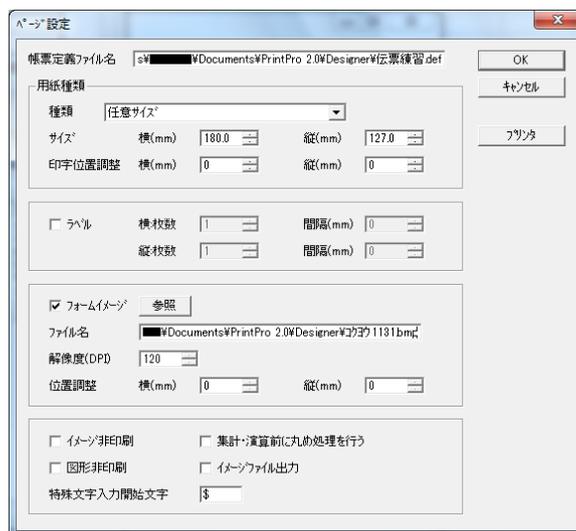
8 [ファイル名 (N)] に “伝票練習” と設定し、[保存 (S)] ボタンをクリックします。

[ページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



- 9 [種類] や [サイズ] などの各項目に次の値を設定します。

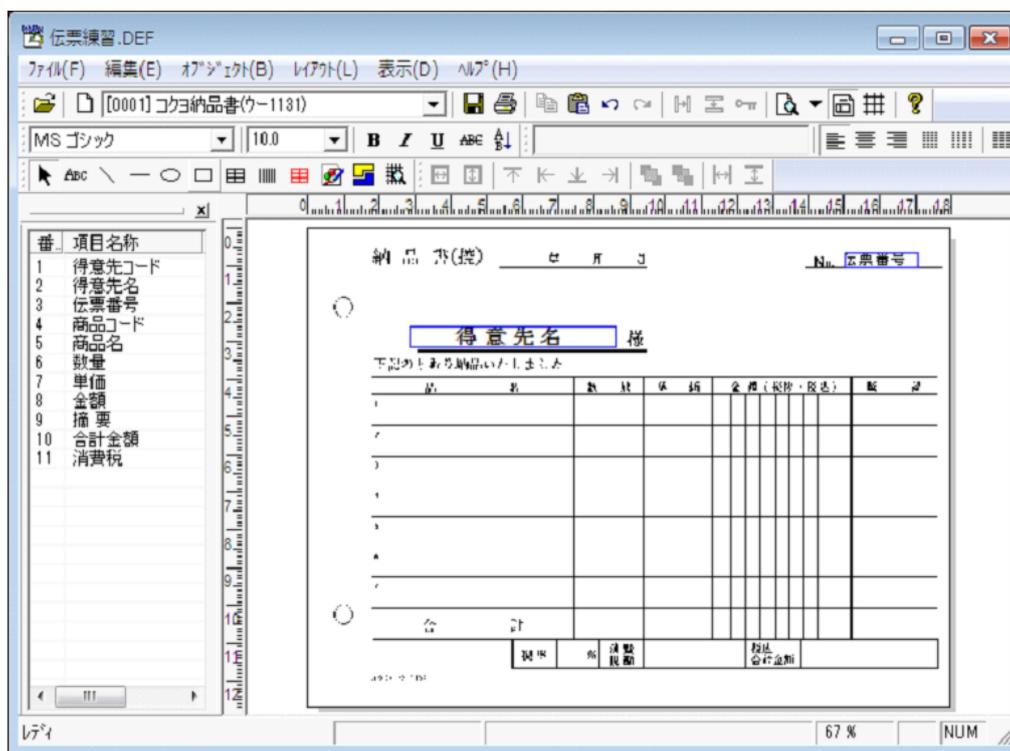
項目名	設定内容
種類	“任意サイズ” を選択します
サイズ	[横 (mm)] に “180.0”、[縦 (mm)] に “127.0” を指定します
フォームイメージ	チェックボックスをオンにし、[参照] ボタンをクリックして、表示された [ファイルを開く] ダイアログボックスで “3030 1131.bmp” を選択します



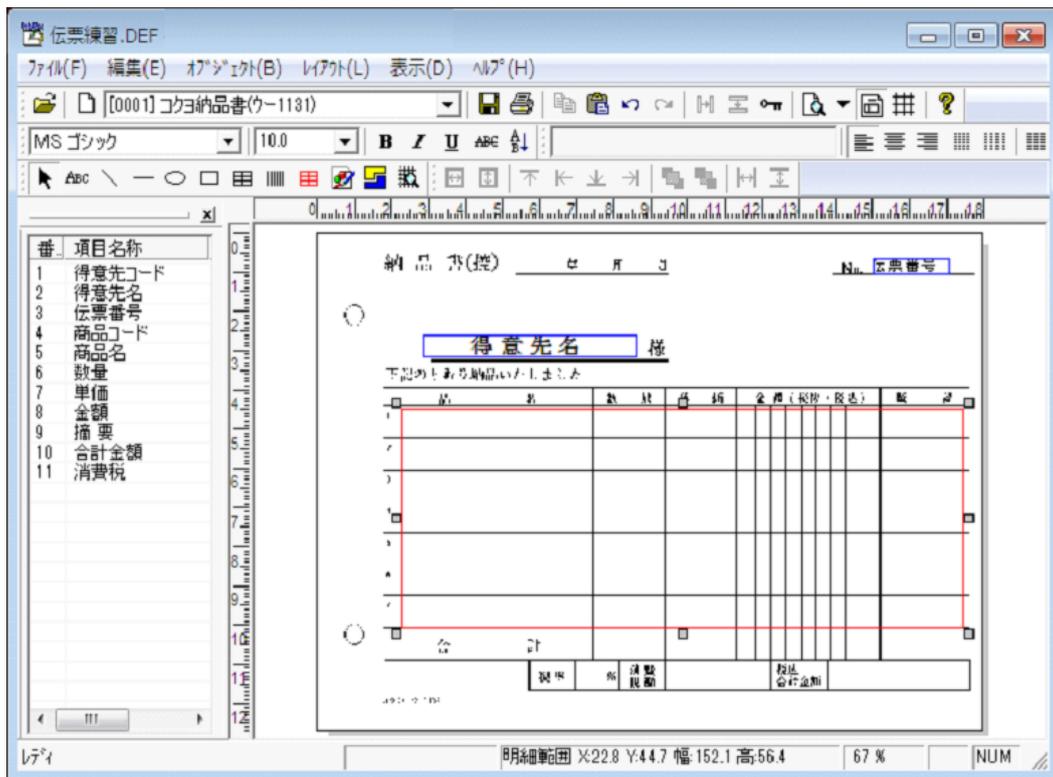
- 10 [OK] ボタンをクリックします。

納品書のイメージデータを配置したフォームが画面上に表示されます。

- 11 “伝票番号” と “得意先名” を固定項目オブジェクトとしてフォーム上に配置し、適切な文字属性に変更します。



- 12 [オブジェクト (B)] メニューの [明細範囲 (A)] メニューコマンドを選択し、明細範囲オブジェクトを配置します。

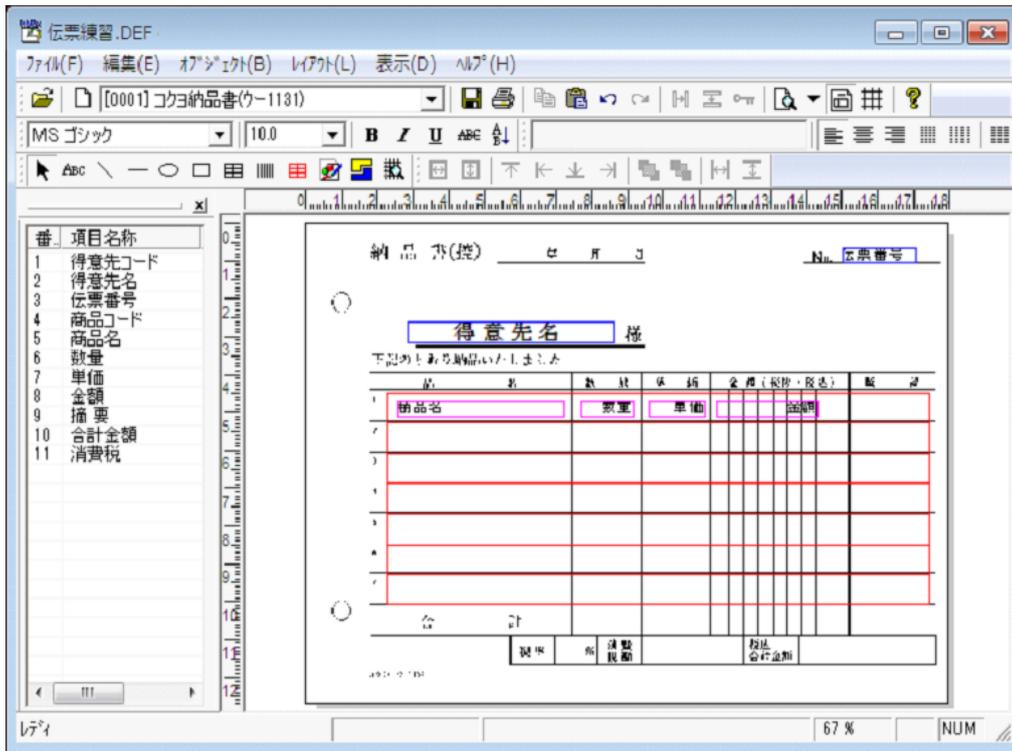


- 13 [オブジェクト (B)] メニューの [プロパティ (P)] メニューコマンドを選択し、表示された [明細範囲プロパティ] ダイアログボックスで [設定] タブの [明細行数] に“7”を指定して [OK] ボタンをクリックします。

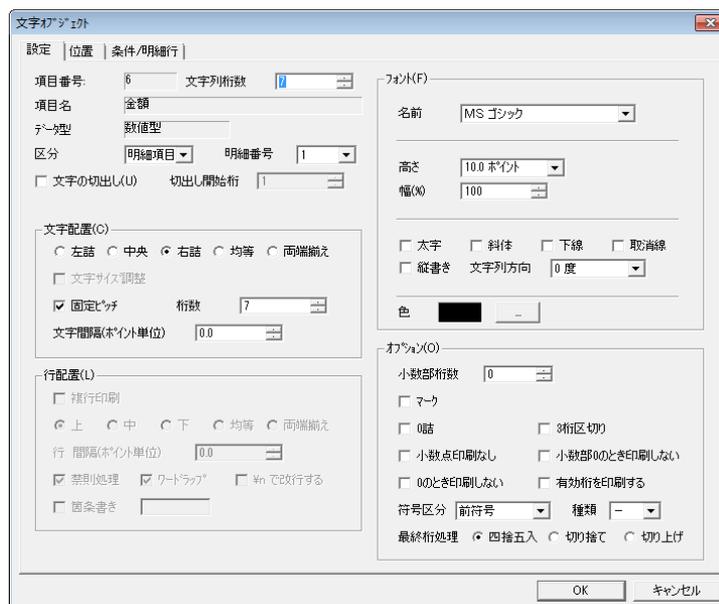
明細範囲オブジェクトが7行に分割されます。



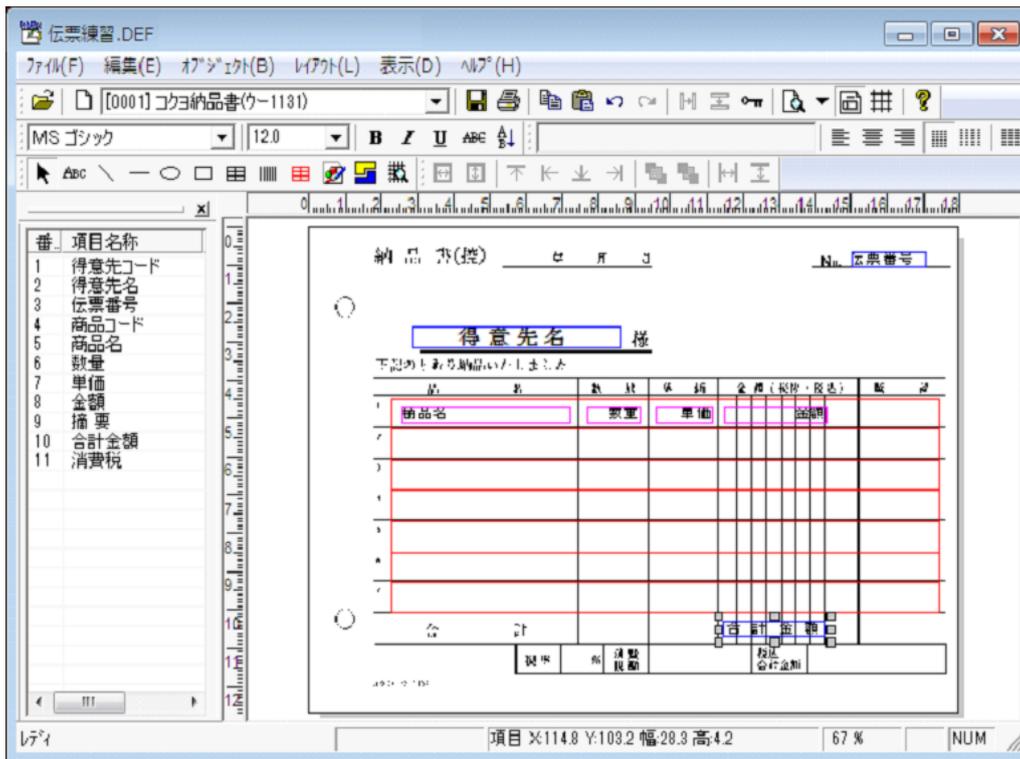
- 14 “商品名”、“数量”、“単価”、“金額”を明細範囲オブジェクトの1行目に配置し、適切な文字属性に変更します。



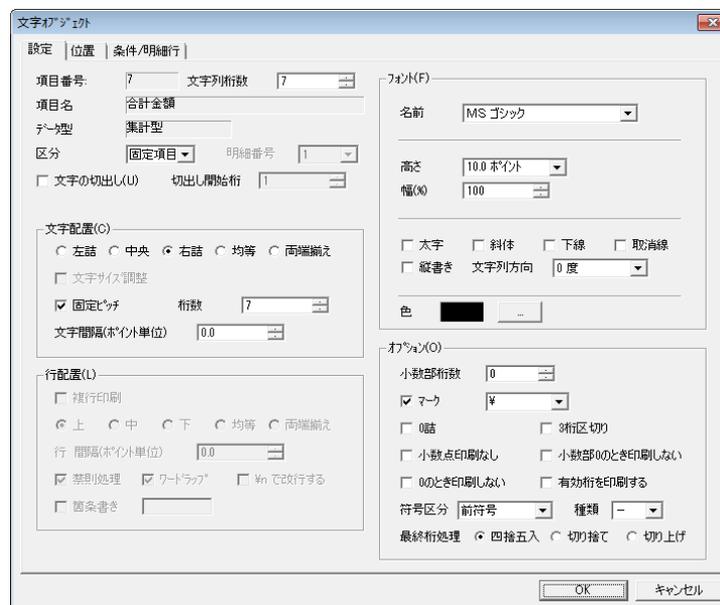
“金額”のように文字の送りが枠線によって決められているオブジェクトでは、文字属性に固定ピッチを指定します。明細項目オブジェクトをクリックした後 [オブジェクト (B)] メニューの [プロパティ (P)] メニューコマンドを選択するか、明細項目オブジェクト自体をダブルクリックして、表示された [文字オブジェクト] ダイアログボックスで [文字配置 (C)] の [固定ピッチ] チェックボックスをオンにし、桁数を指定します。



- 15 “合計金額”を固定項目オブジェクトとしてフォーム上に配置します。

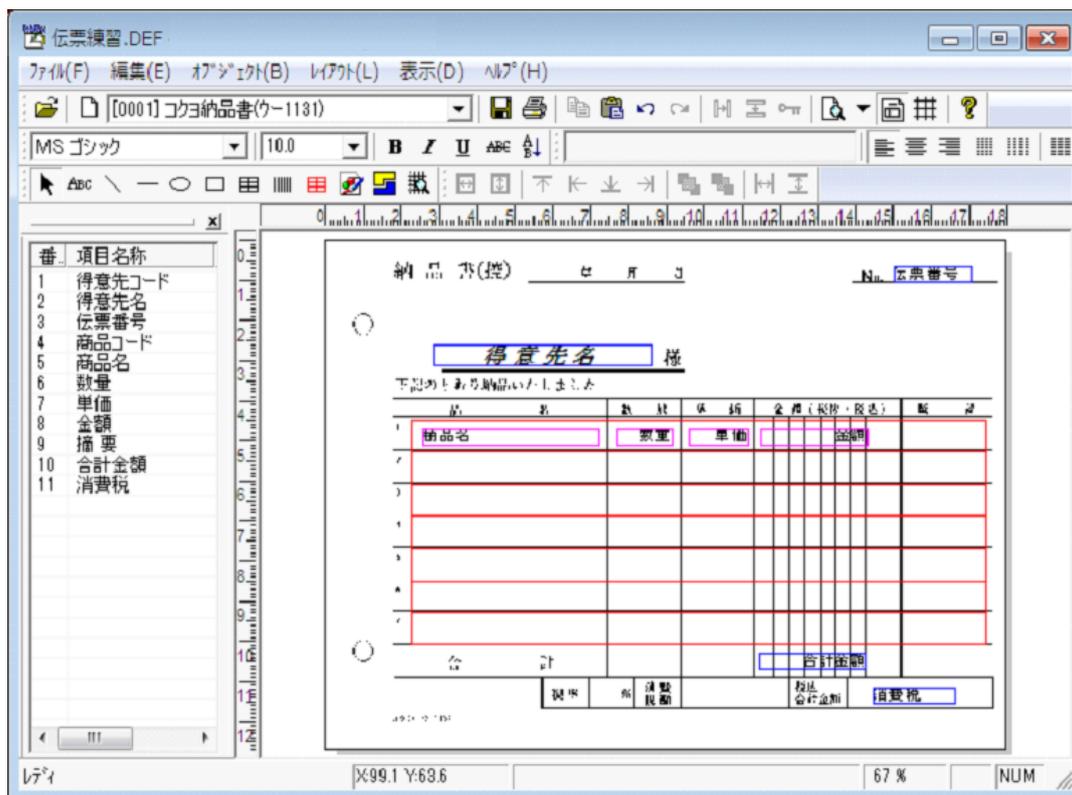


- 16 “合計金額”をダブルクリックして[文字オブジェクト]ダイアログボックスを表示し、[オプション(O)]の[マーク]チェックボックスをオンにした後、“¥”を指定して[OK]ボタンをクリックします。

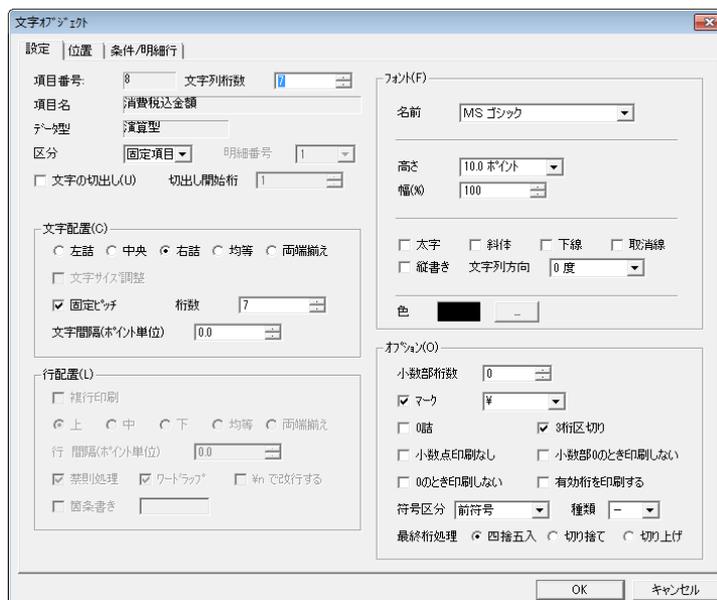


数値型の項目オブジェクトでは、Microsoft Excel から渡されたデータを印刷できなかったときに、その項目オブジェクトに指定されている桁数分のシャープ記号 (#) が表示されます。また、演算エラーが発生したときには、その項目オブジェクトの桁数分のアスタリスク (*) が表示されます。

- 17 手順 15~16 と同様に操作して、“消費税込金額”を固定項目オブジェクトとして配置し、適切な文字属性に変更します。

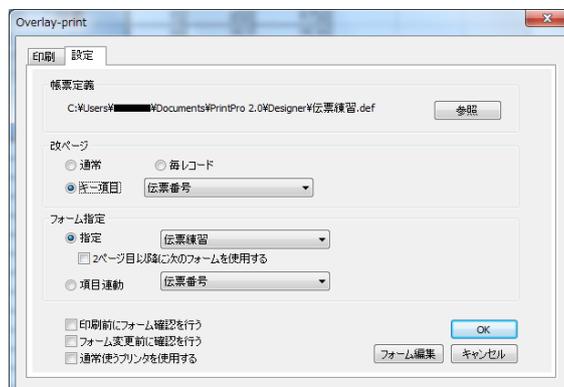


“消費税込金額”に対する [文字オブジェクト] ダイアログボックスでは、[オプション (O)] の [3桁区切り] チェックボックスもオンにします。



- 21 [設定] タブで [帳票定義] の [参照] ボタンをクリックして、表示された [ファイルを開く] ダイアログボックスで帳票定義ファイル“伝票練習.def”を選択します。

[帳票定義] に“伝票練習.def”のフルパス名が表示されます。



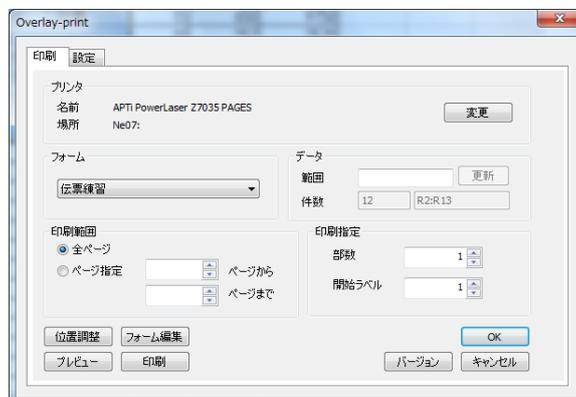
- 22 [改ページ] で [キー項目] オプションボタンを選択し、コンボボックスに“伝票番号”を指定します。



[キー項目] オプションボタンを選択しコンボボックスに“伝票番号”を指定することで、伝票番号に従って改ページ処理が実行され、同一の伝票番号を持つデータが1つの納品書に印刷されます。

- 23 [印刷] タブで [プレビュー] ボタンをクリックします。

[PrintPro 2.0 プレビュー] 画面が表示されます。



- 24 表示内容を確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。

納品書(控) _____ 年 月 日 No. 40616

(株) 桜咲いた商店様

下記のとおり納品いたしました

品名	数量	単価	金額(税抜・税込)				摘要		
1 醤油	10	257		2	5	7	0		
2 あやめ 盆付菓子器	20	4800		9	6	0	0		
3 貴舟 菓子鉢	50	1700		8	5	0	0		
4									
5									
6									
7									
合計			¥	1	8	3	5	7	0
	税率	%	消費	税額	税込	合計金額	192,749		

コクサ ウ-1131



表示倍率は、表示倍率指定コンボボックスで変更します。



[PrintPro 2.0 プレビュー] 画面の詳細については、このマニュアルの「2.6.4 印刷」を参照してください。

- 25 [PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスの [印刷] タブで [印刷] ボタンをクリックします。

Microsoft Excel のワークシートのデータが納品書に印刷されます。

- 26 [OK] ボタンをクリックして、[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスを閉じます。



[OK] ボタンをクリックすると、[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスで設定した内容が保存され、次回の印刷時のデフォルト値となります。

4.4 レポート印刷

“売上明細書”というレポートを作成します。

4.4.1 単純なレポートの印刷

売上明細と合計を示す、次のような売上明細書を作成します。

売上明細書		2/2		
部門		第一営業部		
得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1000
	2001/3/4	筆箱	5	5000
	2001/3/5	筆箱	6	6000
	2001/3/5	筆箱	10	10000
		得意先合計	41	22000
		総合計		

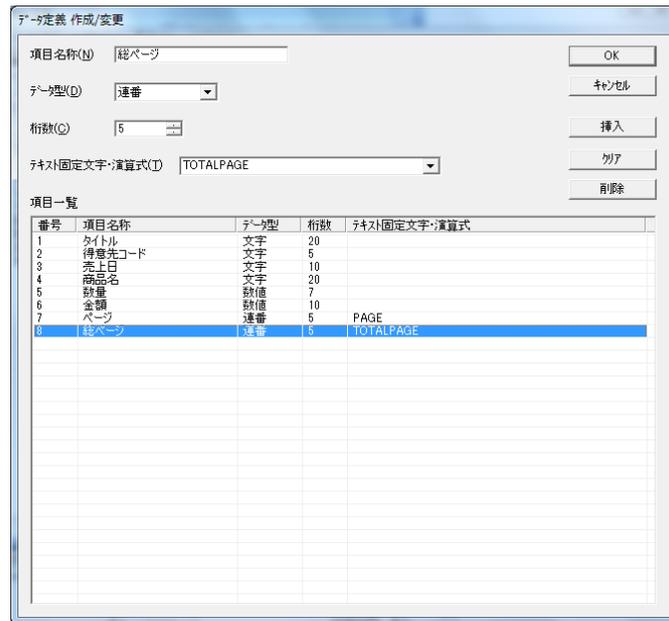
1 [ファイル (F)] メニューの [新規作成 (N)] メニューコマンドを選択します。

[データ定義 作成/変更] ダイアログボックスが表示されます。



2 [項目一覧] で新たな行を選択し、次の内容を順に設定します。

項目名称 (N)	データ型 (D)	桁数 (C)	テキスト固定文字・演算式 (T)
タイトル	文字	20	
得意先コード	文字	5	
売上日	文字	10	
商品名	文字	20	
数量	数値	7	
金額	数値	10	
ページ	連番	5	PAGE
総ページ	連番	5	TOTALPAGE

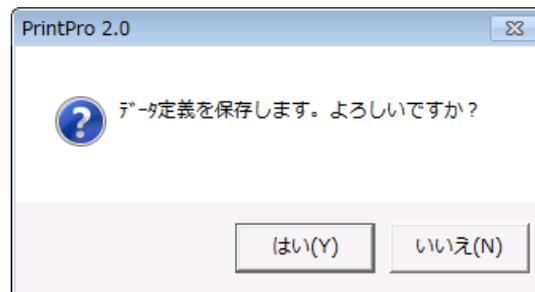


3 [OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

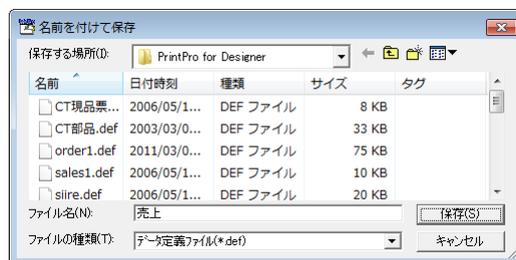
4 [はい (Y)] ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



5 [ファイル名 (N)] に“売上”と設定し、[保存 (S)] ボタンをクリックします。

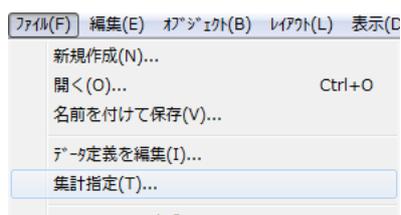
[ページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 [OK] ボタンをクリックして、[ページ設定] ダイアログボックスを閉じます。



- 7 [ファイル (F)] メニューの [集計指定 (T)] メニューコマンドを選択します。
[集計指定] ダイアログボックスが表示されます。



- 8 [集計機能を使用する] チェックボックスをオンにします。



[集計指定] ダイアログボックスの詳細については、このマニュアルの「2.2 集計の設定」を参照してください。

9 [集計 1] チェックボックスをオンにし、次のとおりに設定します。

項目名	設定内容
項目	“[2]得意先コード” を指定します
フッター	チェックボックスをオンにします
後改ページ	チェックボックスをオンにします

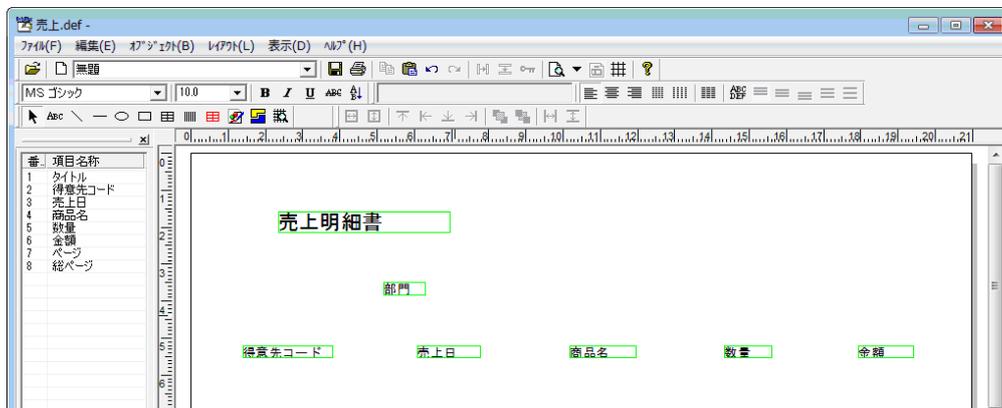
10 [総合計] チェックボックスと、[フッター] チェックボックスをオンにします。

11 [集計行が続く場合改ページしない] チェックボックスをオンにします。

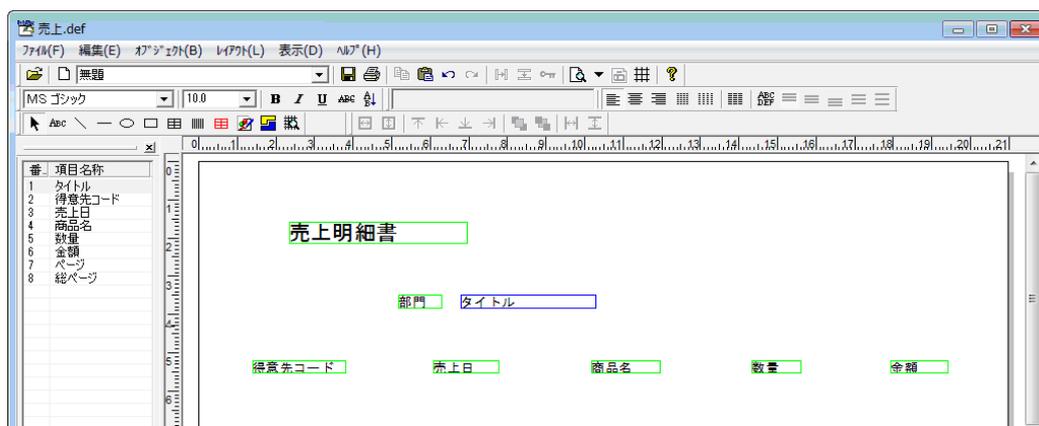
12 [保存] ボタンをクリックします。

13 フォーム上に次の固定文字オブジェクトを配置し、適切な文字属性に変更します。

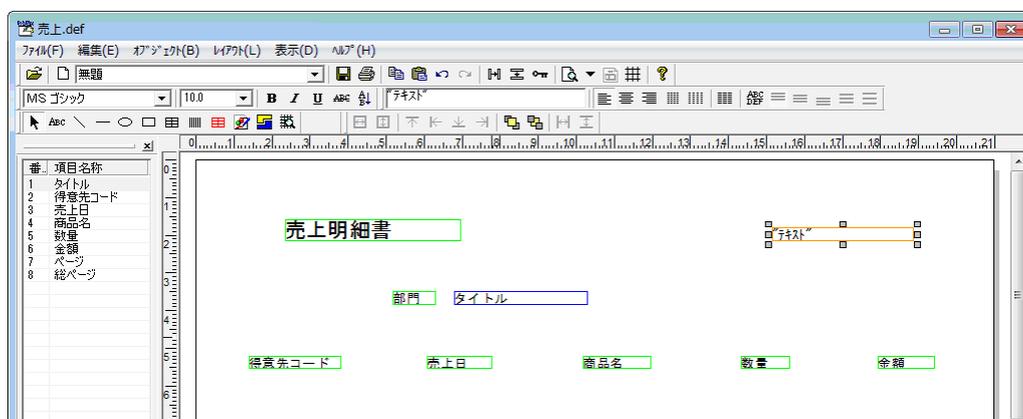
- 売上明細書
- 部門
- 得意先コード
- 売上日
- 商品名
- 数量
- 金額



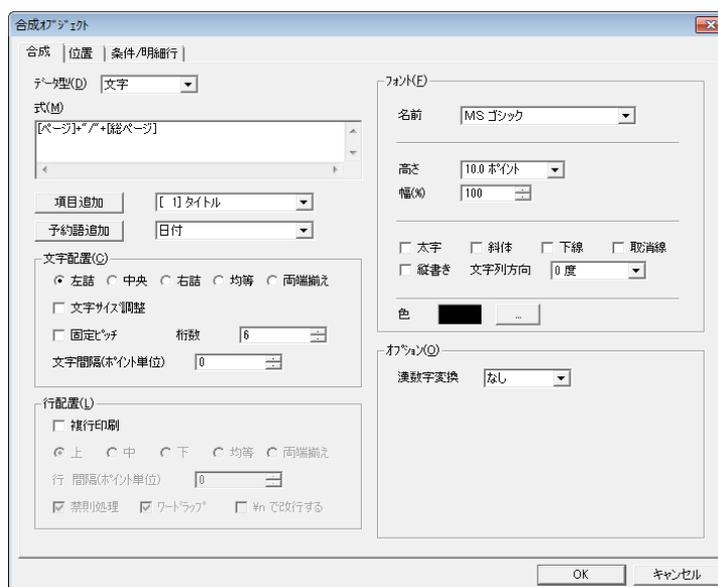
- 14 “タイトル”を固定項目オブジェクトとしてフォーム上に配置します。



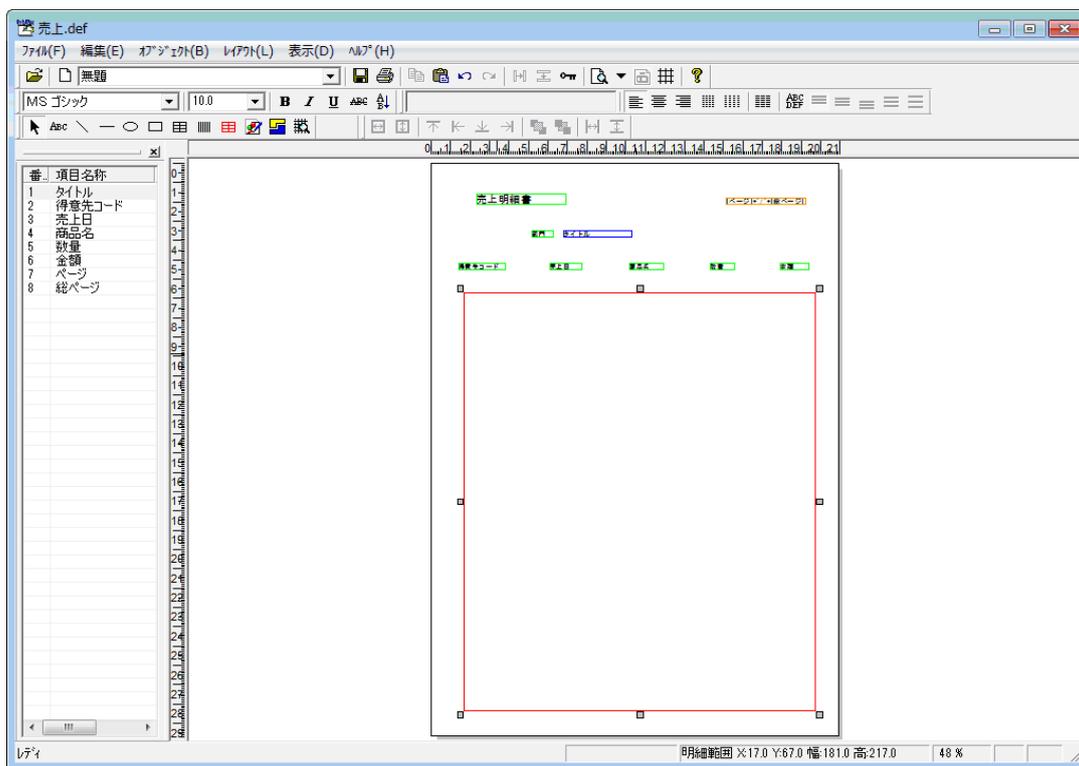
- 15 [オブジェクト (B)] メニューの [合成 (X)] メニューコマンドを選択し、合成オブジェクトを配置します。



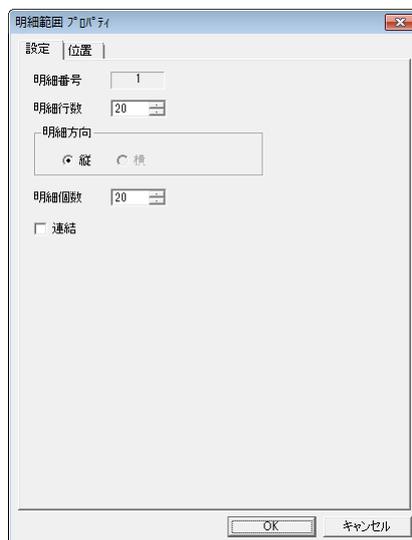
- 16 合成オブジェクトをダブルクリックして [合成オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[式 (M)] の内容を “[ページ]+"/"+[総ページ]” に変更します。



- 17 [オブジェクト (B)] メニューの [明細範囲 (A)] メニューコマンドを選択し、明細範囲オブジェクトを配置します。

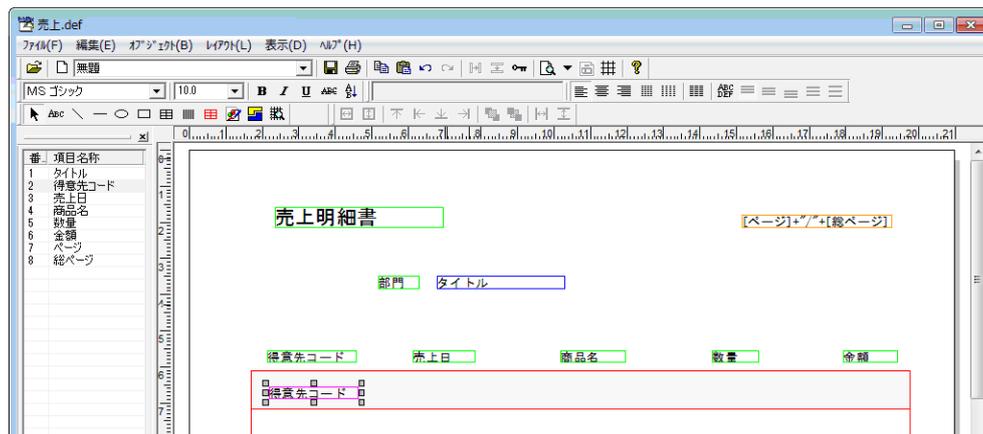


- 18 明細範囲オブジェクトをダブルクリックして [明細範囲] プロパティを表示し、[明細行数] の値を“20”に変更します。

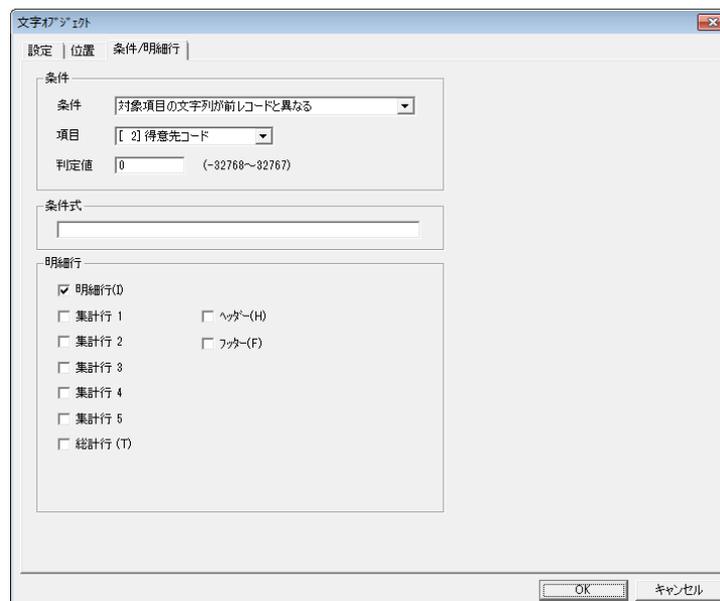


明細範囲オブジェクトを20行に分割すると、1行目のみが塗りつぶされて表示されます。実際には、塗りつぶされた行と同じ高さの行が20行分確保されます。

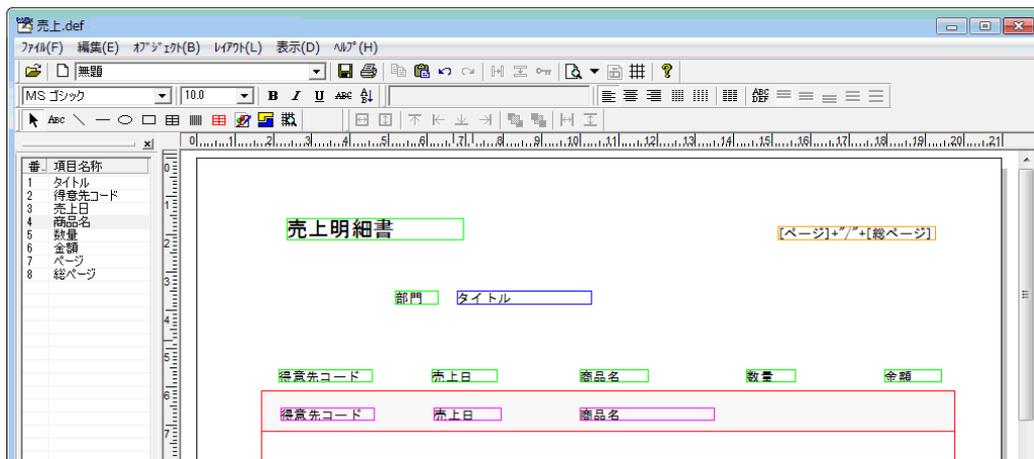
- 19 “得意先コード”を明細範囲オブジェクトの1行目に配置します。



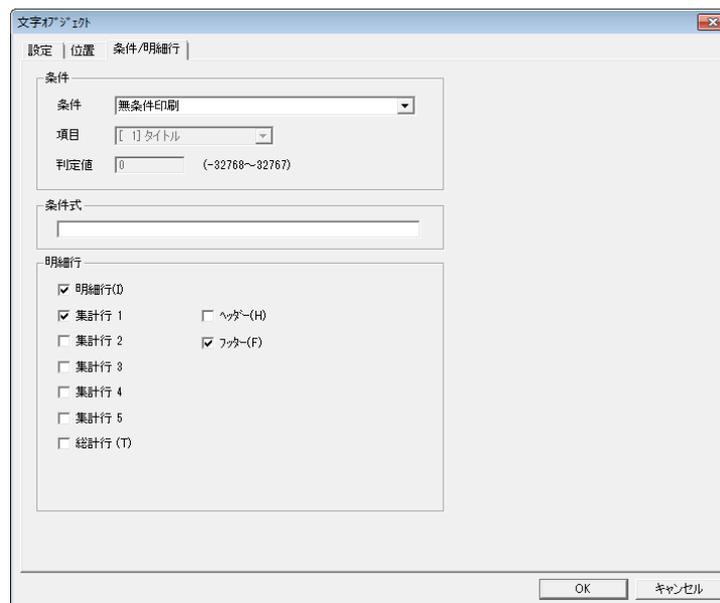
- 20 “得意先コード”をダブルクリックして [文字オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[条件/明細行] タブで [条件] に“対象項目の文字列が前レコードと異なる”、[項目] に “[2]得意先コード”をそれぞれ指定します。



- 21 “売上日”と“商品名”をそれぞれ明細範囲オブジェクトの1行目に配置します。

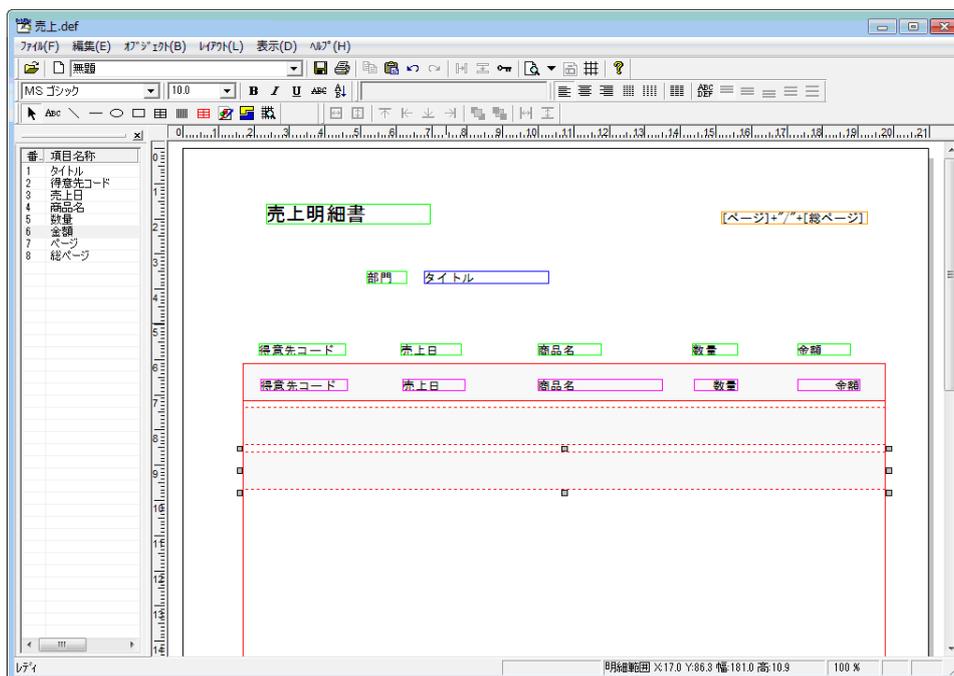


- 22 “数量”を明細範囲オブジェクトの1行目に配置した後、ダブルクリックして[文字オブジェクト]ダイアログボックスを表示し、[条件/明細行]タブで[明細行]の[明細行(I)]、[集計行1]、[フッター(F)]のチェックボックスをそれぞれオンにします。

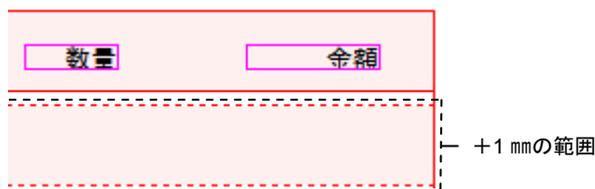


- 23 手順 22 と同様に操作して、“金額”を明細範囲オブジェクトの1行目に配置し、[文字オブジェクト]ダイアログボックスの[条件/明細行]タブで[明細行]の[明細行(I)]、[集計行1]、[フッター(F)]チェックボックスをそれぞれオンにします。

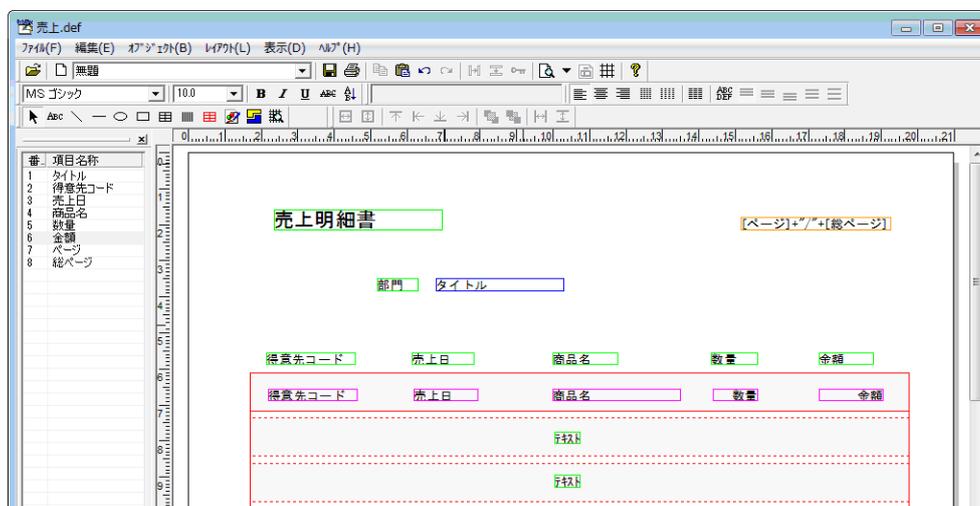
- 24 [オブジェクト (B)] メニューの [明細範囲 (A)] メニューコマンドを選択して、明細範囲オブジェクトを配置します。



- 明細範囲オブジェクトは、2つ配置します。
- 追加した明細範囲オブジェクトの上下+1 mmの範囲内に配置したオブジェクトは、手順 17 で配置した明細範囲オブジェクトを上書きする形で印刷されます。

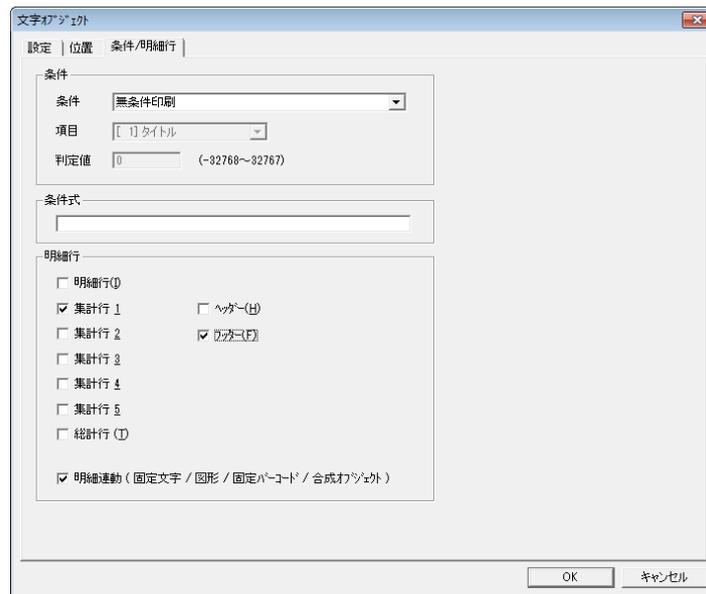


- 25 [オブジェクト (B)] メニューの [文字 (F)] メニューコマンドを選択して、追加した明細範囲オブジェクトに固定文字オブジェクトをそれぞれ配置します。



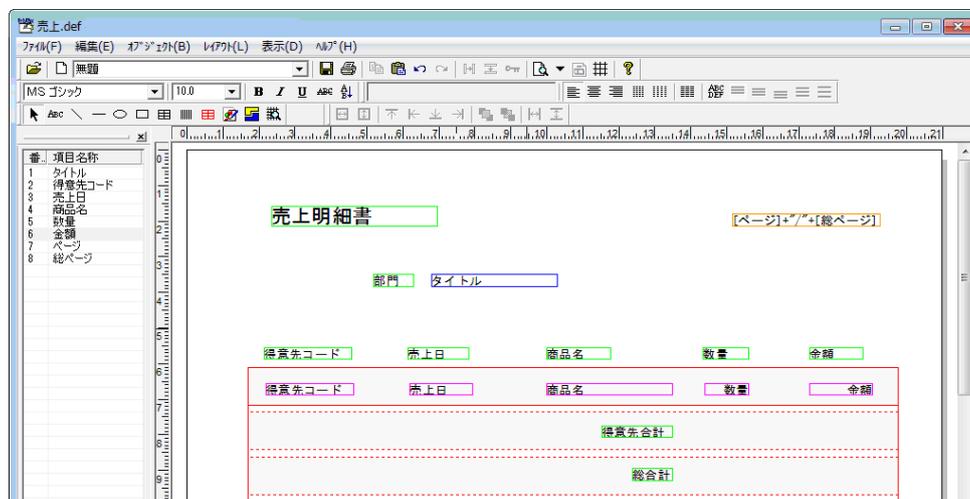
- 26 追加した固定文字オブジェクトのうち上段のものをダブルクリックして [文字オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[設定] タブと [条件/明細行] タブにそれぞれ次の値を設定します。

タブ名	項目名	設定内容
設定	固定文字 (B)	“得意先合計” に変更します
条件/明細行	明細行	[明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)] チェックボックスをオンにした後、[集計行 1] と [フッター (F)] チェックボックスをオンにします

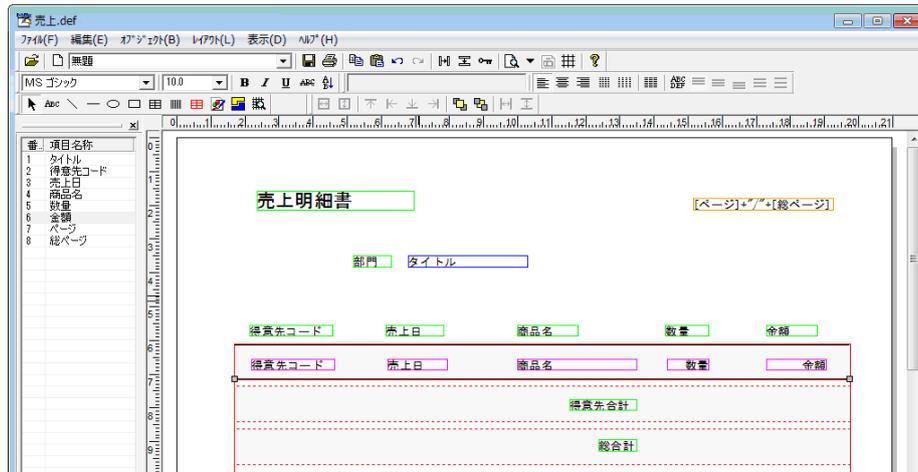


- 27 手順 26 と同様に操作して、追加した固定文字オブジェクトのうち下段のものの [文字オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、次の値を設定します。

タブ名	項目名	設定内容
設定	固定文字 (B)	“総合計” に変更します
条件/明細行	明細行	[明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)] チェックボックスをオンにした後、[総計行] と [フッター (F)] チェックボックスをオンにします



- 28 [オブジェクト (B)] メニューの [水平線 垂直線 (V)] メニューコマンドを選択し、明細行と集計行を見やすくするための罫線を2本引きます。



- 29 下側の罫線をダブルクリックして [図形オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[条件/明細行] タブの [明細行] で [明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)] チェックボックスをオンにした後、[明細行 (I)]、[集計行 1]、[集計行 (T)]、[フッター (F)] の各チェックボックスをオンにします。



- 30 [ファイル (F)] メニューの [フォームに名前を付けて保存 (A)] メニューコマンドを選択します。
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



- 31 [フォーム名 (N)] に“売上明細”と指定し、[OK] ボタンをクリックします。

名前を付けて保存

予定義ファイル名 売上.def

フォーム名(N) 売上明細 OK

コード(C) キャンセル

フォーム一覧(L)

- 32 ここまでの作業を終えることで、次のようなレポートを印刷できます。

Preview

2/2 K < > X 表示 全件 開じる

売上明細書 2/2

部門 第一営業部

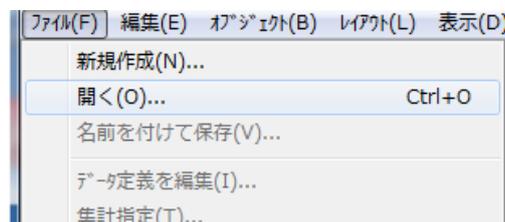
得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
#0002	2001/3/4	消しゴム	20	1000
	2001/3/4	筆箱	5	5000
	2001/3/5	筆箱	6	6000
	2001/3/5	筆箱	10	10000
		得意先合計	41	22000
		總合計		

4.4.2 小計などを含めたレポートの印刷

得意先ごとの小計を含めた、次のような売上明細書を作成します。

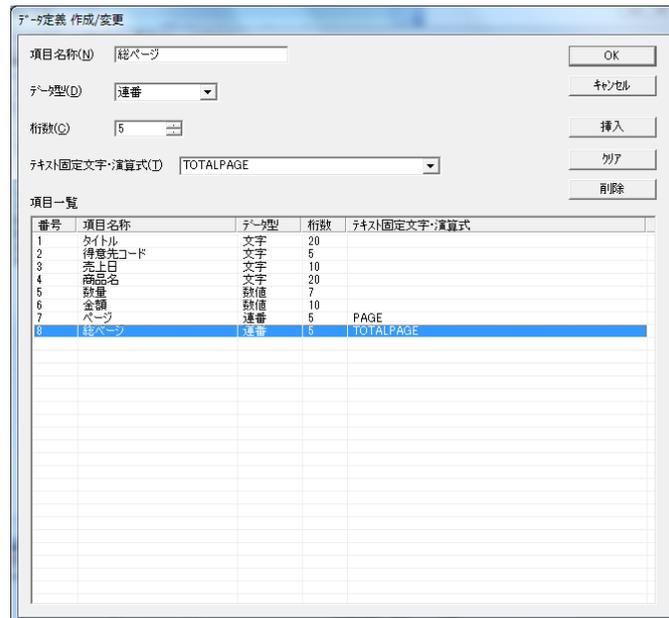
売上明細書				
1 / 1				
部門 第一営業部				
得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500
			10	1000
		ボールペン	10	1000
	2001/3/4	ボールペン	20	2000
		消しゴム	5	250
小計			50	4750
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1000
		筆箱	5	5000
	2001/3/5	筆箱	6	6000
			10	10000
		小計	41	22000
合計			91	26750

- 1 [ファイル (F)] メニューの [新規作成 (N)] メニューコマンドを選択します。
[データ定義 作成/変更] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [項目一覧] で新たな行を選択し、次の内容を順に設定します。

項目名称 (N)	データ型 (D)	桁数 (C)	テキスト固定文字・演算式 (T)
タイトル	文字	20	
得意先コード	文字	5	
売上日	文字	10	
商品名	文字	20	
数量	数値	7	
金額	数値	10	
ページ	連番	5	PAGE
総ページ	連番	5	TOTALPAGE

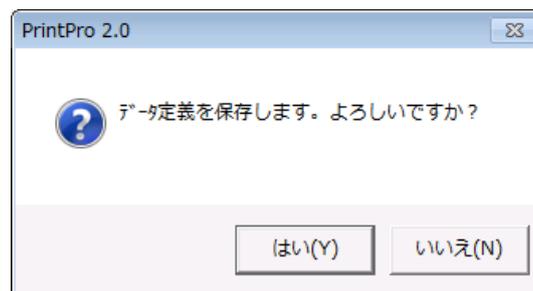


- 3 [OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

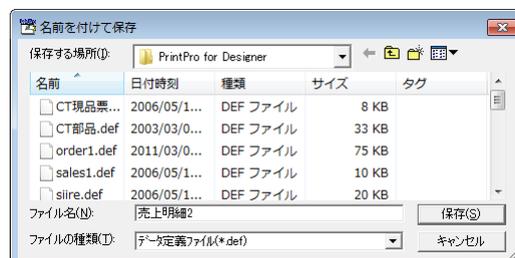
- 4 [はい (Y)] ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

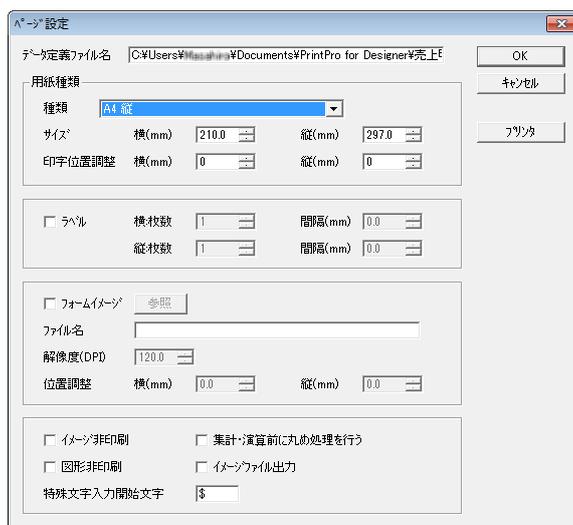


- 5 [ファイル名 (N)] に“売上明細 2”と設定し、[保存 (S)] ボタンをクリックします。

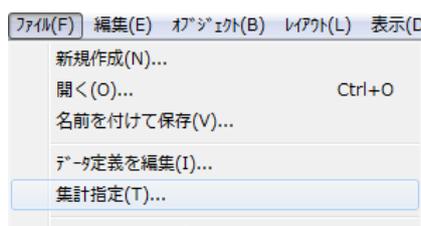
[ページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 [OK] ボタンをクリックして、[ページ設定] ダイアログボックスを閉じます。



- 7 [ファイル (F)] メニューの [集計指定 (T)] メニューコマンドを選択します。
[集計指定] ダイアログボックスが表示されます。



- 8 [集計機能を使用する] チェックボックスをオンにします。



[集計指定] ダイアログボックスの詳細については、このマニュアルの「2.2 集計の設定」を参照してください。

- 9 [集計 3] チェックボックスをオンにし、次のとおりに設定します。

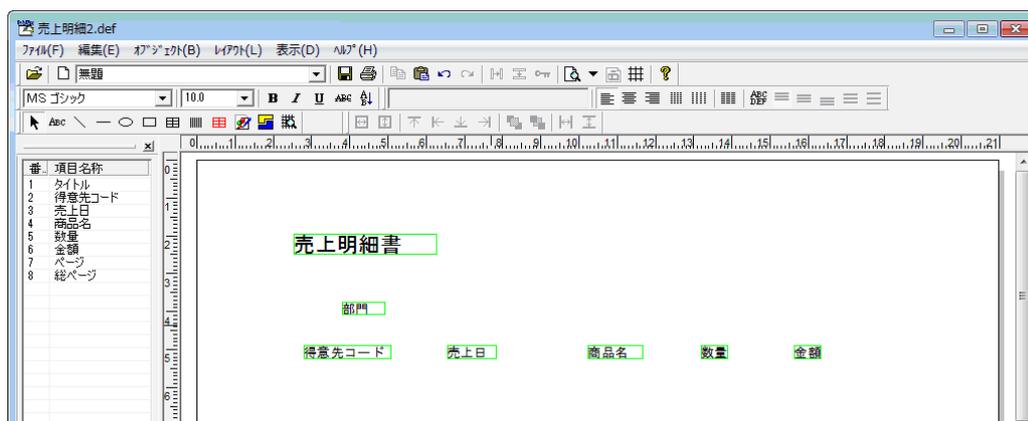
項目名	設定内容
項目	“[2]得意先コード” を指定します
フッター	チェックボックスをオンにします

- 10 [総合計] チェックボックスと、[フッター] チェックボックスをオンにします。

- 11 [保存] ボタンをクリックします。

- 12 フォーム上に次の固定文字オブジェクトを配置し、適切な文字属性に変更します。

- ・ 売上明細書
- ・ 部門
- ・ 得意先コード
- ・ 売上日
- ・ 商品名
- ・ 数量
- ・ 金額



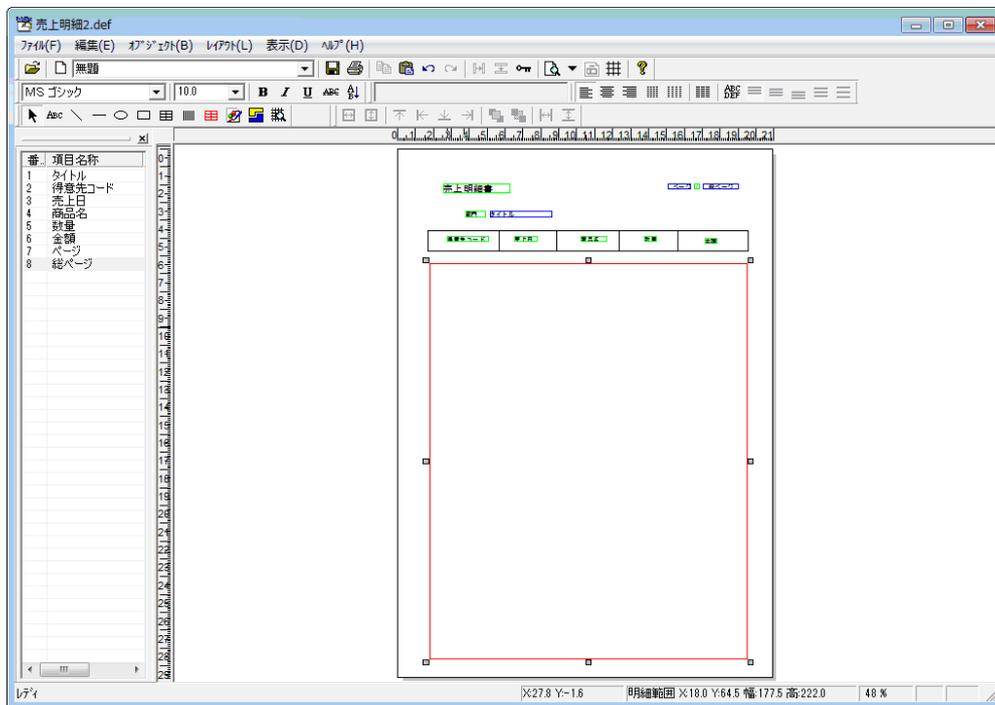
- 13 [オブジェクト (B)] メニューの [矩形 (R)] や [水平線 垂直線 (V)] メニューコマンドを選択して、“得意先コード”、“売上日”、“商品名”、“数量”、“金額”を罫線で囲みます。



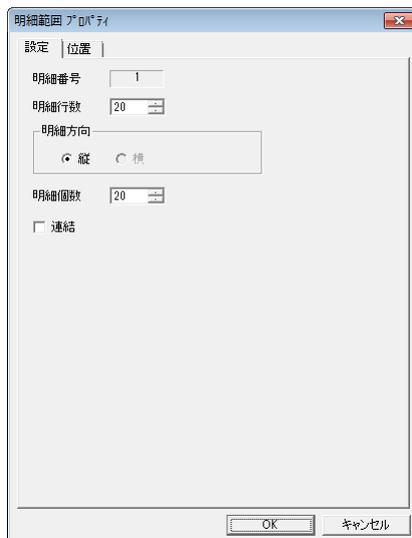
- 14 “タイトル”、“ページ”、“総ページ”を固定項目オブジェクトとしてフォーム上に配置します。



- 15 [オブジェクト (B)] メニューの [明細範囲 (A)] メニューコマンドを選択し、明細範囲オブジェクトを配置します。

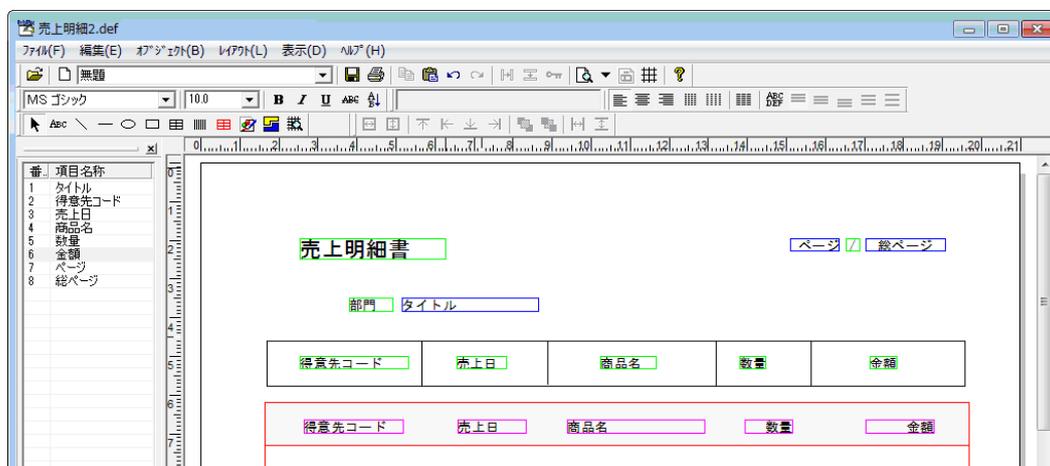


- 16 明細範囲オブジェクトをダブルクリックして [明細範囲] プロパティを表示し、[明細行数] の値を “20” に変更します。

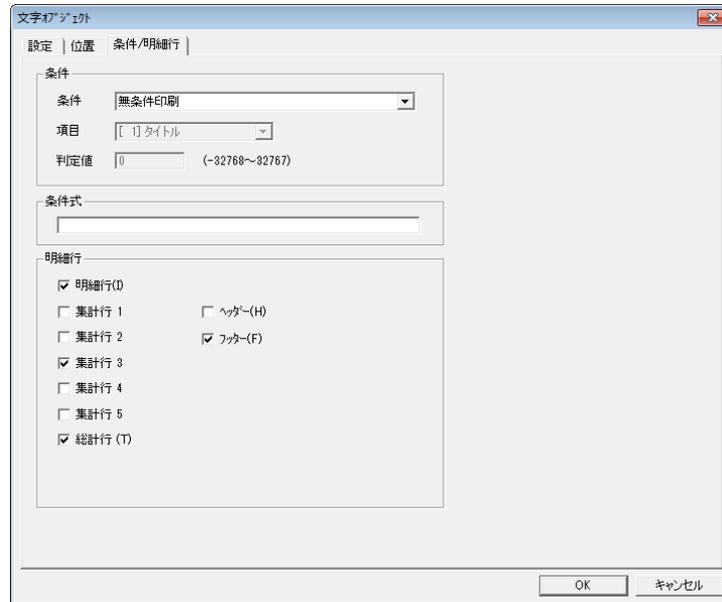


明細範囲オブジェクトを 20 行に分割すると、1 行のみが塗りつぶされて表示されます。実際には、塗りつぶされた行と同じ高さの行が 20 行分確保されます。

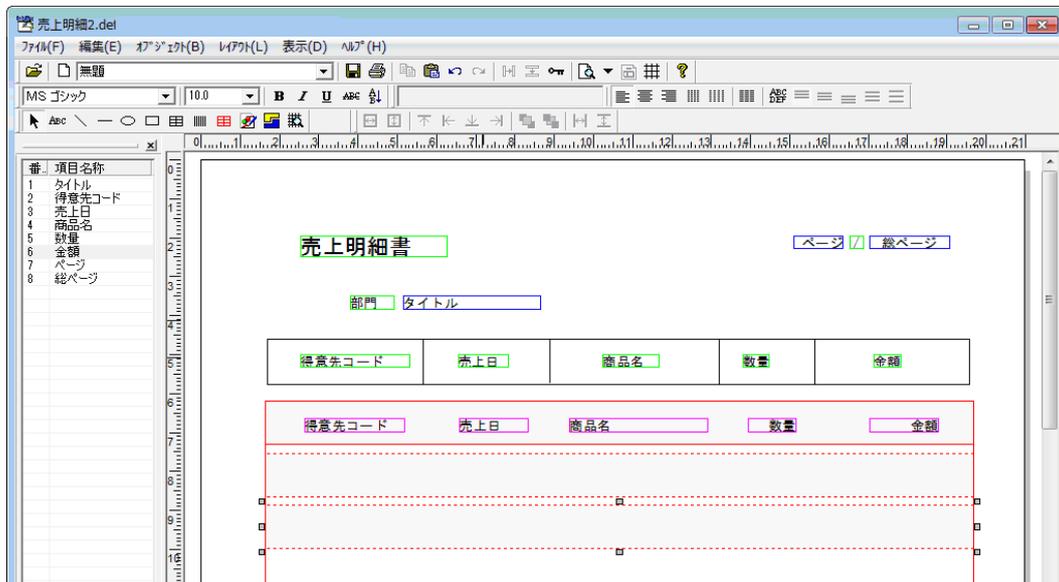
- 17 “得意先コード”、“売上日”、“商品名”、“数量”、“金額”を明細範囲オブジェクトの 1 行目にそれぞれ配置します。



- 18 明細範囲オブジェクトに配置した“数量”をダブルクリックして [文字オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[条件/明細行] タブで [明細行] の [明細行 (I)] に加えて [集計行 3]、[総計行 (T)]、[フッター (F)] のチェックボックスをそれぞれオンにします。



- 19 手順 18 と同様に操作して、“金額”をダブルクリックして [文字オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[条件/明細行] タブで [明細行] の [明細行 (I)]、[集計行 3]、[総計行 (T)]、[フッター (F)] の各チェックボックスをオンにします。
- 20 [オブジェクト (B)] メニューの [明細範囲 (A)] メニューコマンドを選択して、明細範囲オブジェクトを配置します。

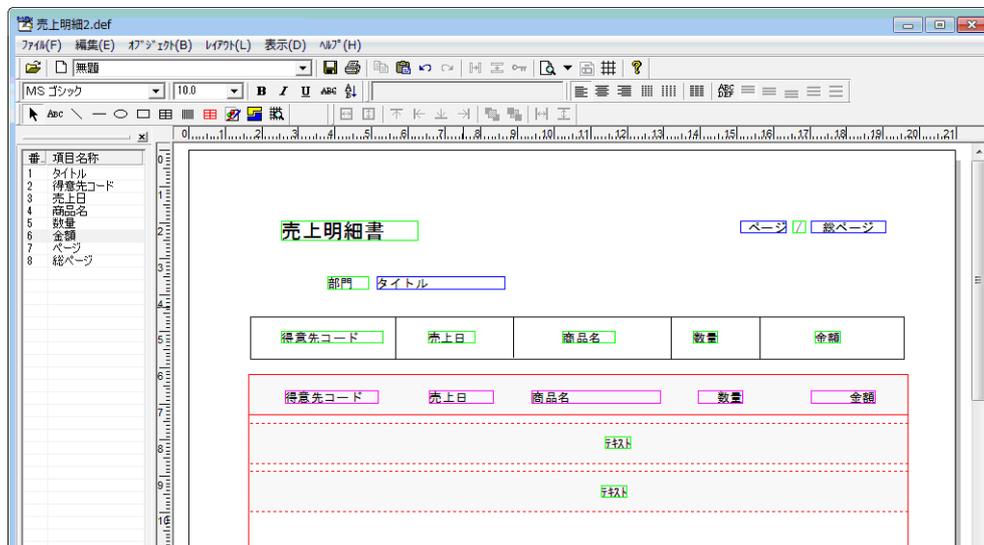




- 明細範囲オブジェクトは、2つ配置します。
- 追加した明細範囲オブジェクトの上下+1 mmの範囲内に配置したオブジェクトは、手順 15 で配置した明細範囲オブジェクトを上書きする形で印刷されます。

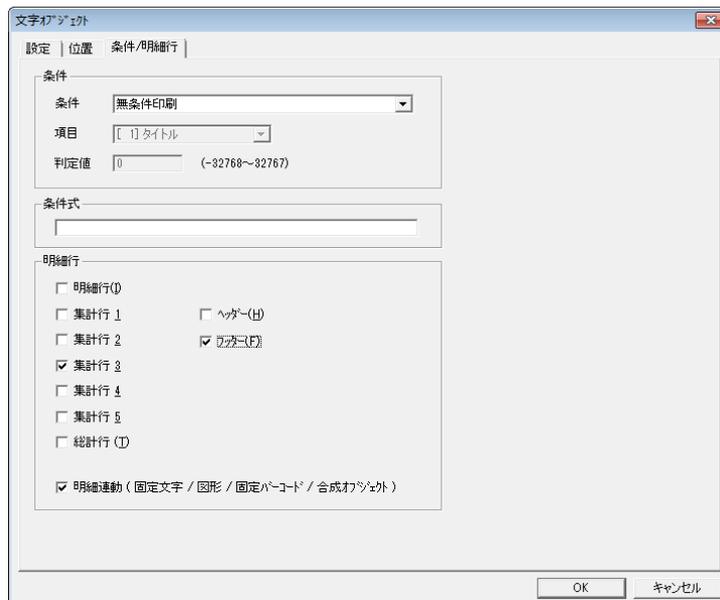


- 21 [オブジェクト (B)] メニューの [文字 (F)] メニューコマンドを選択して、追加した明細範囲オブジェクトに固定文字オブジェクトをそれぞれ配置します。



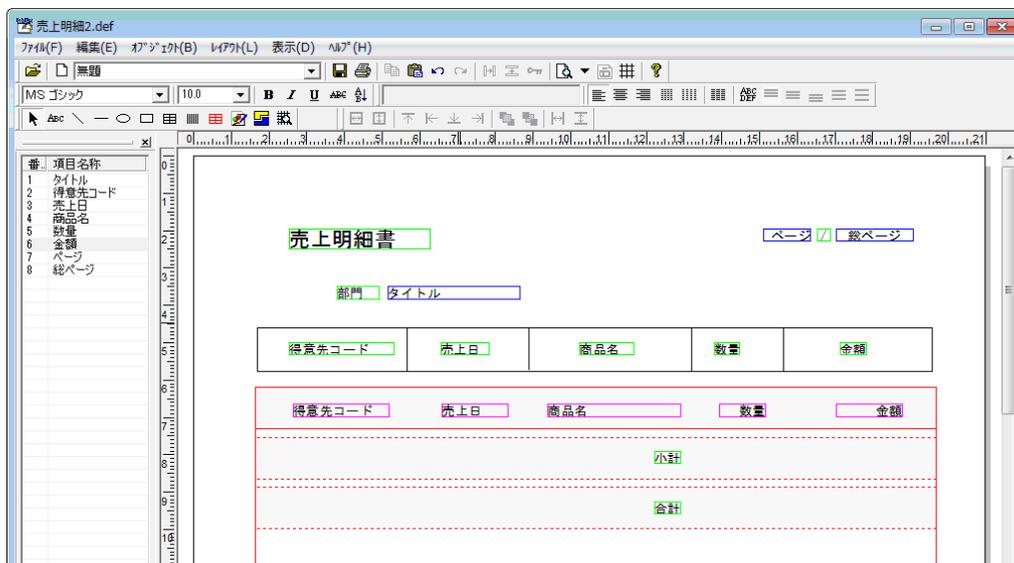
- 22 追加した固定文字オブジェクトのうち上段のものをダブルクリックして [文字オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[設定] タブと [条件/明細行] タブにそれぞれ次の値を設定します。

タブ名	項目名	設定内容
設定	固定文字 (B)	“小計” に変更します
条件/明細行	明細行	[明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)] チェックボックスをオンにした後、[集計行 3] と [フッター (F)] チェックボックスをオンにします

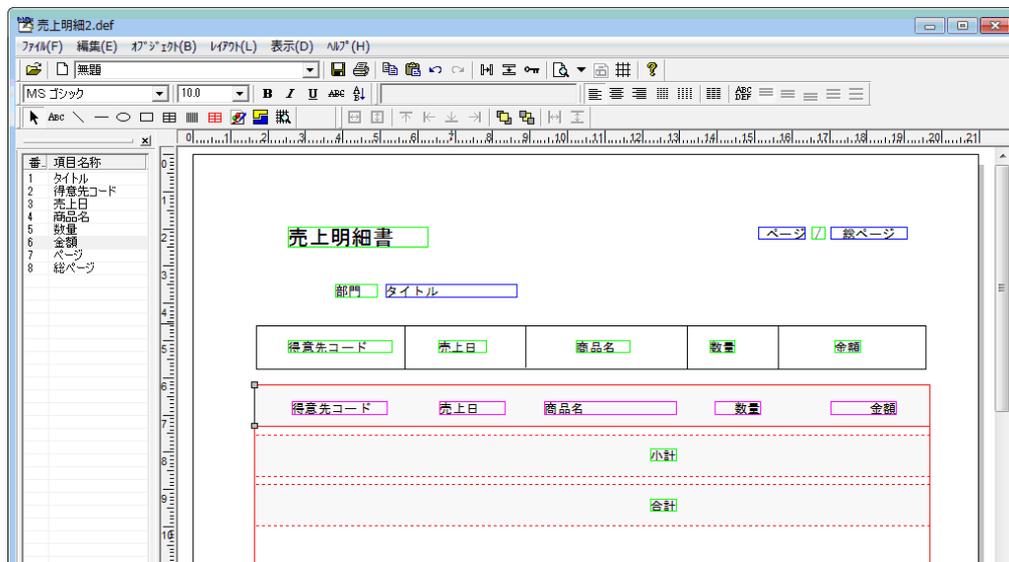


- 23 手順 22 と同様に操作して、追加した固定文字オブジェクトのうち下段のものの [文字オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、次の値を設定します。

タブ名	項目名	設定内容
設定	固定文字 (B)	“合計” に変更します
条件/明細行	明細行	[明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)] チェックボックスをオンにした後、[総計行] と [フッター (F)] チェックボックスをオンにします



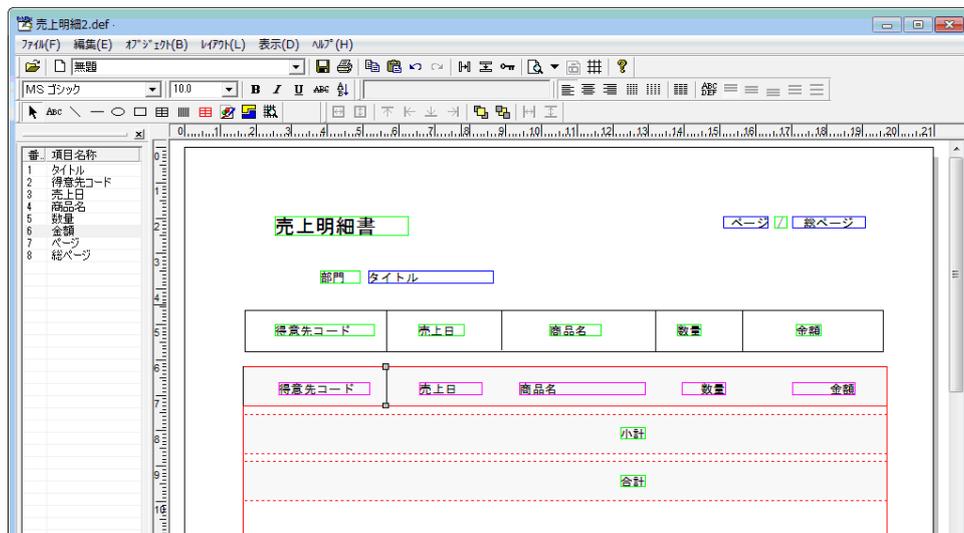
- 24 [オブジェクト (B)] メニューの [水平線 垂直線 (V)] メニューコマンドを選択し、“得意先コード”の左端に縦罫線を引きます。



- 25 [オブジェクト (B)] メニューの [プロパティ (P)] メニューコマンドを選択して [図形オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[条件/明細行] タブで [明細行] の [明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)] チェックボックスをオンにした後、[明細行 (I)]、[集計行 3]、[統計行 (T)]、[フッター (F)] の各チェックボックスをオンにします。



- 26 [オブジェクト (B)] メニューの [水平線 垂直線 (V)] メニューコマンドを選択し、“売上日”の左端に縦罫線を引きます。

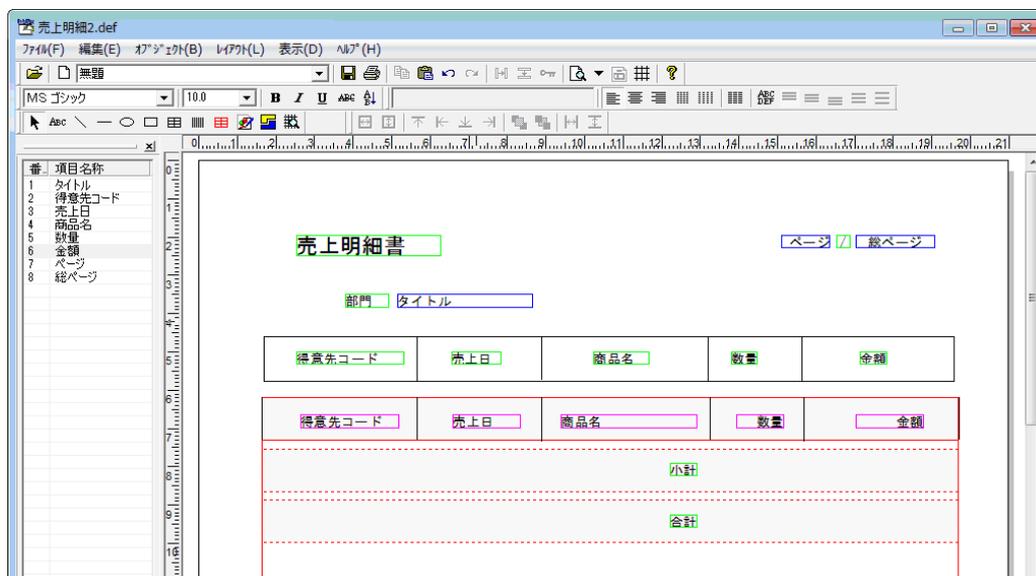


- 27 [オブジェクト (B)] メニューの [プロパティ (P)] メニューコマンドを選択して [図形オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[条件/明細行] タブで [明細行] の [明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)] チェックボックスをオンにした後、[明細行 (I)] チェックボックスをオンにします。

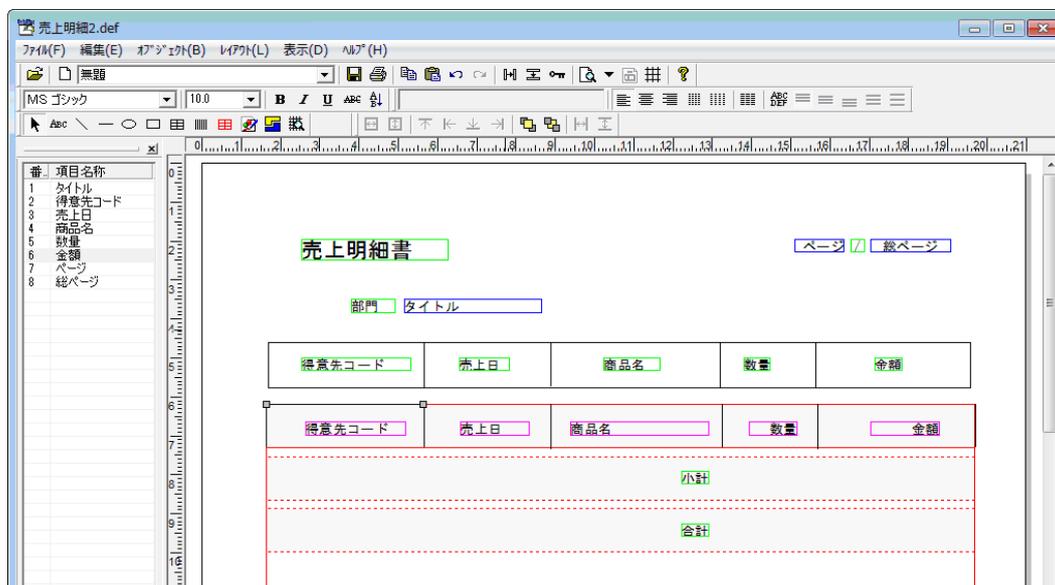


- 28 手順 26~27 と同様に操作して、“商品名”の左端に縦罫線を引き、[図形オブジェクト] ダイアログボックスの [条件/明細行] タブで [明細行] の [明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)] と [明細行 (I)] チェックボックスをオンにします。

- 29 手順 24~25 と同様に操作して、“数量”の左端と“金額”の両端にそれぞれ縦罫線を引き、[図形オブジェクト] ダイアログボックスの[条件/明細行] タブで[明細行]の[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]、[明細行(I)]、[集計行3]、[統計行(T)]、[フッター(F)]の各チェックボックスをオンにします。

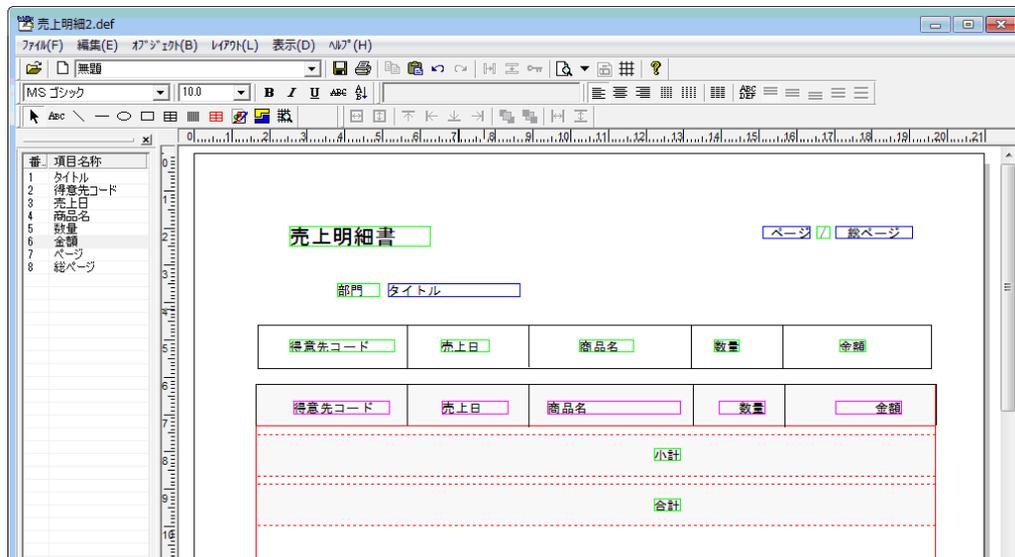


- 30 [オブジェクト(B)]メニューの[水平線 垂直線(V)]メニューコマンドを選択して、“得意先コード”の上端に横罫線を引きます。

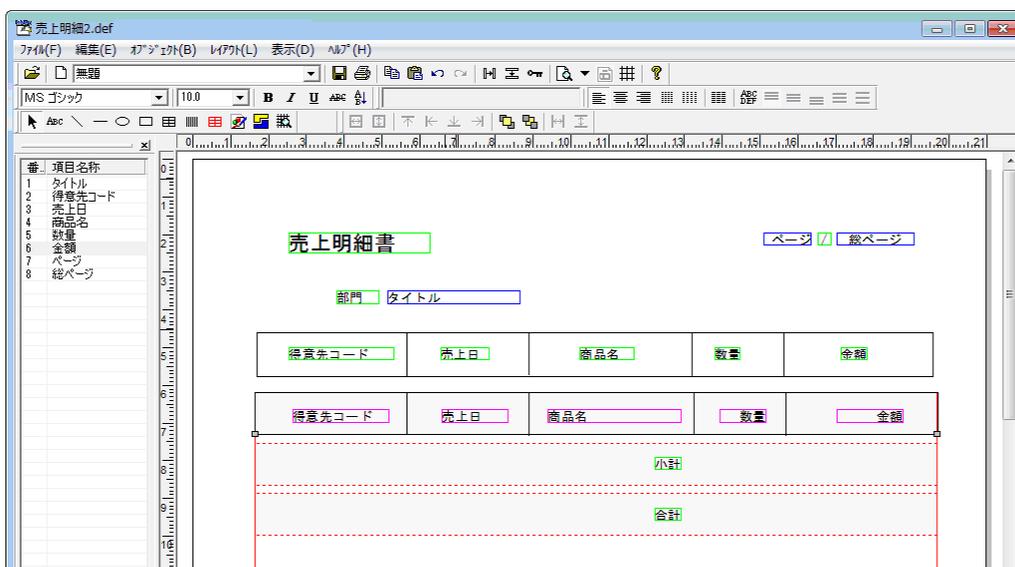


- 31 [オブジェクト(B)]メニューの[プロパティ(P)]メニューコマンドを選択して[図形オブジェクト]ダイアログボックスを表示し、[条件/明細行]タブで[明細行]の[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]チェックボックスをオンにした後、[明細行(I)]チェックボックスをオンにします。

- 32 手順 30~31 と同様に操作して、“売上日”、“商品名”、“数量”～“金額”の上端にそれぞれ縦罫線を引き、[図形オブジェクト] ダイアログボックスの[条件/明細行] タブで[明細行]の[明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]と[明細行(1)]チェックボックスをオンにします。



- 33 [オブジェクト (B)] メニューの[水平線 垂直線 (V)]メニューコマンドを選択して、“得意先コード”～“金額”の下端に横罫線を引きます。



- 34 [オブジェクト (B)] メニューの [プロパティ (P)] メニューコマンドを選択して [図形オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[条件/明細行] タブで [条件] の [条件] に “明細最終行” を指定します。

図形オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

条件

条件 明細最終行

項目 [1] タイトル

判定値 0 (-32768~32767)

条件式

明細行

明細行(D)

集計行 1 ヘッダ(H)

集計行 2 フッター(F)

集計行 3

集計行 4

集計行 5

集計行 (T)

明細連動 (固定文字 / 図形 / 固定バーコード / 合成オブジェクト)

OK キャンセル



[条件] に “明細最終行” を指定することで、ページの最後の印刷が明細になったときに罫線が印刷されます。集計や総合計がページの最後になったときには、この罫線は印刷されません。

- 35 固定文字オブジェクト “小計” を配置した明細範囲オブジェクトの上端に横罫線を引き、[図形オブジェクト] ダイアログボックスを表示して [条件/明細行] タブで [明細行] の [明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]、[集計行 3]、[フッター (F)] の各チェックボックスをオンにします。

図形オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

条件

条件 無条件印刷

項目 [1] タイトル

判定値 0 (-32768~32767)

条件式

明細行

明細行(D)

集計行 1 ヘッダ(H)

集計行 2 フッター(F)

集計行 3

集計行 4

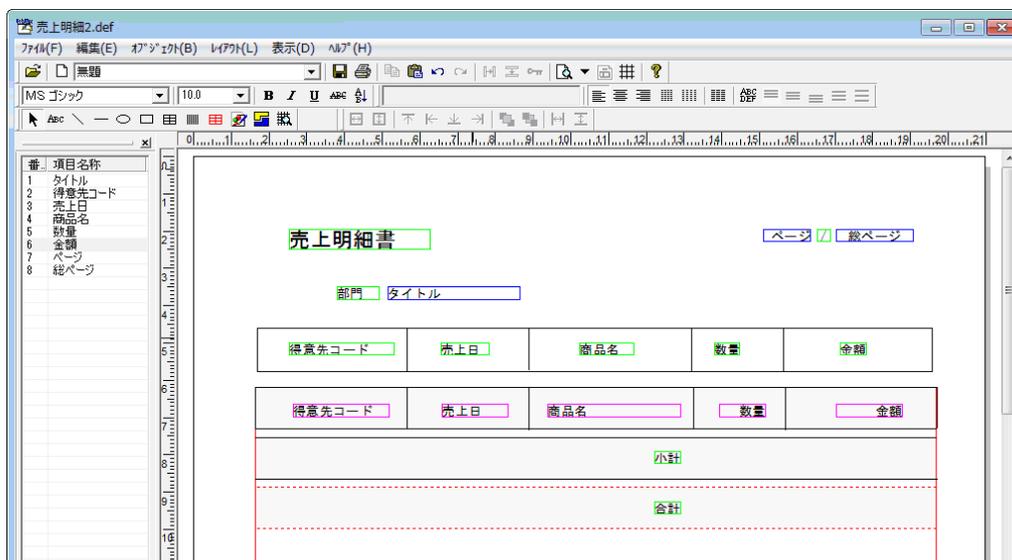
集計行 5

集計行 (T)

明細連動 (固定文字 / 図形 / 固定バーコード / 合成オブジェクト)

OK キャンセル

- 36 手順 35 と同様に操作して、固定文字オブジェクト“小計”を配置した明細範囲オブジェクトの下端に横罫線を引き、[図形オブジェクト] ダイアログボックスを表示して [条件/明細行] タブで [明細行] の [明細連動 (固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)]、[集計行 3]、[集計行 (T)]、[フッター (F)] の各チェックボックスをオンにします。



- 37 [ファイル (F)] メニューの [フォームに名前を付けて保存 (A)] メニューコマンドを選択します。
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



- 38 [フォーム名 (N)] に“売上明細”と指定し、[OK] ボタンをクリックします。



39 ここまでの作業を終えることで、次のようなレポートを印刷できます。

得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500
A0001	2001/3/3	鉛筆	10	1000
A0001	2001/3/3	ボールペン	10	1000
A0001	2001/3/4	ボールペン	20	2000
A0001	2001/3/4	消しゴム	5	250
小計			50	4750
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1000
A0002	2001/3/4	筆箱	5	5000
A0002	2001/3/5	筆箱	6	6000
A0002	2001/3/5	筆箱	10	10000
小計			41	22000
合計			91	28750

40 “得意先コード”、“売上日”、“商品名”の列で同一の内容が繰り返し印刷されて見づらいため、それぞれの列で同一内容が繰り返し印刷されないように修正します。明細範囲オブジェクトに配置した“得意先コード”の上端にある横罫線をダブルクリックして [図形オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[条件/明細行] タブで [条件] に次の値を設定します。

項目名	設定内容
条件	“対象項目の文字列が前レコードと異なる”を指定します
項目	“[2]得意先コード”を指定します

図形オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

条件

条件: 対象項目の文字列が前レコードと異なる

項目: [2] 得意先コード

判定値: 0 (-32768~32767)

条件式

明細行

明細行(D)

集計行 1 ヘッダー(H)

集計行 2 フッター(F)

集計行 3

集計行 4

集計行 5

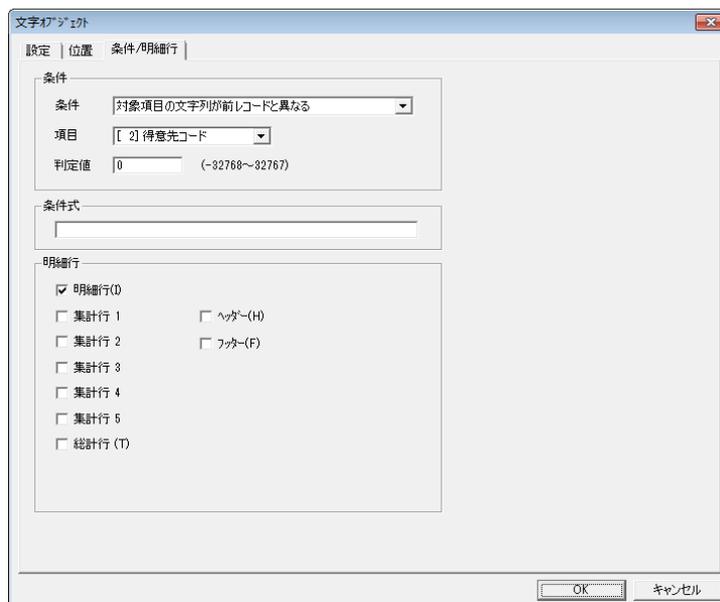
総計行(T)

明細連動 (固定文字 / 図形 / 固定バースコード / 合成オブジェクト)

OK キャンセル

- 41 明細範囲オブジェクトに配置した“得意先コード”をダブルクリックして [文字オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、 [条件/明細行] タブで [条件] に次の値を設定します。

項目名	設定内容
条件	“対象項目の文字列が前レコードと異なる”を指定します
項目	“[2]得意先コード”を指定します



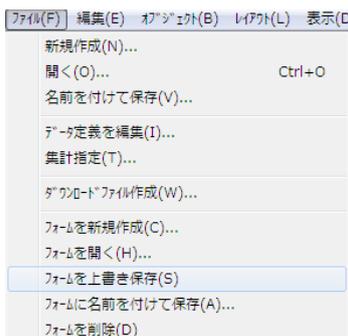
- 42 手順 40～41 と同様に操作して、明細範囲オブジェクトに配置した“売上日”、“商品名”と、それぞれの上端にある横罫線の [文字オブジェクト] と [図形オブジェクト] ダイアログボックスの [条件/明細行] タブの [条件] に次の値を設定します。

オブジェクト名	項目名	設定内容
売上日	条件	“対象項目の文字列が前レコードと異なる”を指定します
	項目	“[3]売上日”を指定します
商品名	条件	“対象項目の文字列が前レコードと異なる”を指定します
	項目	“[4]商品名”を指定します

- 43 [ファイル (F)] メニューの [集計指定 (T)] メニューコマンドを選択して、 [集計指定] ダイアログボックスを表示します。

- 44 [集計 1] と [集計 2] チェックボックスをオンにし、[項目] に “[4]商品名” と “[3]売上日” をそれぞれ指定して、[保存] ボタンをクリックします。

- 45 [ファイル (F)] メニューの [フォームを上書き保存 (S)] メニューコマンドを選択します。



- 46 ここまでの作業を終えることで、次のようなレポートを印刷できます。

得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500
			10	1000
	2001/3/4	ボールペン	10	1000
		消しゴム	20	2000
小計			50	4750
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1000
		筆箱	5	5000
	2001/3/5	筆箱	6	6000
			10	10000
小計			41	22000
合計			91	26750

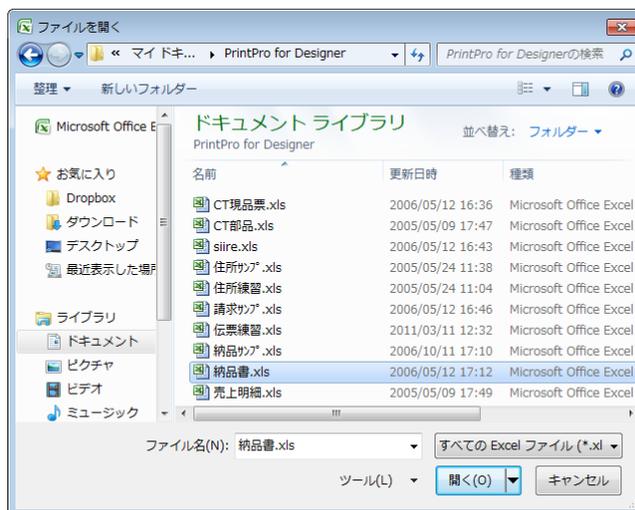
4.5 既存帳票の利用

4.5.1 画像データの利用

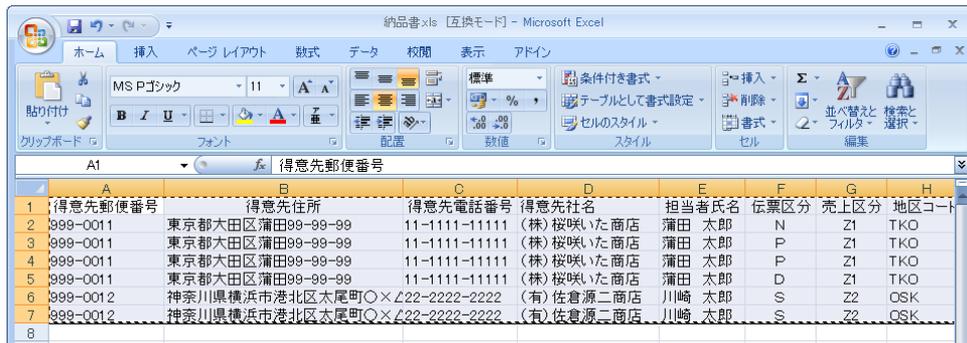
スキャナを使って取り込んだ画像データを元にして、次のような帳票を作成します。

〒999-0011 東京都大田区蒲田99-99-99 TEL: 11-1111-11111 (株)桜咲いた商店 蒲田 太郎 殿		納品書 (控) 24年 1月 18日		コードNo. 1 伝票No. 702371						
		伝票区分 N 売上区分 Z1 地区コード TK0		〒222 区 049-549-0000 横浜市港北区大黒町 × △ 番地 日本ビジネスコンピューター株式会社						
行番	品名	納入数	箱数	納品数量	引合	納入単価	納入金額	上代	受注番号	備考
1	9022SA セキュリティ専用システム	1	5	5		90000	450000		710261	キユーザ
2	J5026 シリアルプリンタ	1	5	5		50000	250000		710262	
3	J5144 レーザープリンタ	1	5	5		80000	400000		710263	
4	7150A1 液晶ディスプレイ	1	5	5		70000	350000		710264	15インチ
		以下余白								
						合計	¥1,135,000			
						総合計	1,191,750			
		黒猫		5	元私	立書				

- 1 Microsoft Excel を起動し、[ドキュメント] フォルダ内の [PrintPro 2.0¥Designer] サブフォルダ内に収められている“納品書.xls”を開きます。

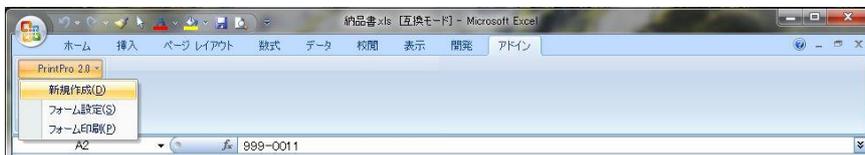


- ワークシート上のすべてのデータを選択し、クリップボードにコピーします。



- [アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [新規作成 (D)] メニューコマンドを選択します。

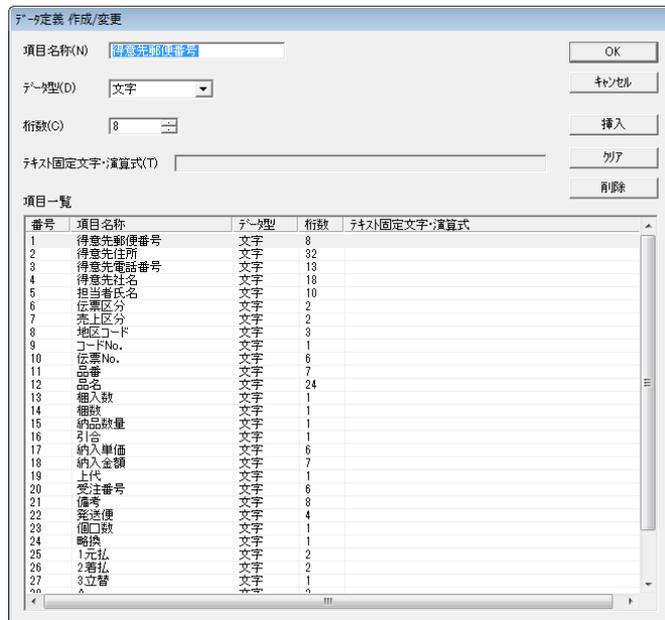
本製品が起動され、[データ定義 作成/変更] ダイアログボックスが表示されます。



[新規作成 (D)] メニューコマンドの詳細については、このマニュアルの「2.6.2 帳票定義ファイルの作成」を参照してください。

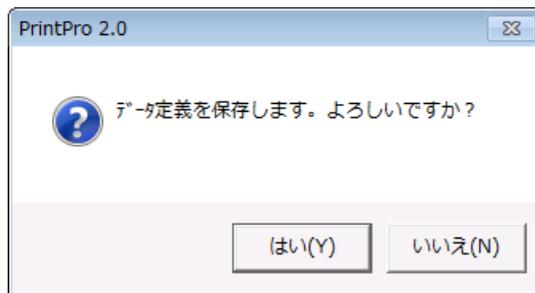
- [OK] ボタンをクリックします。

データ定義の保存を確認するダイアログボックスが表示されます。



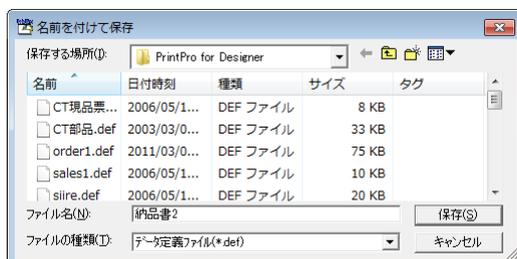
5 [はい (Y)] ボタンをクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



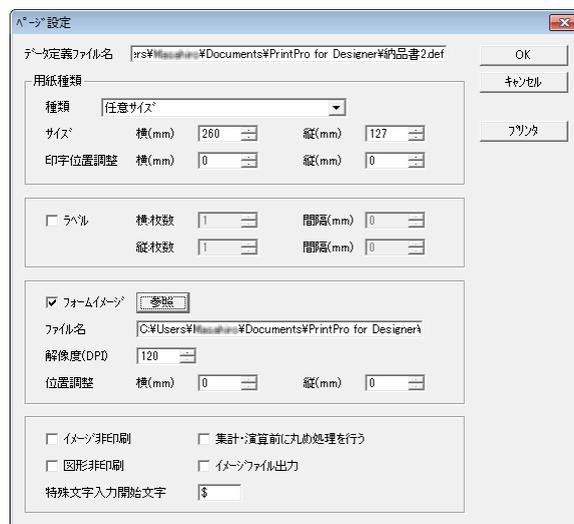
6 [ファイル名 (N)] に“納品書 2”と設定し、[保存 (S)] ボタンをクリックします。

[ページ設定] ダイアログボックスが表示されます。



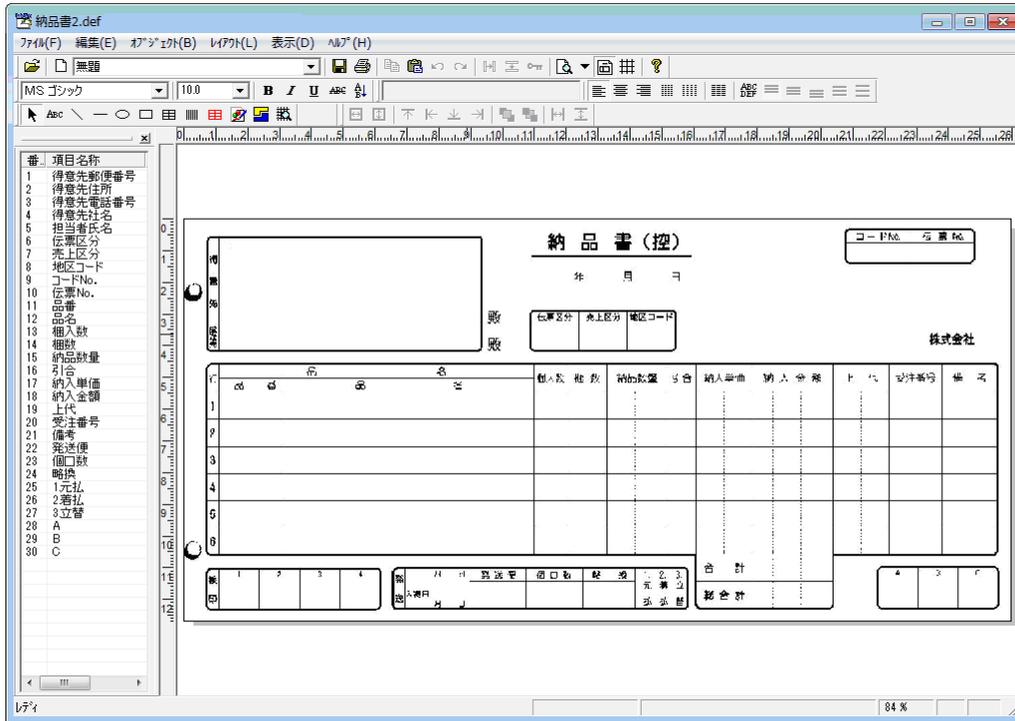
7 [種類] や [サイズ] などの各項目に次の値を設定します。

項目名	設定内容
種類	“任意サイズ” を選択します
サイズ	[横 (mm)] に “260.0” 、 [縦 (mm)] に “127.0” を指定します
フォームイメージ	チェックボックスをオンにし、[参照] ボタンをクリックして、表示された [ファイルを開く] ダイアログボックスで “納品書.jpg” を選択します



- 8 [OK] ボタンをクリックします。

納品書のイメージデータを配置したフォームが画面上に表示されます。



- 9 [オブジェクト (B)] メニューの [罫線抽出 (K)] メニューコマンドを選択します。

[罫線抽出設定] ダイアログボックスが表示されます。



- 10 [OK] ボタンをクリックします。

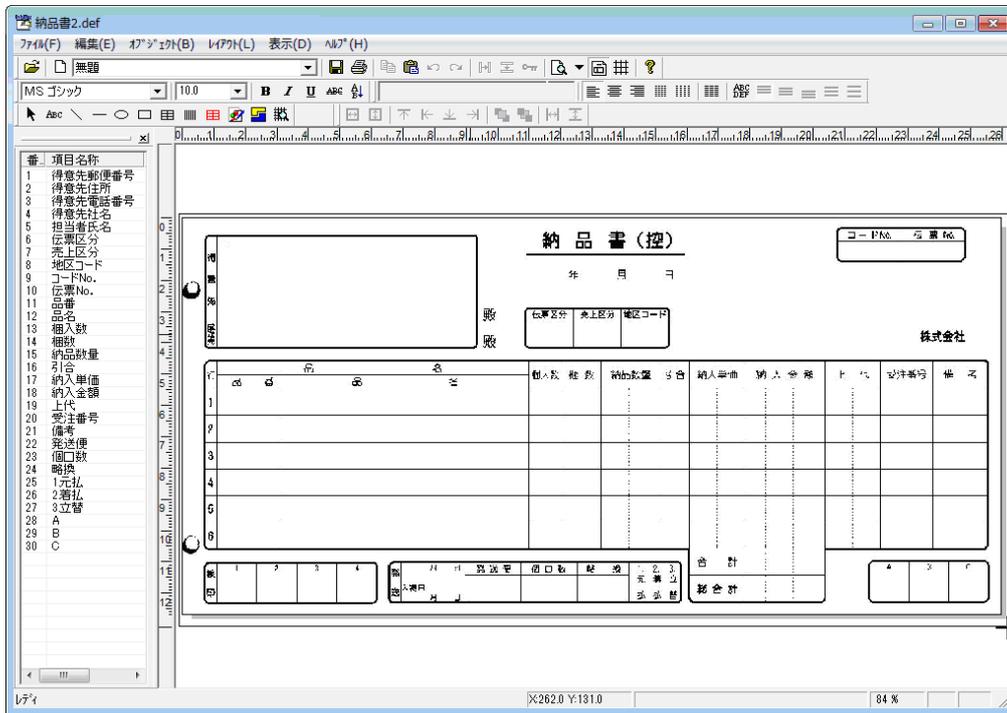
マウスマウスの形状が十字に変わります。



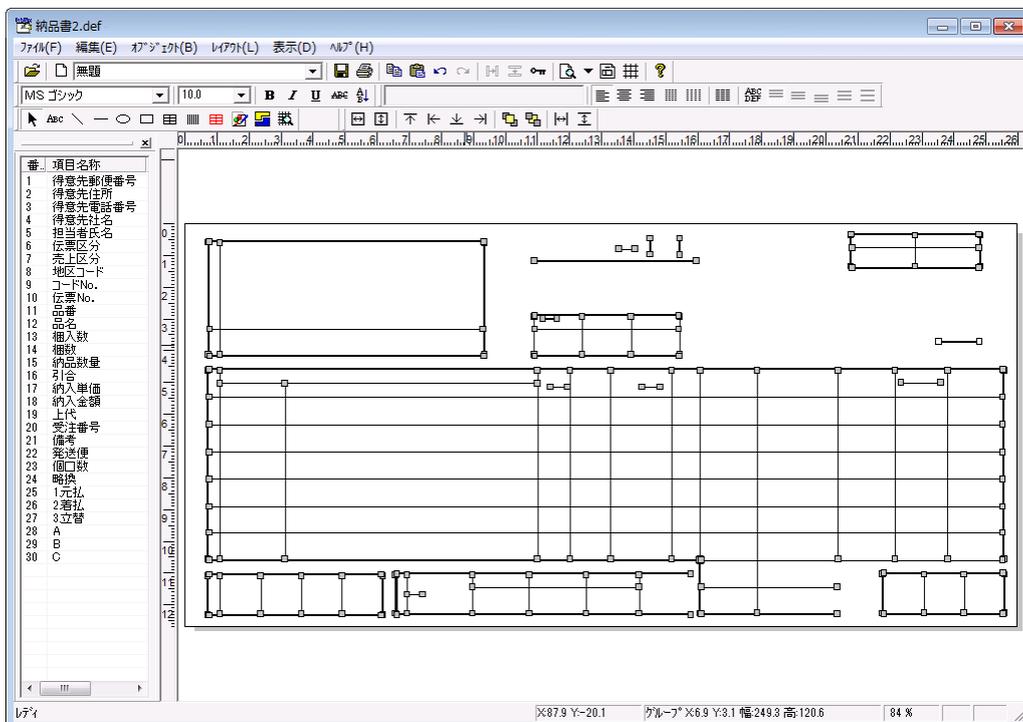
[罫線抽出設定] ダイアログボックスの詳細については、このマニュアルの「2.5.1 画像データからの罫線の抽出」を参照してください。

- 11 納品書のイメージデータ全体を囲むように、十字カーソルを左上から右下にドラッグアンドドロップします。

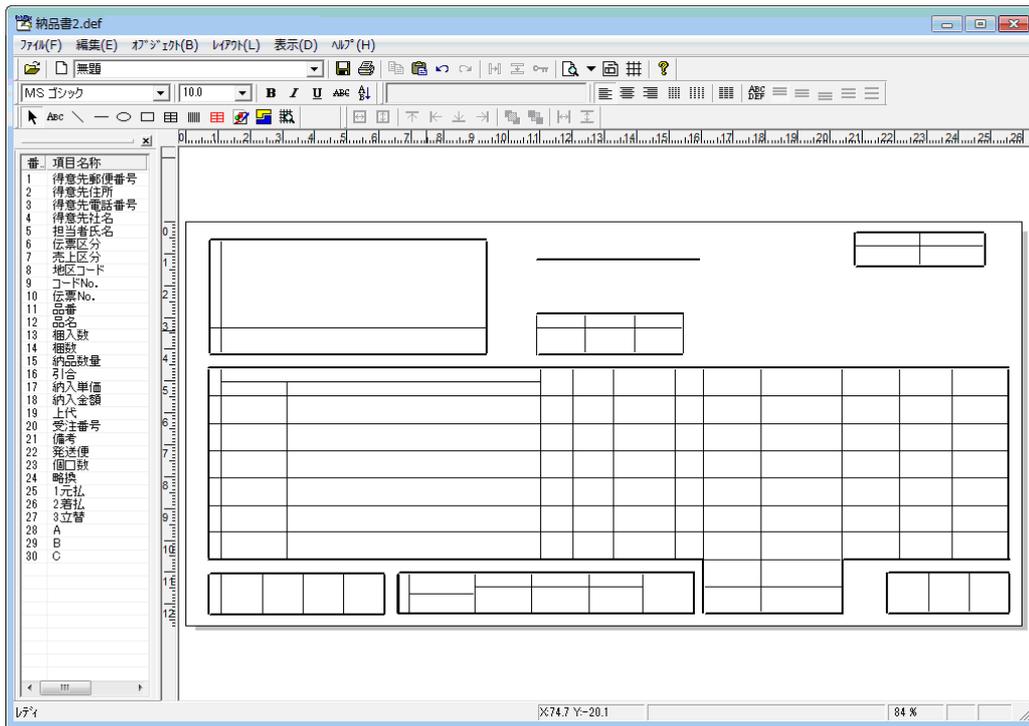
イメージデータから罫線が抽出されます。



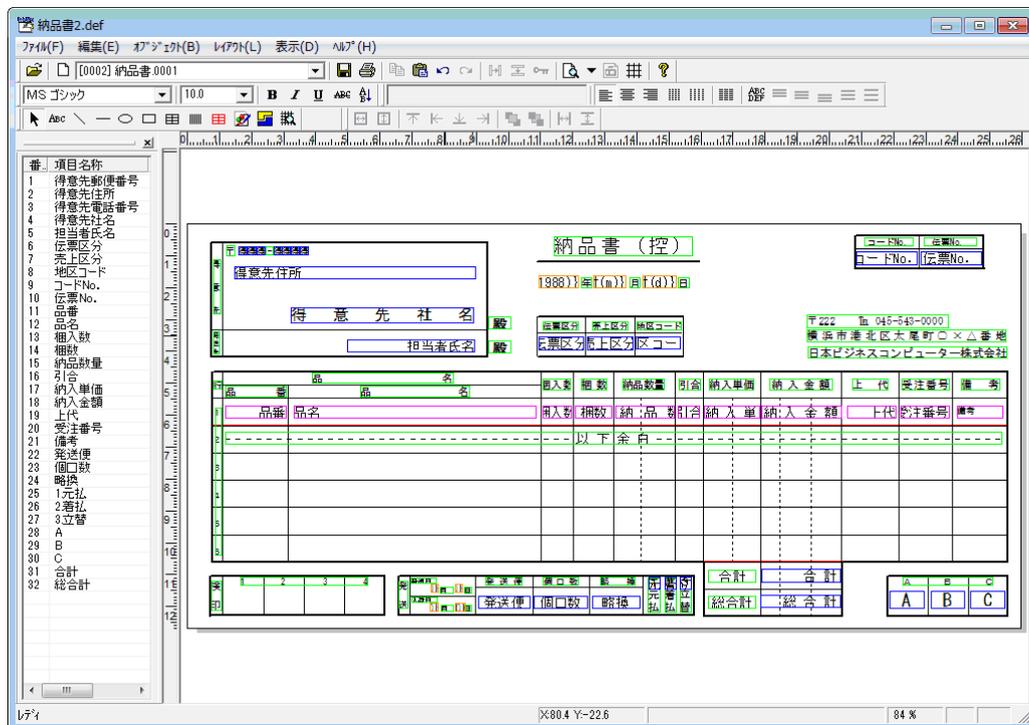
- 12 [表示 (D)] メニューの [フォームイメージ (B)] メニューコマンドをオフにして、納品書のイメージデータを非表示にし抽出された罫線を確認します。



- 13 元の帳票を参照して、不足していたり必要がない水平線/垂直線オブジェクトを修正します。

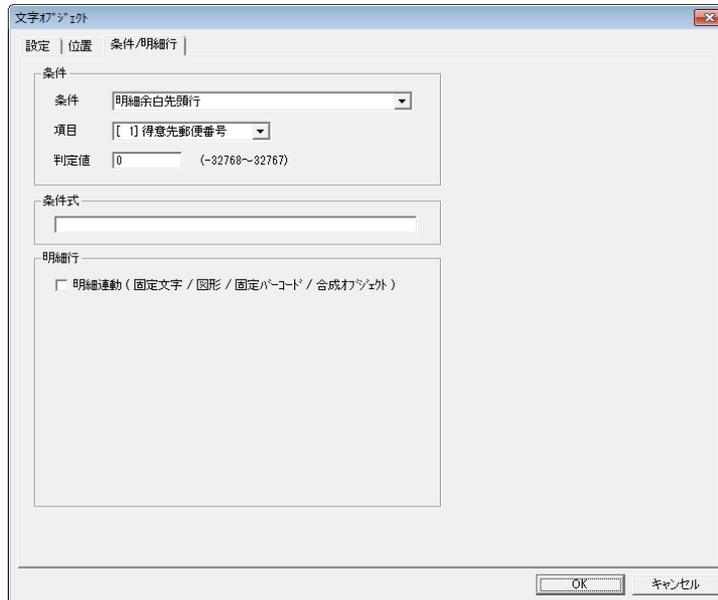


- 14 元の帳票を参照して、明細範囲、明細項目オブジェクト、固定項目オブジェクト、固定文字オブジェクトなどを配置します。

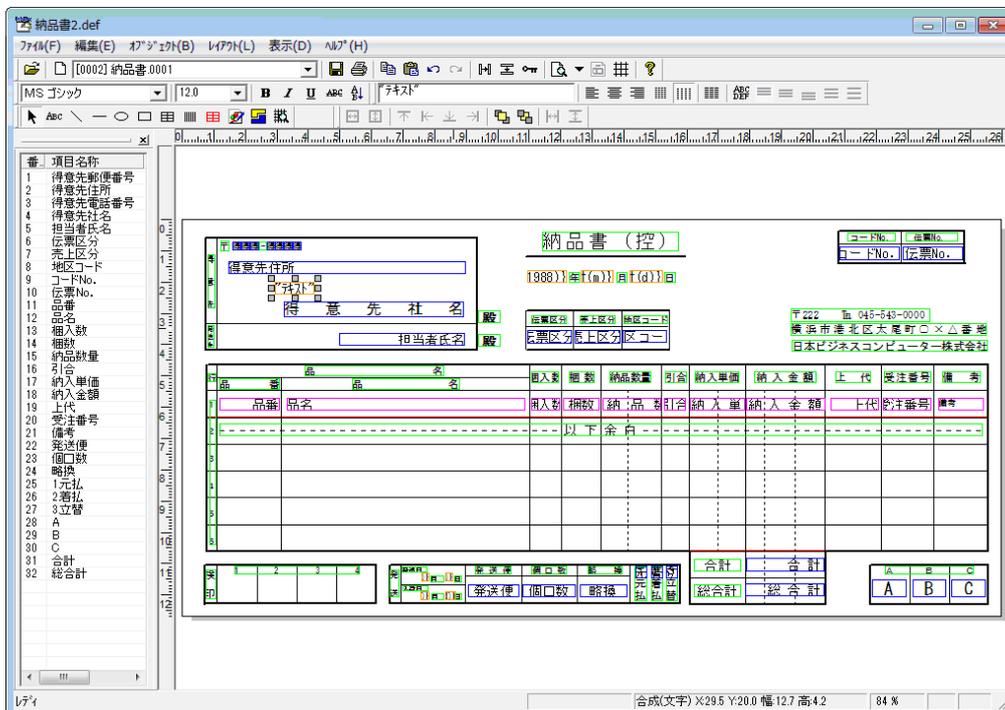




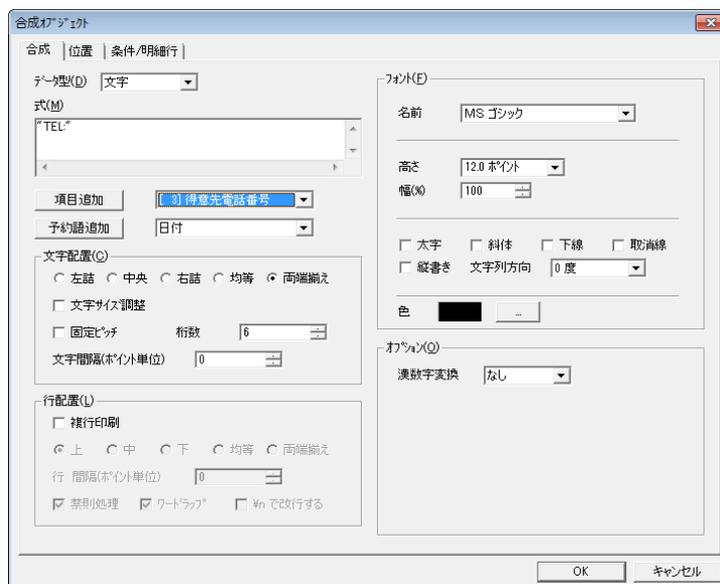
固定文字オブジェクト“――以下余白――”では、[文字オブジェクト] ダイアログボックスの[条件/明細行] タブで[条件]の[条件]に“明細余白先頭行”を指定しています。



- 15 “TEL:”と得意先電話番号をともに印刷する合成オブジェクトを作成するために、[オブジェクト (B)] メニューの[合成 (X)] メニューコマンドを選択し、フォーム上の適切な位置をクリックします。

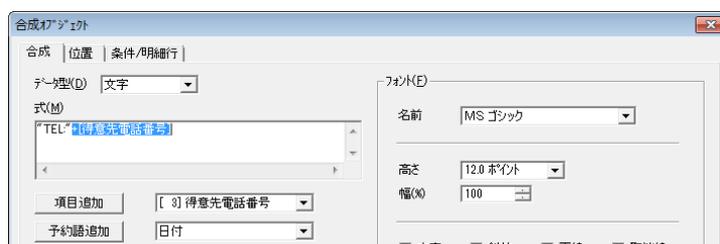


- 16 作成した合成オブジェクトをダブルクリックして [合成オブジェクト] ダイアログボックスを表示し、[式 (M)] に “TEL:” を指定します。



- 17 [項目追加] のコンボボックスに “[3]得意先電話番号” を指定し、[項目追加] ボタンをクリックします。

[式 (M)] に “+[得意先電話番号]” が追加されます。



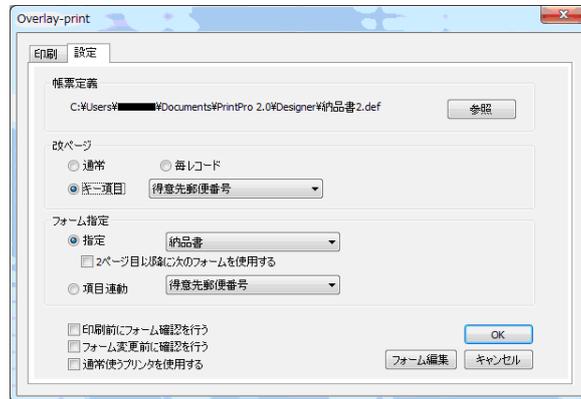
- 18 [OK] ボタンをクリックします。
- 19 [ファイル (F)] メニューの [フォームに名前を付けて保存 (A)] メニューコマンドを選択します。
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
- 20 [フォーム名 (N)] に “納品書” と指定し、[OK] ボタンをクリックします。
- 21 Microsoft Excel の [アドイン] メニューで [PrintPro 2.0] サブメニューの [フォーム設定 (S)] メニューコマンドを選択します。

[PrintPro 2.0 印刷] ダイアログボックスが表示されます。



- 22 [設定] タブで [帳票定義] の [参照] ボタンをクリックして、表示された [ファイルを開く] ダイアログボックスで帳票定義ファイル“納品書 2.def”を選択します。

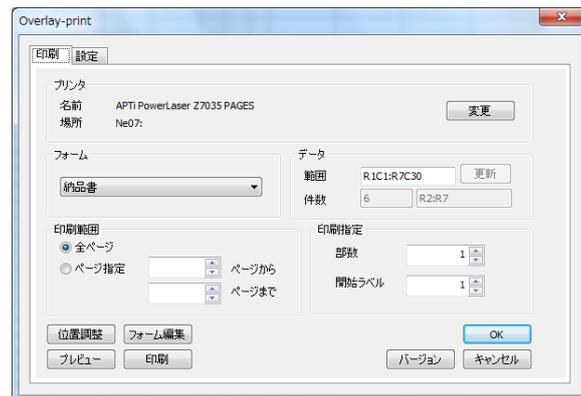
[帳票定義] に“納品書 2.def”のフルパス名が表示されます。



- 23 [改ページ] で [キー項目] オプションボタンを選択し、コンボボックスに“得意先郵便番号”を指定します。

- 24 [印刷] タブで [プレビュー] ボタンをクリックします。

[PrintPro 2.0 プレビュー] 画面が表示されます。



25 表示内容を確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。

